

2018 年度

南山大学自己点検・評価報告書

(研究所・研究センター・委員会・事務組織)

南山大学自己点検・評価委員会

# 2018 年度

## 南山大学自己点検・評価報告書

### (研究所・研究センター・委員会・事務組織)

#### －目 次－

#### <研究所>

・研究所総合委員会.....	1
・南山宗教文化研究所.....	5
・人類学研究所.....	9
・社会倫理研究所.....	13

#### <研究センター>

・地域研究センター委員会.....	18
・アメリカ研究センター.....	22
・ラテンアメリカ研究センター.....	26
・ヨーロッパ研究センター.....	30
・アジア・太平洋研究センター.....	34
・人間関係研究センター.....	38

・言語学研究センター.....	42
・経営研究センター.....	46
・理工学研究センター.....	50
・法曹実務教育研究センター.....	54
・外国語教育センター.....	58
・教職センター.....	62
・体育教育センター.....	66
・国際センター.....	71
・情報センター.....	75
・人類学博物館.....	79

#### <委員会>

・大学評議会.....	83
・大学将来構想委員会.....	84
・キャンパス整備計画委員会.....	85
・個人情報保護委員会.....	86
・兼業審査委員会.....	87
・コンプライアンス室.....	88
・インスティテューショナル・リサーチ（IR）推進委員会.....	89

・ハラスメント問題対策委員会.....	90
・キリスト教センター運営委員会.....	93
・SD委員会.....	94
・予算委員会.....	95
・入学試験委員会.....	96
・試験運営委員会.....	97
・入学試験広報委員会.....	99
・大学院入学試験委員会.....	100
・大学院入学試験運営委員会.....	101
・学生委員会.....	102
・保健管理委員会.....	106
・保健センター.....	107
・教務委員会.....	113
・全学カリキュラム委員会.....	118
・共通教育委員会.....	119
・基盤・学際科目委員会.....	122
・人間の尊厳科目委員会.....	123
・宗教教育委員会.....	124
・博物館学芸員養成課程委員会.....	126

・教職センター委員会.....	127
・司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会.....	128
・外国語教育センター委員会.....	129
・大学院教務委員会.....	133
・就職委員会.....	136
・キャリアサポート委員会.....	137
・国際センター委員会.....	138
・情報センター運営委員会.....	139
・南山エクステンション・カレッジ委員会.....	141
・図書館委員会.....	142
・自己点検・評価委員会.....	144
・内部質保証推進委員会.....	145
・パツへ研究奨励金配分委員会.....	146
・FD委員会.....	147
・研究審査委員会.....	149
・大学院委員会.....	151
・南山学会.....	152

<事務組織>

・ 事務部長会議.....	153
・ 学長室.....	154
・ 総務部.....	155
・ 総務課.....	156
・ 人事課.....	158
・ 経理課.....	159
・ 施設課.....	160
・ 学務部.....	161
・ 入試課.....	163
・ 学生課.....	165
・ 教務課.....	171
・ キャリア支援課.....	173
・ 国際センター事務室.....	174
・ 教育・研究事務部.....	175
・ 学事課.....	177
・ 南山エクステンション・カレッジ事務室.....	178
・ 図書館事務課.....	179
・ 情報センター事務室.....	181
・ 教育・研究支援事務室.....	183

		研究所/研究センター等名称	研究所総合委員会		氏名	金 承 哲				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	三つの研究所においては、それぞれの研究組織の適切性について常時再確認をしている。また、大学の理念と目的に沿った運用を行っているかについても、適宜自己批判できな検討を行っている。	各研究所で開催される研究会などを通して、参加者らに研究所の歴史や活動などを知らせる度に、研究所の理念・目的について理解してもらっている。	研究所の専任スタッフ数が4名(うち2名が任期付)と極めて限られた中で、こうした社会連携・貢献活動を持続的に展開していくためには、研究を実質的に遂行するための時間確保と、休日の業務負担の間で、適切なバランスをとることが必要である。(社倫研)	A	刊行物の出版を研究活動の基礎に位置づける。現在編集作業にかなりの時間がかかっており、それを効率化するために、編集作業の一部を外注する方法を検討する。所長、第一種研究所員が見積もりを取り、可能な方策を考える。(人類研) 「南山宗教文化研究所研究員奨励基金」による研究員制度の安定的な運営のための、基金運営の充実化が引き続き必要である。(宗文研) 現行の研究プロジェクトを2019年度も継続的に、かつ質を落とさず実施していくとともに、イベント実施や刊行物編集に加えて、新しい研究所活動を構想する。(社倫研)	まずは第一種研究所員の労務状況把握し、点検・評価するための客観的なデータづくりを行う。その上で、適切な労務管理のあり方について、研究所全体で協議し、案を検討する。(社倫研)	『時報しやりんけん』第12号(2019年春学期刊行予定)  社会倫理研究所ウェブサイト <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/</a>

		研究所/研究センター等名称	研究所総合委員会		氏名	金 承 哲			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。 人類学研究所の人事枠は2016年度まで1.5枠であった(6-②-1)。2017年度より2枠となり、うち1名はAsian Ethnologyの編集者である(6-②-2)。(人類研) 本研究所の組織は、宗教学、仏教学、キリスト教神学といった領域を専門とする研究者を第一種研究員として配置し、理念・目的に照らして適切である。(宗文研) 現状は任期なし2名(1名は所長を兼任、1名はB枠)、任期あり2名の計4名の第一種研究員で研究所活動を進めている。組織運営に必要な人員を満たすため、ここしばらくは1つのポストを2つの有任期ポストとして運用しているが、5年単位で人事計画を立てざるをえない状況である。そのなかで、かろうじて、それに即した教員の組織編成ができている。(社倫研)	それぞれの研究所では、任期満了や退職などによって欠員が生じないように人事計画を立てて実施している。(社倫研)	研究所のより効果的な研究活動のために所員の定員の増加を望んでいる。(社倫研)	A	第一種研究員の負担が過剰にならないように、第二種研究員の役割を明確にする。(人類研・社倫研)	特になし	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。						



			研究所/研究センター等名称	研究所総合委員会	氏名	金 承 哲		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。					
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。					

		研究所/研究センター等名称	研究所総合委員会		氏名	金 承 哲				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	各研究所においては、それぞれの研究活動を行うにあたって、研究所のホームページやウェブ・ジャーナル等を積極的に活用して、研究成果を社会に公開するために努めている。	一般の社会人にも参加できるような映画上映会、フェスなどを公開し(人類研)、または講演録を作成し一般人に配布する(社倫研)。また、若手研究者に呼び掛けて研究会を年に数回開催する。(宗文研)	特になし	A	三研究所共にホームページやウェブ・ジャーナルを通して研究成果を社会に公開することに努めている。	特になし	人類文化研究所ホームページ (http://rci.nanzan-u.ac.jp/jinruiken/)、南山宗教学文化研究所ホームページ (https://nirc.nanzan-u.ac.jp/ja/)、社会倫理研究所ウェブページ (http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/)
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	公開シンポジウムなど、一般に公開される行事を行い、参加者の意見をアンケートなどの手段をとって把握している。	第一種研究所員以外の研究者(客員研究所員や非常勤研究員)との連携を強化して、研究所の活動の幅を広げる。	特になし	A	アンケートの内容を綿密に検討することにより、今後の研究所の活動の方向性や内容についての計画を樹立するにあたって参考にしている。	特になし	人類文化研究所ホームページ (http://rci.nanzan-u.ac.jp/jinruiken/)、南山宗教学文化研究所ホームページ (https://nirc.nanzan-u.ac.jp/ja/)、社会倫理研究所ウェブページ (http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/)

		研究所/研究センター等名称	南山宗教文化研究所		氏名	金 承 哲				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	南山宗教文化研究所は、「1 宗教・文化一般、特に日本を中心とする東洋の宗教・文化に関する学際的研究、2 キリスト教と諸宗教との相互理解の促進、3 研究者の養成」を目的として設立された。本研究所の研究活動は、このような設立目的を実現する方向で運営されており、その運営の適切性についての自己点検は、毎年度に発行される『所報』や『Bulletin』に発表される研究成果をもって行われている。	海外から南山宗教文化研究所への訪問、滞在、客員研究所員としての所属の依頼などが恒常的にあることから、当研究所の理念・目的についての認識が海外においていっそう拡大していると考えられる。	理念・目的の設定については、特に改善すべきとは認識していない。	A	訪問研究者に対応するための研究室スペースの確保、共同研究の依頼にさらに積極的に対応するための、第一種研究所員のみならず、非常勤研究員、客員研究所員の研究活動への参加機会の増大などが方策として考えられる。	特になし	

			研究所/研究センター等名称	南山宗教文化研究所	氏名	金 承 哲					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料				
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編成ができていますか。	本研究所の組織は、宗教学(一人)、仏教学(二人)、宗教心理学(一人)、キリスト教神学(一人)といった領域を専門とする研究者を第一種研究所員として配置し、理念・目的に照らして適切である。	2015年度から始まった「南山宗教文化研究所研究員奨励基金」の運営が軌道にのり、本年度は二人の研究員の採用が実現した。	特になし	A	「南山宗教文化研究所研究員奨励基金」による研究員制度の安定的な運営のための、奨励金を寄付してくれる米国神言会と緊密に連絡関係を維持することで基金運営の充実化を引き続きはかる。	該当なし		
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。	該当なし							
		⑤ 教員組織の適切性について定期的点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	第一種研究所員の研究と現行学界の研究動向とを定期的に照らし合わせることによって、客員研究所員や非常勤研究所員の任用の効果を高める。	特に宗教研究にとどまらない、日本、アジアの文化研究についても、第一種研究所員による文学研究等の実績に加え、近年では各種研究員としての在籍者による日本学、中国研究、美術史、宗教社会学、文学と映画、宗教間対話の研究も進展している。	特になし	A	国内外から潜在研究活動のために来所する研究者らとの連携をより緊密にするために、「所内ゼミ」や「南山宗教学研究会」を活性化し、さらにその研究成果を『所報』や『Bulltine』により積極的に掲載するようにする。	特になし		

		研究所/研究センター等名称	南山宗教文化研究所		氏名	金 承哲			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

		研究所/研究センター等名称	南山宗教文化研究所		氏名	金 承哲				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	本研究所の活動目標である学術的会議の開催や公開講座、公開講演会等多くの研究者を招聘し研究会を開催するように努めると同時に、その研究活動や研究成果を社会に公開している。	近隣の宗教研究者を招いて南山宗教学研究会を年3～4回開催しており、一般向けの読書会(「遠藤周作を読む会」)を毎月行っている。	左の活動をより広く知らせるために努める。	A	客員研究所員の研究活動や成果を伝えるために、既存の研究会や懇話会をより積極的に開催する。また、参加者の専門分野の多様化に努める。	大学のホームページや本研究所のホームページにその内容を随時掲載するようにする。	南山宗教文化研究所ホームページ ( <a href="https://nirc.nanzan-u.ac.jp/ja/">https://nirc.nanzan-u.ac.jp/ja/</a> )
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	研究所所員会議や所員ランチにおける懇談会などを利用して、その都度の研究活動の計画や内容について緊密に意見交換をしている。	今まで客員研究員は、主に自分の研究に集中していたが、客員研究員を中心とする公開研究会を開催することにより、その研究活動がより多くの研究者らと共有することになった。	特になし	A	左に記載した活動をより活発化するために、公開研究会をより頻繁に開催するように努める。	該当なし	

		研究所/研究センター等名称	人類学研究所	氏名	渡部 森哉					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	人類学研究所は「1 アジアを中核とし、その比較として世界諸地域の諸民族の文化を研究対象とする人類学的研究 2 地球環境が危機的局面に置かれているという認識の下に、これらの諸地域における資源管理・生存基盤・社会・思想宗教面に関する現代的諸問題の解決を視野に入れた特定研究」を目的としている(3-②-1)。 年度初めの研究所所員会議で前年度の自己点検・評価報告書を検討し、その内容を今後の活動計画に反映させている(3-②-2)。	2018年度には多くの出版物が刊行された。 Asian Ethnology 77巻 年報人類学研究 9号 人類学研究所論集6-8号 ブックレットVol. 4, 5	特になし	A	刊行物の出版を研究活動の基礎に位置づける。現在編集作業にかなりの時間がかかっており、それを効率化するために、編集作業の一部を外注するなどの方策を検討する。所長、第一種研究所員が見積もりを取り、可能な方策を考える。	特になし	3-②-1「南山大学人類学研究所規定」 3-②-2「南山大学人類学研究所2018年度第1回所員会議議事録」

		研究所/研究センター等名称	人類学研究所		氏名	渡部 森哉			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。	人類学研究所の人事枠は2016年度まで1.5枠であった(6-②-1)。2017年度より2枠となり、うち1名はAsian Ethnologyの編集者である(6-②-2)。	2019年度4月付で研究所の目的に合致する専門分野の第一種研究員を採用することができた。	特になし	第一種研究員の負担が過剰ならぬよう、第二種研究員の役割を明確化する必要がある。	特になし	6-②-1「授業(講義・ゼミ)負担コマ数の少ない専任教員の扱い(覚書)」(2014年10月27日、および2016年7月4日開催協議会協議資料)6-②-2「人類学研究所と人類学文化学科の協力関係について」(2019年4月15日人類学研究所員会議資料)
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。						



			研究所/研究センター等名称	人類学研究所	氏名	渡部 森哉	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準7	学生支援	<p>② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。</p>	<p>(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。</p>				
		<p>③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>				

		研究所/研究センター等名称	人類学研究所		氏名	渡部 森哉				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	人類学研究所で開催するシンポジウム、学会(AJJ)、講演会、映画上映会、人類学フェスは一般公開を基本としている。さらに人文学部人類文化学科と共催の人類学フェスティバルでは、所員の研究成果のみならず、学科生の学習成果を地域社会に還元する橋渡しをしている。また、学術誌「Asian Ethnology」(以下、AE略)のウェブページの新構築、および展開をおこなっている。それに関連し、AEに貢献した方など人類学において注目されたテーマを中心にインタビュー形式でおこなったPodcastの展開をおこなっている。	映画上映会、人類学フェスには毎回多くの一般参加者がある。またシンポジウム、講演会にも一般参加者が参加することがある(9-②-1)。またAEでは、独自のWebpage展開により、PDFのみならずいかなる媒体からも解読可能にした(ブラウザで閲覧)。さらに、SNSを通しAE vol. 77、及びPodcastの即時通知が可能とし、パブリシティにも貢献した。	AEにおいては、Podcast, webpageにアクセスしたデータを分析し双方向な議論、発表へと展開する必要がある。	A	一般参加者が情報を得やすい媒体でイベントの宣伝をする必要がある。新聞、facebookなど効果的な方法を検討する。また、今年度の人類学70周年を記念し、Podcastにおいて、AEの人類学的な貢献、歴史など日本語でのインタビュー形式で発表することを検討する。	特になし	9-②-1「人類学研究所所員会議議事録」および研究所のwebページに書くイベントの参加者数を記載している。
	社会連携・社会貢献	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	公開シンポジウムや映画上映会では参加者にアンケートを実施している。	担当者がアンケートをチェックし、次回のイベントの改善に役立っている。	特になし	A	アンケートを記述しない参加者には口頭で感想を聞き、それを記録する方法も考える。	特になし	

		研究所/研究センター等名称	社会倫理研究所	氏名	奥田 太郎				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	
基準3	教育研究組織	<p>② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>(1) 「キリスト教世界観に基づく学校教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成」という建学の理念に沿った活動を行っている。社会倫理研究所の専任スタッフ(第一種研究員)は、主に共通教育科目を担当し、様々な学部/学生の学生に対して「人間の尊厳」をテーマとする授業を受け持っているのはもちろん、研究所活動のなかでも、学生向けのトークセミナーを実施する等、研究所の研究成果や人脈を教育に還元する取り組みも行っている。また、研究所主催の懇話会・シンポジウムを通じて、広く社会に対して上記理念を実現する試みをしている。「Hominis Dignitatis」という本学のモットーは、当研究所の設立理念でもあり、当研究所で実施中のすべての研究プロジェクトがそこへと向かっている。</p> <p>(2) 当研究所では、一つ一つの事業を進める際にその都度、専任スタッフでその内容が上記理念に合うかどうかを検討している。また、年度ごとに研究所活動の詳細を『時報しゃりんけん』というタイトルの所報の形で文書として記録し公表することで、その適切性について広く世に問うている。</p>	<p>当研究所では、教育研究組織に関して、次の2つの到達目標を設定している。</p> <p>【到達目標A】当研究所を起点として、南山大学の学生が「人間の尊厳」を基礎に据えた学識を身につける。</p> <p>【到達目標B】社会倫理に関連する研究活動を効果的に遂行し、得られた研究成果を社会的に発信・還元する。</p> <p>《Aに関わる評価》当研究所の専任スタッフが年間6コマ分の共通教育科目を受け持ち、学生向けトークセミナーを5回(参加学生数総計961名)開催した。学部や専門性を異にする多様な受講者に対して授業を行うことで、人間の尊厳に関する基礎知識を学生に提供し、かつ、学際的な共同研究を進めるうえで必要な着想も得られた。</p> <p>《Bに関わる評価》「レジリエンスの社会的基盤の構築」という明確な指針の下、主に3つの研究プロジェクトを進めた。それぞれが構築する国内外の学際的/超学際的な研究ネットワークを通じて、さらに、プロジェクト間での相互連関性がより明確になった。進捗状況を随時スタッフ間で確認する等、きわめて透明性の高い公正な組織運営とガバナンスが実施されている。</p>	<p>《Bに関わる評価》第一に、当研究所は学外のみならず、学内での共同研究を促進するプラットフォームとしての役割を果たすよう目指しているが、それは未だ十分に達成されていない。その目標の実現に向けては、第一種研究員、第二種研究員、および研究所事務との緊密な連携をさらに深めていくことが必要である。</p> <p>第二に、研究所の用務として懇話会等のイベントが休日に実施されているが、そうした休日出勤による負担を適切に評価し、研究活動に支障が出ない労務管理を行う必要がある。研究所はもとより社会連携・貢献活動を一環として種々のイベントを休日に開催しており、それを平日に差し替えることは、一般市民のニーズ充足の観点からすると本末転倒である。研究所の専任スタッフ数が4名(うち2名が任期付)と極めて限られた中で、こうした社会連携・貢献活動を継続的に展開していくためには、研究を実質的に遂行するための時間確保と、休日の業務負担の間で、適切なバランスをとることが必要である。</p>	<p>《Aに関わる方策》これ以上の業務を量的に増やすことは難しいが、質的な向上は可能である。質的な効果の伸長という目標に対しては、定量的な基準や数値目標を設定することは難しいが、さしあたり、各授業の学生による授業評価や、学生からのフィードバックの内容を基にして、年度毎にそれぞれの担当教員(運営責任者)が、自身の内省と所員相互のコミュニケーションを通じて内容を点検・評価し、内容の更なる質的拡充を図る。</p> <p>《Bに関わる方策》現行の研究プロジェクトを2019年度も継続的に、かつ質を落とさずに実施していくとともに、イベント実施や刊行物編集に加えて、新しい研究所活動を構想する。さしあたり、当研究所が設立40周年を迎える2020年度をめぐり、当研究所専任スタッフを中心となつて、学内外の研究者と連携しながら、新たな形態での共同研究体制を構想する。</p>	<p>《Bに関わる方策》第一に、当研究所が学内の共同研究を推進する上でプラットフォームの役割を果たすために、まずは第二種研究員とのより緊密な連携を深めることが必要となる。そのためには、学部教員(第二種研究員)が当研究所との共同研究に費やす時間を、他の業務と同等に取り扱う制度的措置が求められる。例えば、入試業務や各種委員会業務の負担と同様に、学内の重要業務に従事する者として全学的に認定してもらうことが最終的には望ましい。学内での共同研究が活性化することは、将来の南山大学の研究水準と研究成果の発信力の向上につながるが、結局は教育水準の向上に加えて、まずは現行の第二種研究員との間で、2019年度に所長室のミーティングスペース等を活用して研究交流の機会をつくる。</p> <p>第二に、まずは第一種研究員の労務状況を把握し、点検・評価するための客観的なデータづくりを行う。その上で、適切な労務管理のあり方について、研究所全体で協議し、案を検討する。</p>	<p>『時報しゃりんけん』第12号(2019年春学期刊行予定)</p> <p>社会倫理研究所ウェブページ http://rei.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/</p>

		研究所/研究センター等名称	社会倫理研究所		氏名	奥田 太郎		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	<p>(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。</p> <p>現状は任期なし2名（1名は所長を兼任、1名はB枠）、任期あり2名の計4名の第一種研究員で研究所活動を進めている。組織運営に必要な人員を満たすため、こしはらしくは1つのポストを2つの有任期ポストとして運用しているが、5年単位で人事計画を立てざるをえない状況である。そのなかで、かろうじて、それに即した教員の組織編成ができている。</p>	<p>当研究所は、教員・教員組織について以下の到達目標を掲げている。 【到達目標A】専任スタッフには、研究員（第一種研究員、B枠含む）がいることが望ましいが、現状では、任期なし1名分を任期付き2名分として凌いでいる。当研究所は、同一の専門をもつ者の集団ではなく、多領域の専門家（現在は、哲学、環境経済学、行政学、国際人権法）が日常的に議論を重ねながら新たな学際領域を構築する形で活動を展開する性格をもつ集団であるため、軸となる専任スタッフが（所長1名を除いて）最低3名は必要である。たとえば、スタッフの半分が5年の任期であることは、研究所の長期計画を立てることを妨げている。当研究所は、2003年よりスタッフを刷新して再スタートしたが、これまで15年間の活動実績のなかで上記の認識に至った。</p> <p>《Aに関わる評価》研究所専任である第一種研究員の人事採用（任期つき含む）については、このところ継続的に、適切な人物を採用することができている。実際に、現状のスタッフの任用によって研究所活動が活性化している様子は、所報『時報しやりんけん』および学術誌『社会と倫理』のここ数年分の内容に見出すことができる。</p> <p>《Bに関わる評価》事務スタッフと専任研究員との情報共有の場と、専任研究員同士の情報共有の場を頻繁に設け、教員の組織編成について検討することが必要であるが、現在は定期的実施することができ、業務の量とそれに見合う人員について確認している。</p>	<p>B</p>	<p>《Aに関わる方策》今後も、第一種研究員の任用に当たっては、研究所活動に相応しい量と幅広い関心を有する適切な人物を採用できるように努める。</p> <p>《Bに関わる方策》現職の第一種研究員の間で、仕事の現況や見通しなどを常に共有することで、これまで通り、相互にエンカレッジし合う環境を保持していく。</p>	<p>《Aに関わる方策》現在の研究所に割り当てられた専任スタッフの枠は、活動内容に即して合理的に定められたものではない。研究所として一定の質と量の活動を展開するためには、最低限必要な人数というものがある。当研究所については、現状任期付きの所員でその分を補っている状況であるが、任期付きであると長期的な組織運営をすることが難しくなるため、あと1名の専任枠追加が妥当であると思われる。あるいは、学部との兼任スタッフである第二種研究員に対して、第二種研究員としての立場を入試業務等と同等に重み付け、他の業務割り当てを軽減する等の措置をとることで代替することも可能かもしれない。</p>	<p>『時報しやりんけん』第1号～第11号 『社会と倫理』第20号～第33号 社会倫理研究所ウェブサイト <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/</a></p>
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。						

		研究所/研究センター等名称	社会倫理研究所		氏名	奥田 太郎				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料			
					<p>⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>個人での研究活動、共同研究に加え、研究所員と事務職員との間の役割分担の見直し、相互の連携の取り方の再検討、不要な作業の洗い出しと行程の再編成などを適宜行っている。各種イベントの企画運営や、各種刊行物の企画編集刊行などの作業を終えるごとに、どの程度の作業が必要かを見直すことで、業務と必要な人員のバランスについて常に検討している。</p> <p>《Aに関わる評価》研究所専任の研究所員（第一種研究所員）がそれぞれに組み組んでいる研究テーマについて、日常的なミーティングを通じて相互に共有し合い、全員に共通するキーコンセプトや原理を模索しながら日々活動することで、研究所における専門性の構成がどのようなかを研究所員全員が把握している。これにより、研究所員ひとりひとりが研究所全体のあり方について考える視点を保持することを促し、組織の編成方針に関する実質的な議論（＝検証）をスタッフ全員で日常におこなうことが可能になっている。</p>	<p>当研究所は、教員組織の編成方針の検討に対して次のような到達目標を置く。 【到達目標A】それぞれが自分の研究だけを進めるのではなく、異なる領域の研究者が一定のコミットメントをもって相互に関わることで、すべてのスタッフが研究所全体を見渡す視野をもつ。 【到達目標B】内輪・トップダウンの意思決定に陥らないように、学内兼任の第二種研究所員および学外の非常勤研究員に実質的な関わりをもってもらう。</p> <p>《Aに関わる評価》研究所専任の研究所員（第一種研究所員）がそれぞれに組み組んでいる研究テーマについて、日常的なミーティングを通じて相互に共有し合い、全員に共通するキーコンセプトや原理を模索しながら日々活動することで、研究所における専門性の構成がどのようなかを研究所員全員が把握している。これにより、研究所員ひとりひとりが研究所全体のあり方について考える視点を保持することを促し、組織の編成方針に関する実質的な議論（＝検証）をスタッフ全員で日常におこなうことが可能になっている。</p>	<p>《Bに関わる評価》学部との兼任スタッフである第二種研究所員、および、学外のスタッフである非常勤研究員との連携をより効果的なものにしていく必要がある。そのためには、特に第二種研究所員が研究所に関わる機会を増やす必要がある。</p>	<p>自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>

		研究所/研究センター等名称	社会倫理研究所		氏名	奥田 太郎			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。						
		③ 学生支援の適切性について定期的な点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。						

		研究所/研究センター等名称	社会倫理研究所		氏名	奥田 太郎			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等) 記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等) 記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	当研究所は、2003年以降、主催する学術イベントを一般公開で継続的に開催しており、その時々話題になったトピックだけでなく、「人間の尊厳のために」根本的なところから考えなければならないトピックについても取り上げて、教育研究成果の社会的還元を試みている。また、当研究所が刊行する学術誌『社会と倫理』、所報『時報しやりんけん』、シンポジウム講演録などは、紙版を希望者に無料配布したうえで、ウェブ版を公開している。社会倫理研究奨励賞も社会倫理に関する若手の学術研究を支援する目的で実施しており、2018年度で12回目を迎えている。さらに、学生に対しては「しやりんけんトークセミナー」を実施し、学生が社会に出た際に有用な情報を得る機会を提供している。なお、東海エリアで哲学カフェの実践をおこなう人たちの寄り合い場である「哲学横丁ごや」にも加盟し、地域で哲学カフェを実践している人たちの連携の場を提供しているほか、研究所スタッフが自発的に実施している社会倫理研究プラットフォームで学術専門家と実務専門家などをつなぐ超学際的な対話の場を設けている。	当研究所は、社会連携・貢献について次のような到達目標を掲げている。 【到達目標A】学術的に重要であり、かつ、社会的にも関心が高いテーマをめぐる学術イベントを定期的に実施する。 【到達目標B】学術的な水準と一般読者への訴求力を兼ね揃えた学術刊行物を広く公開する。 《Aに関わる評価》本年度は上智大 学生命倫理研究所との共催シンポジウム「Stranger Ethics: 人は〈よそ者〉の何を恐れるのか?」を開催し、68人の参加者を得た。その講演録を650部刊行し、広く頒布して、その成果の社会的還元を試みた。 《Bに関わる評価》2018年度より、従来は依頼原稿を中心に構成されていた学術誌『社会と倫理』への一般投稿論文を広く受け付けることにした。その結果、6本の応募があり、潜在的なニーズが小さくないとわかった。	A	《Aに関わる方策》学術イベントについては、facebook等を活用したりリアルタイムでのレポートや、開催後のレビュー記事の発信など、提供する情報の密度をより高いものにしていくことで、より効果的に社会的な還元が可能になると思われる。 《Bに関わる方策》『社会と倫理』を一般投稿論文受付方針転換したことについても、関連学会で個別に発信するなど、周知を図る必要がある。	《Aに関わる方策》毎回の学術イベント開催後にアンケートを実施して、どの媒体を通じてそのイベントのことを知ったかを把握しようとしてきたが、それを継続しつつ、新たな広報の方法について検討していくことで、より効果的に社会的な還元が可能になると思われる。 《Bに関わる方策》社会倫理研究奨励賞の応募者については、これまでの応募者の属性と広報先との関係を分析してみることも必要だろう。	社会倫理研究所員会議議事次第 (18-5) 報告事項4 奥田太郎・笹橋一輝編『Stranger Ethics: 人は〈よそ者〉の何を恐れるのか?』南山大学社会倫理研究所刊 社会倫理研究所ウェブページ <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/</a>
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	当研究所が主催した学術イベントについては、毎回参加者へのアンケートを実施し、集計結果を研究所員全員で共有し、参加者のニーズなどを分析している。また、毎回の企画会議において、過去の実施例なども基礎資料としながら、当研究所として一貫した社会的還元ができていくかどうかについて考慮したうえで、企画立案運営を行っている。	当研究所は、社会連携・貢献の適切な評価について、次のような到達目標を掲げる。 【到達目標A】一般公開学術イベントを評価する際には、実際の参加者の感想や意見なども参照し、より客観的に行う。 【到達目標B】受け手のニーズに応えるだけでなく、その都度社会に提供すべき内容をスタッフ全員で吟味検討する。 《Aに関わる評価》参加者からのコメントで、参加者側のニーズがどこにあるかを把握することができ、今後の改善へのヒントが得られている。ただし、当研究所が実施するのは学術イベントであるため、単に参加者のニーズに応えることが望ましいわけではないことも弁えておかねばならない。 《Bに関わる評価》どのような内容を提供していくかについては、時々々の状況に応じながらも、社会倫理研究所としてどのようなメッセージを発することになるかを意識しながら企画を立てることで、長く参加して下さる常連の方々を生み出している。	A	《Bに関わる方策》社会倫理研究所としての軸を明確に意識したうえで、現在、どのようなテーマが求められているのかについて、日常的に情報を集められる環境を整備する。様々な専門性をもつ学内の兼任スタッフである第二種研究所員との日常的なミーティングや、学外のスタッフである非常勤研究員との定期的な情報交換なども、それに資する方法かもしれない。	《Aに関わる方策》過去のアンケート結果を再度分析して、よりふさわしい項目がありえないか、検討する必要がある。	毎回の学術イベント後回収した、記入済みの参加者へのアンケート用紙 正式な会議資料としては残していない様々なミーティング用資料

		研究所/研究センター等名称	地域研究センター委員会	氏名	沢登 文治			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 各センターとも、講演会、研究会等研究活動を大学の理念・目的に沿って良好に実施している。また、継続して共同研究を実施すると同時に、新規の共同研究の計画を立案し認められている。 (2) 適切性について、各センター年に2回の各センター会議で活動報告を行い、意見交換を行う中で適切に実施されていることを確認している。また、共同研究において、地域研究センター委員会において、同様に活動報告を行い、意見交換等を行う中で適切に実施されていることを確認している。	各センターの研究活動実績は以下の通りである。 1. アメリカ研究センター： 主催講演会4回、共催講演会5回、名古屋アメリカ研究会2回、Nanzan Review of American Studies, vol. 40 刊行 2. ラテンアメリカ研究センター： 主催講演会9回、共催講演会4回、ユネスコ平和セミナー1回、ラテンアメリカ研究センター研究シリーズ6『交差する眼差し』刊行 3. アジア・太平洋研究センター： 主催講演会9回、共催講演会1回、『アジア・太平洋研究センター報第13号』発行 4. ヨーロッパ研究センター： 主催講演会4回、共催講演会15回、『ヨーロッパ研究センター報第25号』発行、シンポジウム記念誌発行 5. 共同研究(川島(旧藤本)班)： 主催研究会2回、成果報告書『「1968年」再訪—「時代の転換期」の解剖—』、 6. 共同研究(大澤(旧高岡)班)： 主催研究会5回、中間報告「近代のヨーロッパとアジアにおける『文明化』の作用」	A	新規の共同研究の募集を行う。11月から1月の間に募集を行い、2月中に採択研究を決定する。	1) <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/america/ja/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/america/ja/</a> 2) <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/</a> 3) <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/latinaamerica/ja/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/latinaamerica/ja/</a> 4) <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/europe/ja/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/europe/ja/</a> 5) 【報告2】2018年度活動実績.doc



			研究所/研究センター等名称	地域研究センター委員会		氏名	沢登 文治	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【A】 良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【B】 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。	2018年度初めに4センター長のうちの3センター長が交替になった。アメリカ研究センターにおいて、客員研究員2名、新規研究員1名を得て、同研究センターの設置目標であるアメリカ研究における学際的研究の可能性がさらに高まった。	新たにセンター長会議を開催して、共同研究の打合せを行った。アメリカ研究センターでは、客員研究員2名が講演会等の企画を立案し実施した。また新規の研究員は、アメリカ研究においてこれまで不十分であった分野の図書充実と完備に向けて活躍した。2019年に向けて新規研究員を探索する。	A	新規任用の研究員が活発に研究活動ができる環境整備が重要である。また、各センター会議において新規研究員の情報収集と研究活動の企画を考える。	1) 起案書・決裁書印刷_2018アメリカ研究センター員.pdf 2) 起案書・決裁書印刷_2018アメリカ研究員.pdf
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。					
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 毎年度の地域研究センター委員会において、各センターの研究員の名簿を確認し、各センターの設置目的に適合的な編成が実現できていることを確認している。	アメリカ研究センターにおいては、1名の新規研究員並びに1名の新規客員研究員および1名の継続客員研究員を得た。また、2019年度の研究員として、アメリカ研究センターにおいては、継続客員研究員として2名、ラテンアメリカ研究センターでは、新規研究員2名および新規客員研究員1名、アジア・太平洋研究センターでは、新規研究員1名および新規客員研究員1名、ヨーロッパ研究センターでは、新規研究員3名、新規客員研究員1名を採用することにつき審議承認された。	A	春学期の地域研究センター委員会において、今年度の各センター研究員の名簿を確認し、適切な組織編成ができていることを確認する。	1) 起案書・決裁書印刷_2018アメリカ研究センター員.pdf 2) 起案書・決裁書印刷_2018アメリカ研究員.pdf 3) 起案書・決裁書印刷_2019アジア客員研究員.pdf 4) 起案書・決裁書印刷_2019アメリカ客員研究員.pdf 5) 起案書・決裁書印刷_2019ヨーロッパ客員研究員.pdf 6) 起案書・決裁書印刷_2019ラテン客員研究員.pdf

			研究所/研究センター等名称	地域研究センター委員会	氏名	沢登 文治	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準7	学生支援	<p>② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。</p>	<p>(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。</p>				
		<p>③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>				

		研究所/研究センター等名称	地域研究センター委員会		氏名	沢登 文治	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準9	社会連携・社会貢献	<p>② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。</p>	<p>(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】</p> <p>(2)適切性について、各センター年に2回の各センター会議で活動報告を行い、意見交換を行う中で適切に実施されていることを確認している。また、共同研究について、地域研究センター委員会において、同様に活動報告を行い、意見交換等を行う中で適切に実施されていることを確認している。</p>	<p>各センターの研究活動実績は以下の通りである。</p> <p>1. アメリカ研究センター：主催講演会4回、共催講演会5回、名古屋アメリカ研究会2回、Nanzan Review of American Studies, vol. 40 刊行</p> <p>2. ラテンアメリカ研究センター：主催講演会9回、共催講演会4回、ユネスコ平和セミナー1回、ラテンアメリカ研究センター研究シリーズ6『交差する眼差し』刊行</p> <p>3. アジア・太平洋研究センター：主催講演会9回、共催講演会1回、『アジア・太平洋研究センター報第13号』発行</p> <p>4. ヨーロッパ研究センター：主催講演会4回、共催講演会15回、『ヨーロッパ研究センター報第25号』発行、シンポジウム記念誌発行</p> <p>5. 共同研究(川島(旧藤本)班)：主催研究会2回、成果報告書『「1968年」再訪—「時代の転換期」の解剖—』、</p> <p>6. 共同研究(大澤(旧高岡)班)：主催研究会3回、中間報告「近代のヨーロッパとアジアにおける『文明化』の作用」</p>	A	<p>秋学期の各センター会議において、次年度の研究活動を審議し、そこで社会連携および社会貢献が可能な方法で実施することを確認する。</p>	【報告2】2018年度活動実績.doc
		<p>③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>各センター会議および地域研究センター委員会において、社会連携・社会貢献等に関する活動報告を行っている。また、地域研究センター委員会で各センター長からそれぞれの活動について報告を受け、情報交換および意見交換を実施し、適切性を確認している。</p>	A	<p>4センターそれぞれのセンター会議において、社会貢献に関連する研究活動報告を行い、また、地域研究センター委員会で各センター長からそれぞれの活動について報告を受け、情報交換および意見交換を実施し、適切性を確認する。</p>	

			研究所/研究センター等名称	アメリカ研究センター	氏名	沢登 文治		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>本センターはアメリカ地域の政治、外交、経済、社会、歴史、文化、言語や文学といった人文社会科学分野を中心に文献や資料を収集し、講演会等のイベントを通じて学術交流とネットワークの形成、年1回刊行している英文雑誌を通じてアメリカ研究における情報発信を目指している。センター研究員は、外国語学部英米学科6名、国際教養学部2名、総合政策学部1名、法学部1名、経営学部1名、客員研究員2名の計14名によって構成されている。いずれも研究意欲が高く、積極的に活動しており、組織は、上記の理念・目的に適合している。毎年テーマに沿った企画を立てたイベントを開催し、それを英文雑誌「Nanzan Review of American Studies」にまとめ、報告している。</p> <p>毎年センター会議において新任教員の情報確認を行い、適任者をセンター研究員として迎え入れている。2018年度は英米学科 手塚沙織講師を新規センター員として任用した。</p>	<p>本センターが企画した講演会(原則として公開)には学内に限らず通常学外(一般)から参加者があり、地域社会にも研究の成果を発信している。本年度は主催講演会3回、主催意見交換会1回、共催講演会5回、計9回で、昨年度よりも多く開催した。英文雑誌「Nanzan Review of American Studies」の第40巻を発刊した(全148頁)。4つの論説はすべて投稿要領に従って送られてきた原稿を査読の上掲載した寄稿論文、特別企画の2つの論説は本センター主催の講演会での講演を基礎に論文化したものを掲載した。</p>	<p>A</p>	<p>秋学期のセンター会議において次年度開催研究会・講演会等の構想および予定等につき、情報交換・意見交換を行い、予算の審議を行い、それに基づいて今年度と同様に活発な活動が実施できるよう計画する。</p>	<p>・センター研究員一覧_アメ研_2018-2019.pdf ・18-001_起案書・決裁書印刷.pdf ・ http://rci.nanzan-u.ac.jp/american/ja/journal/</p>

		研究所/研究センター等名称	アメリカ研究センター		氏名	沢登 文治		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。	センター研究員は、外国語学部英米科7名、国際教養学部2名、総合政策学部1名、経営学部1名、法学部1名、客員研究員2名の計14名で構成されている。したがって組織編成が適当である。	2018年度は英米学科 新任の講師を新規センター員として任用した。	A	引き続き新年度に、センター研究員として適任者を迎え入れることができるよう、センター会議において情報交換・意見交換を秋学期に行う。	センター研究員一覧_アメ研_2018-2019.pdf
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。					
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	年2回のセンター会議でセンター研究員一覧を確認し、適宜人事について意見交換を行っている。				

		研究所/研究センター等名称	アメリカ研究センター		氏名	沢登 文治		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。					
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。					

			研究所/研究センター等名称	アメリカ研究センター		氏名	沢登 文治		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。 【2018年度学長方針】	社会連携・社会貢献について、継続的に地域交流に取り組んでいる。	1. センター長はJAASおよび名古屋アメリカ研究会の会員、名古屋アメリカ研究会の幹事として活動し、連携を図っている。 2. 他部署・学外の団体と連携して開催したイベントが全体の8割を超え、活発な連携が図られている。具体的には以下3点を実施した。 ・名古屋アメリカ研究会と連携したイベントを毎年継続的に開催しており、2018年度は2回のイベントを行った。 ・アメリカ研究センター主催の講演会(2件)に対し、名古屋アメリカ研究会に共催として協力いただいた。 ・数年連携が途絶えていた名古屋アメリカンセンターとの連携を強化することに努め、2019年2月22日に在日米国大使館広報・文化交流担当公使、在名古屋米国領事館首席領事の来学記念意見交換会を実施した。	「例年通り継続して…取り組んでいく。」との記載は、「改善すべき事項」に該当しないと考えを改めたため、削除した。	A	「改善すべき事項」を削除したため、記入せず	・名古屋アメリカ研究会例会_2018年度.pdf  ・アメリカ研究センターイベント一覧_2018年度.pdf
		③ 社会連携・社会貢献の適切性に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	アメリカ研究センター、センター会議における情報提供と意見聴取に基づき、計画の策定および実施報告を行う。そこでの意見聴取により、改善・向上に取り組む。	・名古屋アメリカ研究会例会および共催の研究会(すべて一般公開)について、以下のセンター会議で審議。: 2018年5月18日研究会共催について、4月25日までのメール審議。2018年10月1日講演会の主催について、9月7日までにメール審議。2018年11月10日講演会共催につき、8月31日までにメール審議。2019年2月22日開催の名古屋アメリカンセンターとの共催によるイベントについて、2月11日までのメール審議。2019年6月6日の講演会共催について、3月20日までにメール審議。	A			

		研究所/研究センター等名称	ラテンアメリカ研究センター		氏名	泉水 浩隆				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 建学の理念「キリスト教世界観に基づく学校教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成」および大学の目的(3-②-1)に基づき、ラテンアメリカ研究センターは本学の地域研究組織のひとつとして設置されている。広く学際的視野にたった地域研究としてのラテンアメリカ研究を行うことを目的とし(3-②-2)、その目的を達成するため、本学におけるラテンアメリカ研究の推進と調整、ラテンアメリカ研究分野の教育の推進、センターと目的を共通にする学外の研究機関ならびに研究者との協力、研究会、講習会等の開催、文献、資料の収集と利用、研究成果等の編集と刊行などの事業(3-②-3)を継続して実施している。 (2) 毎年度センター会議においてセンターの各事業について振り返り、また今後の計画を立案・検討することにより、大学の理念・目的とセンターの運営の関連性・適切性について定期的に検証をおこなっている(3-②-4)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	3-②-1 南山大学学則第1条 3-②-2 南山大学ラテンアメリカ研究センター規程第1条 3-②-3 南山大学ラテンアメリカ研究センター第2条および第3条 3-②-4 最新のものは、2018年度第1回ラテンアメリカ研究センター会議議題(2018年5月9日)および2018年度第2回ラテンアメリカ研究センター会議議題(2018年10月17日)



		研究所/研究センター等名称	ラテンアメリカ研究センター		氏名	泉水 浩隆			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。	ラテンアメリカ研究センターにおいては、いわゆる「人事計画」は存在しないため、本様式の「⑤(1)教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか」の欄に記載する。					
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	当センター員の編成方針は明確に定められていないため、客観的な検証をする段階にはない。総合的に見て、ラテンアメリカ研究に関して、2017年度、地域的にはブラジル、カリブ、中米が、専門分野別では、政治、歴史(征服後)を専門とする研究員が欠けているとの記述が過年度の自己点検評価においてなされていた(6-⑤-1)。	2018年度のセンター会議・メール審議で、左記の指摘のような、当センターに不足しているエリア・分野の研究員を新たに迎える検討がなされた。	当センターの編成方針をより具体的に検討する必要がある。	2018年度中に、2019年度から新たにメキシコや中米を専門エリアとし、宗教学や征服前後の歴史的事象についても造詣が深い研究員1名、アルゼンチンを専門エリアとし、近現代史、文化史、思想史を中心に研究しつつも、政治についても関心を持っている研究員1名、さらに、ブラジルを研究対象地域としている客員研究員を1名迎えることが決まった。これにより、地域的・専門分野的に不足していると思われる部分が多くカバーされることになる(6-⑤-2)。	当センターのメンバーについて、現状で問題がないかどうか、今後必要と思われるメンバーはどのような研究員であるかを、センター会議等で議論し、編成方針を検討する。	6-⑤-1 2017年度ラテンアメリカ研究センター自己点検・評価報告書 6-⑤-2 2018年度第2回ラテンアメリカ研究センター会議議題(2018年10月17日)およびメール審議(2019年1月21日付けメール)

			研究所/研究センター等名称	ラテンアメリカ研究センター		氏名	泉水 浩隆	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。					
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。					

			研究所/研究センター等名称	ラテンアメリカ研究センター		氏名	泉水 浩隆		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。 【2018年度学長方針】	2018年度は、学外の一般市民も参加可能なものも含め、講演会を14件開催し、参加者数は、合計931名であった。(例: 知られざる音楽大国・南米ベネズエラのしらべ〜国民楽器クアトロを中心に〜、18〜20世紀のピアノ音楽を通して知るスペイン、スペイン・サラマンカで日本語を教える一日西両文化をつなぐ仕事とは一、など)。これに加え、学会の基調講演、学外の研究者も交えた研究会2回、名古屋ユネスコ協会と協力して行った「第8回 ユネスコ平和セミナー」なども主催あるいは共催し、ラテンアメリカ研究センターの活動を外部へ知らせ、社会連携・社会貢献・地域交流の機会を持った(9-②-1)。	左記の講演会の中には、日本イスパニヤ学会第64回大会の「サラマンカ大学創立800周年記念企画・サラマンカと日本を結んで」も含まれ、本学の提携校であるスペイン・サラマンカ大学との絆を一層深めることができた。また、2017年度は講演会の件数は8件、参加者数は415名であったが、2018年度は左記の通り14件、931名と増加しており、教育研究成果を還元していると言える(9-②-2)。	特になし。	今後も国内・国外を問わず教育・研究機関や研究者との連携を深め、ラテンアメリカ地域を知るための機会を数多く提供していきたい。	特になし。	9-②-1 2018年度ラテンアメリカ研究センター活動記録 9-②-2 2017年度および2018年度ラテンアメリカ研究センター活動記録
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	年度当初におおよその企画を立案し、その計画に年度途中でセンター員からの提案や海外・国内の研究機関からの呼びかけなどに応じる形で企画を追加しているが、それぞれに目標件数を設定するようなことは特にしておらず、実施可能な講演会等を適宜立案し実施している。このようにして実施した講演会の件数と参加者数を振り返り、センター会議において確認することで検証を行っている(9-③-1)。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	9-③-1 2018年度第1回および第2回ラテンアメリカ研究センター会議議題

		研究所/研究センター等名称	ヨーロッパ研究センター		氏名	太田 達也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 「ヨーロッパ研究センター規程」において、当センターは「広く学際的視野にたった地域研究としてのヨーロッパ研究を行うことを目的とする」としている(3-②-1)。また、センターの公式WEBサイトの「センター概要」には、「ヨーロッパ研究に関する社会科学系の分野を中心とした文献・資料の収集と整理、及びその貸出しを行ったり、内外のヨーロッパ研究者を招いて公開セミナーや研究会を実施したりしています。さらに研究活動やセミナーなどの成果を公開することにより、広く一般に現代ヨーロッパについての理解が普及するよう努めています。」と記されており(3-②-2)、センターはこの記載に則った活動を行っている。 (2) 毎年度初回のセンター会議において、センターの理念・目的についてあらためて確認・審議を行っている(3-②-3)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	3-②-1「南山大学ヨーロッパ研究センター規程」第2条、第3条 <a href="https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daijyaku/dpart6/d6260.pdf">https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daijyaku/dpart6/d6260.pdf</a> 3-②-2「センター概要」 <a href="http://rei.nanzan-u.ac.jp/europe/ja/aboutus/">http://rei.nanzan-u.ac.jp/europe/ja/aboutus/</a> 3-②-3「2018年度第1回ヨーロッパ研究センター会議議事録」

			研究所/研究センター等名称	ヨーロッパ研究センター		氏名	太田 達也		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。	ヨーロッパ研究センターでは、専門分野および学科のバランス、年齢構成を配慮しつつ、適宜、あらたなセンター員の委嘱を行っている。その結果、教員の構成に偏りのない組織編成ができている(6-②-1)。	2019年度4月から、あらたに3名のセンター員および1名の客員研究員(第三種)を迎えることができるようになった。これにより、専門分野および学科のバランス、年齢構成がさらに偏りのない体制となった。	特になし。	今後も、専門分野および学科のバランス、年齢構成に偏りが生じないよう留意しつつ、人事を進める。	特になし。	6-②-1 「センター概要」 <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/europe/ja/aboutus/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/europe/ja/aboutus/</a>
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 毎年度初回のセンター会議において、教員組織の適切性についてあらかじめ確認・審議を行っている(6-⑤-1)。その結果、教員の構成に偏りのない組織編成を実現することができている。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	6-⑤-1 「2018年度第1回ヨーロッパ研究センター会議事録」

			研究所/研究センター等名称	ヨーロッパ研究センター		氏名	太田 達也		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。						
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。						

		研究所/研究センター等名称	ヨーロッパ研究センター		氏名	太田 達也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	ヨーロッパ研究センターでは、原則としてすべての催しについて公式HP上で開催通知・開催報告を掲載し、また学外の関係者に対しても広く広報を行い、研究成果を社会に還元することに努めている(9-②-1)。また、『ヨーロッパ研究センター報』を毎年刊行し、関係諸機関に送付するとともに、公式HPでも公開することで、研究成果を広く公にしている(9-②-2)。	2019年1月12日に開催したシンポジウムには関東・関西・九州からも来場者があり、ポジティブな反響が寄せられた。このシンポジウムについては、当日の発表と議論の内容を文字起こしした記録冊子を作成し、関係諸機関に配布したことで、研究成果の社会還元となった(9-②-1)。	『ヨーロッパ研究センター報』第25号掲載の論文数が3本であり、うち1本は招待講演者のものであった。今後はより充実した内容の冊子とすべく、センター員に対し積極的な投稿を呼びかけたい。	A	2019年度以降も、できるだけセンター員以外の学内者・学外者にも多く参加してもらえような催しを企画・実現していきたい。	センター長がセンター会議の席上において、『ヨーロッパ研究センター報』への積極的な投稿を呼びかける。また、事務局からも、センター員に対し、リマインドメールを発信して、投稿期限のリマインドを行う。	9-②-1 記録冊子『シンポジウム『ヨーロッパ言語共通参照枠』(CEFR)増補版と複言語・複文化主義ー変革を求められる日本の外国語教育をめぐってー』 9-②-2 『ヨーロッパ研究センター報』第25号
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	社会連携・社会貢献の適切性については、センター会議において活動報告を行うことで検証している(9-③-1)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	9-③-1 「2018年度第1回・第2回ヨーロッパ研究センター会議議事録」

		研究所/研究センター等名称	アジア・太平洋研究センター		氏名	蔡 毅			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	本センターは21世紀の活力ある北東・東南アジアを中心とする太平洋地域の政治、経済、社会、文化などの諸分野における総合研究と資料収集、同地域における学術交流とネットワークの形成を目指している。9名のセンター員はいずれも研究意欲が高く、積極的に活動している。役員者が多いにも関わらず、年2回のセンター会議には全員が出席できるようスケジュールを調整し、センターの運営についての活発な意見交換を行っている。全センター員が講演会やシンポジウム等を企画、実施し、結果報告をセンター報に投稿するというセンター内での取り決めがあり、全員が積極的にセンター活動に関わっている。	本センターが企画した講演会（原則として公開）には学内に限らず通常学外（一般）から参加者があり、地域社会にも研究の成果を発信している。本年度は主催講演会9回、主催シンポジウム1回、共催講演会2回、共催セミナー1回、計13回で、昨年より多く開催した。研究員が9名であることを考えると、十分な活動をしていると言えるだろう。予算も適切に消化している。	① 研究活動は多彩で多岐にわたるが、研究内容の集約性に欠けるといえる問題点はある。本年度は改善されてはいるが、より共通性のある研究テーマを見つけられるよう努力する。② センターの学内外における認知度はまだそれほど高くなく、存在感をよりアップする必要がある。	A	① シリーズ講座の可能性を探り、テーマを設定し、そのテーマに関連する複数の講演会を行うことを検討する。② ホームページの改訂によって対外的によりアピールする。なお、各学部・研究科との連携を強め、学部生・院生に、授業外のさらなる学習の機会として、学生の参加を呼びかける。	・活動： <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/activities/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/activities/</a> ・刊行物： <a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/journal/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/journal/</a> 『アジア・太平洋研究センター報』第13号を出版した。第14号は2019年6月末出版する予定。



			研究所/研究センター等名称	アジア・太平洋研究センター	氏名	蔡 毅			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。	センター研究員は、外国語学部アジア学科4名、総合政策学部3名、人文学部日本文化学科1名、経済学部1名の計9名によって構成されている。(2019年3月に1名定年退職となるが、補充として2019年4月に1名着任。) 各自の専門分野から見れば、組織の編成が適当で、研究体制が堅固と言える。	特になし	特になし	特になし	特になし	<a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/aboutus/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/aboutus/</a>
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	年2回のセンター会議には全員が出席できるようスケジュールを調整し、人事についても適宜意見交換を行っている。	特になし	特になし	特になし	特になし	

			研究所/研究センター等名称	アジア・太平洋研究センター	氏名	蔡 毅		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。					
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。					

		研究所/研究センター等名称	アジア・太平洋研究センター		氏名	蔡 毅			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	アジア・太平洋地域は、21世紀の活力ある地域協力を実現するために、ASEANやAPECを中心とした様々な試みが行われている。こうした現状認識に立脚して、本センターは、北東・東南アジアを中心とするアジアおよび太平洋地域の政治、経済、社会、文化などの諸分野における総合研究と資料収集、同地域における学術交流とネットワークの形成を目指している。	本センターが企画した講演会等(原則として公開)には学内に限らず通常学外(一般)からも参加者があり、地域社会にも研究の成果を発信している。本年度は主催講演会9回、主催シンポジウム1回、共催講演会2回、共催セミナー1回の計13回で、昨年度よりも多く開催した。	特になし	国内のみならず、海外の研究機関・研究者との学術交流のさらなる活発化を目指したい。	特になし	<a href="http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/activities/">http://rci.nanzan-u.ac.jp/asiapacific/ja/activities/</a>
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	本センターが特に重視する活動は、共同研究の企画と実施、講演会、ワークショップやシンポジウムなどを通じた研究成果の発信であり、これらの諸活動を通じて、他大学や研究機関との交流だけでなく、南山大学の学生と教員の交流の場を提供していこうと考えている。その成果はセンター会議で常に報告し、センター報においても反映されている。	センター会議の場で上記の活動を報告することによってセンター員に情報が共有され、その適切性について検証されている。	特になし	特になし	特になし	

		研究所/研究センター等名称	人間関係研究センター		氏名	中村 和彦		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	本センターは、本学のモットーである「人間の尊厳のために」を常に意識し、本センターのミッションを「多様なあり方を尊重する、人間性豊かな社会を創り出すために」と明文化した。本センターの教育・研究方法である、ラボラトリー方式の体験学習および人間性心理学は、「人間の尊厳のために」を教育の中で具現化するアプローチであり、大学の理念に一致した教育研究活動を行っている。 (2) 自己点検・評価委員会において、組織の適切性について検証している。	大学の理念に一貫したミッションを2018年11月に開催されたセンター会議において明文化した。ミッションの明文化は2016年度の自己点検・評価報告書でその必要性を記し、約2年にわたって研究員による議論を行い、合意されたものである。	S	本センターの組織や目的について、運営委員会(毎月開催)およびセンター会議(年3回開催)、さらには自己点検・評価委員会において検証を継続していく。	2018年11月21日開催のセンター会議議事録

			研究所/研究センター等名称	人間関係研究センター	氏名	中村 和彦				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。	退職や留学等に伴って、公開講座を担当できる研究員がいなくなった場合に、運営委員会で議論し、計画を立てている。 また、教員の効果的な組織編成のためには、当センターの目的に沿った人材育成も必要である。公開講座の共同担当や定例研究会を通して、本センターのユニークな教育方法の世代間伝播を試み、人材育成を行い、将来に向けた組織編成の基盤を築いている。	2018年度には、青木剛氏に研究員の追加委嘱をした（2018年10月より）。	公開講座の一部（協同学習）について、2018年度の担当者を退職教員（石田裕久氏）に依頼している。今後数年はその体制を維持できるが、将来を見越して、協同学習の領域をカバーできる研究員を委嘱するか、この領域の公開講座を当センターで将来的に開催しないかを決定する必要がある。この決定は2022年までに行う。	A	公開講座の共同担当や共同研究を通して、体験学習という教育方法やノウハウについて世代を越えた共有を行っている。	2021年度末までに、運営委員会において、協同学習に関する公開講座の将来的な方向性を決定し、2022年度のセンター会議で正式決定をする。	2018年10月17日開催のセンター会議の議事録、2019年4月17日開催の自己点検・評価委員会の議事録
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。							
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 運営委員会（毎月開催）およびセンター会議（年3回開催）において、教員組織の編成方針について議論し、検証を行っている。	本センターは人事権をもたないため、新たな教員を採用することはできない。公開講座の開催等において、学内に担当できる人材がいなかった場合は、学内の適切な人材に客員研究員になってもらい、研究員と共同で担当する形で運用している。		A	引き続き、運営委員会およびセンター会議で人事計画について議論していく。		運営委員会の議事録、および、センター会議の議事録

		研究所/研究センター等名称	人間関係研究センター	氏名	中村 和彦			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。					
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。					

		研究所/研究センター等名称	人間関係研究センター		氏名	中村 和彦		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	本センターでは、社会人向けの公開講座を実施しており、2018年度は11名の講座を開催し、のべ268名の受講者があった。ラボラトリー方式の体験学習における日本の先導的機関として認識されている。公開講演会は7月と9月に開催し、この地域の方を中心に計265名に参加いただいた。	公開講座には、この地域だけではなく、全国からの参加者があり、公開講座開催費は901,622円の黒字となった。本センターが海外から招いた講師により、公開講座「組織開発ラボラトリー」と第1回公開講演会が実施された。前者には64名の、後者には133名の参加者を得て、組織開発に関する海外での最新の知見を学ぶことができる場を多くの方に提供することができた。	S	新たな公開講座の開催を検討するとともに、海外招へい講師による公開講座や公開講演会を引き続き開催していく。	2019年4月17日開催のセンター会議資料
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	公開講座と公開講演会の計画とふりかえりは、毎月実施している運営委員会で行っている。また、次年度の公開講座を開催についてセンター会議で議論し、開催の承認をしている。2018年度は、10月17日に開催された自己点検・評価委員会で2019年度に向けての公開講座の見直しを行った。	2018年度の公開講座の中で、受講申し込み者数の推移から「人間関係講座(コミュニケーション)」の開催を中止した。この判断の際には、運営委員会を議論を行い、中止の判断を設けたうえで、現状を見据えながら判断を行うことができた。また、この講座を見直す議論を2018年度中に行い、2019年度からは新たに設計された講座(「人間関係講座(ベーシック)」)が開催できることとなった。	A	新たに開催する講座「人間関係講座(ベーシック)」、「バーンセント・アプローチ・ワークショップ(ベーシック)」を開催した後に、その設計や成果について担当者と運営委員会がふりかえっていく。また、引き続き、運営委員会において公開講座と公開講演会の実施状況や地域へのインパクトをアンケート結果からモニターしていく。	2018年10月17日開催の自己点検・評価委員会の議事録

		研究所/研究センター等名称	言語学研究センター		氏名	斎藤 術			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	言語学研究センターは、2003年の創設以来、(i) 言語理論研究の一環としての日本語研究を推進し、(ii) 日本語と多言語との比較を通して理論の発展に寄与することをめざす国際共同研究を展開し、その成果を公表するとともに、(iii) 日本語研究を基礎として国際共同研究に寄与する若手研究者を育成することを目的としている。言語学は文字通り「人間性」の研究であり、これを国際共同研究として推進することは、南山大学の理念・目的に合致している。具体的な活動としては、国際的な研究交流、国際共同研究を主眼とする研究プロジェクトを推進してきた。研究員がプロジェクトの中心メンバーとなっており、国内外の研究協力者も交え、不断に研究の方向性について意見交換を行っている。また、年度始めのセンター会議において、前年度の自己点検・評価をふまえ、当該年度の計画、さらには、より長期的な目標についても議論し、決定している。決定事項には、研究協力者を含むプロジェクト研究組織の改編、めざまし研究成果の内容とその公表方法などが含まれる。	2016年度より国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語から生成文法理論へ」(プロジェクトリーダー：村杉恵子)を推進している。センター研究員4名と国内のプロジェクト研究者15名が、国外の研究協力者とともに積極的に研究活動を展開している。また、言語学研究センター独自の研究課題として、オノマトペと幼児の言語獲得に関する研究、言語学と言語哲学の協働に基づく意味論研究などのテーマに取り組んでいる。本センターは、実質的には1998年にインド・ハイデラバードで設立されたGLOW in Asia (アジア理論言語学会)の本部機能を担い、専門誌 Journal of East Asian Linguistics (Springer, Dordrecht)の編集補助を行うなど、より広くアジアにおける言語学研究の活性化にも貢献している。	特になし。	A	直前の国立国語研究所共同研究プロジェクト「言語の普遍性及び多様性を司る生得的制約」(2010~2014)の成果として、研究論文集 Japanese Syntax in Comparative Perspective (Oxford University Press, 2014) および啓蒙書『日本語文法ハンドブック』(開拓者、2016)を刊行したが、今回のプロジェクトでも、専門誌 The Linguistic Review (De Gruyter, Berlin)の特別号を2020年1月、そして論文集を開拓社から2020年度後半に出版する予定である。 □GLOW in Asiaは、韓国生成文法学会の研究者が中心となって、2019年8月に第12回大会をソウルで開催することになっており、言語学研究センターも開催に向けた準備を側面から支援している。 □	言語学研究センター機関誌 Nanzan Linguistics No.1~No.14 および特別号 言語学研究センター ウェブページ <a href="http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/LINGUISTICS/index.html">http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/LINGUISTICS/index.html</a> 2018年度言語学研究センター会議事録



		研究所/研究センター等名称	言語学研究センター		氏名	齋藤 術			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。	言語学研究センターに人事権はなく、学内教員の有志が参加する形になっており、現在の研究員は5名である。現時点では、国内の研究協力者(プロジェクト研究員)と海外の研究協力者が献身的に研究に参加してくれており、理論言語学の研究拠点として活気のある活動を展開することができている。国内研究協力者15名の本務校は、北海道から九州まで全国にあり、海外研究協力者は、アメリカ、イギリス、スイス、イタリア、トルコ、インド、台湾、韓国など世界各地の大学の研究者である。 □□□□	研究員5名がそれぞれ独自の研究を遂行しており、センターの研究はこれを基礎としているため、充実したものとなっている。(研究員5名のうち4名が科学研究費の補助を受けている。) 研究員5名が2018年度に公表した論文は10編であり、若手研究者の林晋太郎が Syntax、和泉悠が Philosophical Studies といった国際的に権威のある専門誌に論文を発表している。国内研究協力者の発表論文を合わせると34編となり、公表先には、Linguistic Inquiry、Journal of East Asian Linguisticsなどが含まれる。研究の国際的な協体制が継続的に維持されるように、研究員、研究協力者、海外からのワークショップ発表者に、若手研究者を増やすように努めている。□	研究成果を学内に還元するためにも、学内の関連分野の研究者と交流を深める手立てを考える必要がある。	□国内外の若手研究者間の研究交流を、より積極的に促進する企画を考えることが望ましい。	ワークショップを企画し、具体的プログラムを考える際に、学内の関連分野研究者にも参加、発表をお願いできるようにする。	言語学研究センター機関誌 Nanzan Linguistics No. 14 言語学研究センター ウェブページ http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/LINGUISTICS/index.html
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	基準3に述べたように、年度始めのセンター会議において、当該年度の研究計画を立て、研究協力者を含むプロジェクト研究組織の見直しを行っている。□□□□	研究プロジェクトの進展に伴い、研究組織を拡充するなどして、充実した形で研究を推進することができている。	特になし。	特になし。		言語学研究センター ウェブページ http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/LINGUISTICS/index.html 2018年度言語学研究センター会議事録

			研究所/研究センター等名称	言語学研究センター		氏名	斎藤 術		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。						
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。						

		研究所/研究センター等名称	言語学研究センター		氏名	齋藤 術		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準9	社会連携・社会貢献	<p>② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。</p>	<p>(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】</p>	<p>2018年度は、4回のワークショップ(言語学研究センター主催2回、国立国語研究所共同研究プロジェクト主催/言語学研究センター共催2回)を開催した。いずれも海外の研究者が発表者に含まれており、国際シンポジウムとも言えるものであった。第1回(8月4日～5日)はアメリカから2名、ドイツから1名、第2回(8月25日～26日)は韓国から4名、第3回(12月1日～2日)は台湾から2名、第4回(3月2日～3日)は韓国から4名の発表者があった。国立国語研究所共同研究プロジェクトには、言語学研究センター研究員に加え、国内研究協力者(プロジェクト研究員)として、13大学から15名が参加している。また、ワークショップには20～50名の参加があるが、これは近隣大学の教員、学生のみならず、北海道、東京、大阪、兵庫、福岡など、全国の大学院生を含む。研究活動の概要と成果は、言語学研究センターウェブページに公表している。ウェブページには、GLOW in Asia (アジア理論言語学会)の開催、発表論文公募情報なども載せており、広く理論言語学研究者に利用されている。</p>	<p>2018年度は、研究員と研究協力者1名ずつが、海外研究協力者(イタリア、スイス、アメリカ)との共著論文を公刊した。(『言語研究』およびThe Oxford Handbook of Ellipsisに掲載。)研究上の国際的連携が機能していることを示すものである。また、センター研究員は、多くの海外専門誌、学会の論文審査に携わり、昇格人事(イギリス)、補助金(イスラエル)、博士論文(インド、アメリカ)の審査など、様々な形で国際的な貢献をしている。ワークショップについては、東海3県以外からの若手研究者の参加が増加した。言語学研究センターウェブページでは、研究員、国内外の研究協力者の論文もダウンロードできるようにしており、研究者に活用されている。</p>	特になし。	<p>ワークショップ等を通じて、若手研究者間の国際的交流を促す企画を考えたい。国立国語研究所共同研究プロジェクトの成果を専門誌特別号、論文集として公表する計画を進めているが、より一般向けの書籍の出版も考えている。基準3に記したように、直前のプロジェクト「言語の普遍性及び多様性を司る生得的制約」(2010～2014)終了時に、啓蒙書『日本語文法ハンドブック』(開拓者、2016)を刊行した。2021年度までに、この続編を出版する計画である。</p>	<p>言語学研究センター ウェブページ http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/LINGUISTICS/index.html</p>
		<p>③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>年度始めのセンター会議において、前年度の自己点検・評価をふまえて、研究成果の公表や社会への還元についても話し合い、決定している。センター研究員は、常時意見交換をしており、研究協力者もワークショップ時に議論に加わり、計画の修正などについて検討している。新たな計画を立てたり計画の修正を行う際には、センター会議で正式に決定している。</p>	<p>特になし。</p>	特になし。	<p>A</p>	<p>言語学研究センター ウェブページ http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/LINGUISTICS/index.html 2018年度言語学研究センター会議事録</p>

		研究所/研究センター等名称	経営研究センター		氏名	石垣 智徳				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	委員6名から構成される委員会(年間2回)にて、経営研究センターの理念・目的(経営研究センター規程、第2条)が、産業界・学界等の要請に見合ったものであるのかを検討中。適切性を評価する手法はまだ確立されていないので検討中である。事務職員が2名とセンター長を中心に学内の経営関係の研究に関する促進と入手した情報の公開を行っている。	プロジェクトやワークショップの活動内容が目標を達成している。年間プロジェクト1件、ワークショップ5件が目標であり、それぞれ1件、7件を採択した。	これまで成果を確認せずに行ってきた資料収集活動の検討。成果を確認するとともに成果の出ない資料集については継続の可否を検討する	A	現状のプロジェクトとワークショップの採択件数を増加させる。センター長とスタッフが年度初めに各事業募集に際して積極的にアナウンスを行う。委員会は年間2回を継続するが、センター長とスタッフのミーティングを毎月実施する。	収集活動でストックされた資料の利用状況をセンター長とスタッフが精査し、費用対効果の面から検討する。紙媒体の資料とファイル等電子媒体の資料それぞれについてチェックを行う	<a href="http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/MCENTER/index.htm">http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/MCENTER/index.htm</a>

		研究所/研究センター等名称	経営研究センター		氏名	石垣 智徳			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。	人事計画は本経営研究センターの要件ではないため、目標、点検、評価ができない。					
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。						

			研究所/研究センター等名称	経営研究センター		氏名	石垣 智徳		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合を、冊子の場合をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。						
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。						

		研究所/研究センター等名称	経営研究センター		氏名	石垣 智徳			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合を、冊子の場合をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。  ③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】  (1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 地元経済団体(中部経済連合会、名古屋商工会議所)の会員活動を行っている。(2) 年に2回程度の郵送されてくる情報の発信と共有をWebページを中心に行っている。補助的に事務職員によるメール、電話等による対応を行っている。  社会と関わるという点で外部団体にセンター長が会員として会議等に出席しているが、その適切性の点検・検証については現時点では行われていません。	特になし	(1) 両地元経済団体との連絡をとりながら地元経済への貢献を進める (2) 会報の受発送と共有(3) 年間に2回以上の会議参加が達成されていない	特になし	(1) 地元経済団体と年間2回以上、センター長がメールまたは電話にて情報交換を行う	B

		研究所/研究センター等名称	理工学研究センター		氏名	福嶋 雅夫			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準3	教育研究組織	<p>② 教育研究組織の適切性について定期的点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>(1) 理工学研究センターは理工学部・理工学研究科と社会の連携の推進およびそれによる学部・研究科の教育研究の活性化を目的に設置されている。センターでは、[1] 産学協同研究の推進（企業との共同研究、委託研究など）、[2] 社会人の再教育（講演会、各種講習会、セミナーの開催）、[3] 大学院の活性化（大学院学生に対する奨学金事業、大学院生に対する研究経費補助事業）を行っている。 (2) 理工学研究センターには運営委員会が設置されている。委員は、理工学部から選出された委員と、学長指名による委員からなり、理工学部だけに偏らず、大学の理念・目的にかなうような活動を行うようになっている。理工学研究センターの活動については理工学部教授会で報告され、チェックを受けている。</p>	<p>理工学研究センターの活動のうち、以下のものについては効果が上がっている。 [1] 産学共同研究の推進：共同研究、委託研究の件数は9件で、前年度比2件の減少、研究費の総額は840万円で、昨年度比510万円の減少である。若干件数・研究費とも減少したが引き続き、産学連携の窓口として活動している。 [2] 社会人の再教育のうち、講演会については、2018年度3件で前年度比1件の増加。引き続き活動を続けている。 [3] 大学院の活性化では、2018年度は、大学院生への奨学金、7件、総額70万円を支給した。また、研究活動経費補助は、14件、総額442,332円行った。2017年度に比べて、奨学金は同じ件数、研究活動経費は2件の減少である。また優秀論文賞は修士論文6編を選出した。いずれも前年度とほぼ同様に活発な活動を行っている。運営委員会は設置の趣旨に則り正常に機能している。</p>	<p>改善すべき事項としては以下のものがあげられる。 [1] 産学共同研究の推進：学部の構成員に対して、共同研究・委託研究に限られている。理工学という学問分野の性質からより多くの産学協同研究を行うことが今後の改善すべき課題である。 [2] 社会人の再教育：講習会、セミナーはここ数年開催されていない。社会人の再教育という観点から多くの社会人が参加できる様な講習会、セミナーを企画することが改善すべき課題である。 [3] 大学院の活性化では、奨学金の支給額が内規上の上限額となっていない。上限額を支給することができるとのことである。 到達目標として、以下のものを設定する。 産学共同研究を今後2年間で5件程度増加させる。 今年度、講習会もしくはセミナーを開催する。 今後2年間で奨学金の上限額を支給する。</p>	<p>理工学研究センターの活動のうち、効果が上がっている事項について、以下のように活動を伸展させる。 [1] 産学共同研究の推進：今後2年間で、共同研究・委託研究を5件増加させるために、センター長と理工学部の運営委員を中心に、理工学部の構成員の研究成果を社会に広報する方法を考案する。 [2] 社会人の再教育：理工学部の教員の専門分野について、運営委員が中心となって企画し、理工学部と協力して、今後2年間の間に少なくとも各分野1回の研究会を開催する。 [3] 大学院の活性化では、より多くの大学院生に奨学金、研究活動経費補助を行うように、センターとして、大学院生に奨学金、活動経費補助の制度を周知する。</p>	<p>理工学研究センターの活動のうち、改善すべき事項について、以下のような方策を行う。 [1] 産学協同研究の推進：今後2年間で、現在、共同研究を行っていない分野で産学協同研究を推進する。2年間に行う共同研究は、新しい分野を重点的に行う。そのための広報活動を行う。 [2] 社会人の再教育：講習会、もしくはセミナーを理工学部と協力して今年度中に少なくとも1回開催する。今後毎年度、講習会、もしくはセミナーを開催する。 [3] 大学院の活性化では、今後4年間の大学院生に奨学金、研究活動経費補助を行うように、センターとして、大学院生に奨学金、活動経費補助の制度を周知する。</p>	<p>理工学研究センター運営委員会議事録、理工学研究センター2018年度予算・事業計画、2018年度事業報告・決算 理工学研究センター大学院理工学研究科第1種奨学金内規 理工学研究センター大学院理工学研究科第2種奨学金内規 理工学研究センター大学院理工学研究科研究奨励奨学金内規 南山大学理工学研究センター優秀論文賞内規 理工学研究センター研究発表補助費取扱要領 理工学研究センター学会参加費補助取扱要領</p>



			研究所/研究センター等名称	理工学研究センター		氏名	福嶋 雅夫		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。	センターに所属する教員はいないので、センターでは人事計画はおこなわない。					
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	センターに所属する教員はいないので、センターでは人事計画はおこなわない。					

			研究所/研究センター等名称	理工学研究センター		氏名	福岡 雅夫		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。						
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。						

		研究所/研究センター等名称	理工学研究センター		氏名	福嶋 雅夫			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	理工学研究センターでは社会貢献として、産学共同研究を推進している。  (受) 株式会社デイリーはやしや  (受) 医療法人香徳会□ (受) DCMカーマ株式会社□ (受) 帝人株式会社□ (受) 株式会社クニエ (共) アイシン・エイ・ダブリュ株式会社□ (共) トヨタ紡織株式会社□ (共) 株式会社富士通研究所□ (共) パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社□ (受) は受託研究、(共) は共同研究を表す。□より社会貢献を行うために、今後2年間で5件程度の共同研究・委託研究を新規に行う。	理工学研究センターが行なっている産学共同研究について、今後、より多くの分野で産学協同研究を行うように改善する。 現在の産学共同研究を行なっている分野は、以下の通りである。 オペレーションズ・リサーチ 5件 統計学 1件 ソフトウェア工学 2件 制御工学 1件 通信工学 1件 (分野の重複あり) 今後2年間で、全ての分野で複数の産学協同を行うようにする。	B	理工学研究センターの産学協同の活動については、今後2年間で、共同研究・委託研究を5件増加させる。そのためにセンター長と理工学部の運営委員を中心に、理工学部の構成員の研究成果を社会に広報する方法を考案する。	理工学研究センターの改善すべき事項にあげた、産学協同の活動については、今後2年間で、現在、共同研究・委託研究の少ない分野で産学協同研究を推進する。2年間に行う共同研究は、新しい分野を重点的に行う。そのための広報活動を行う。	理工学研究センター運営委員会議事録、理工学研究センター2018年度予算・事業計画、2018年度事業報告・決算
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	理工学研究センター運営委員会での報告・審議によって検証を行っている。また、理工学研究センターの活動については、学部教授会で報告し、そこでも検証を行っている。	共同研究・委託研究については、学部教授会、研究審査委員会、評議会での議を踏まえて行われており、それらの委員会が社会貢献としての適切さを検証している。	共同研究・委託研究については、学部教授会での審議が行われている。教授会が開催される際に、共同研究・委託研究の実績を点検評価する。もし、目標に達しなかった場合には、広報活動を強化する。	効果が上がっている点についても、逐次運営委員会で共同研究・委託研究の件数を確認し、理工学部教授会に報告する。教員の研究実績の広報を強化し、共同研究・受託研究を促進する。	逐次運営委員会で共同研究・委託研究の件数を確認し、理工学部教授会に報告する。理工学部のすべての分野での教員の研究実績の広報を強化し、共同研究・受託研究を促進する。	理工学研究センター運営委員会議事録、理工学研究センター2018年度予算・事業計画、2018年度事業報告・決算、2018年度理工学部教授会議事録・2018年度評議会議事録

		研究所/研究センター等名称	法曹実務教育研究センター		氏名	久世 表士				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	理念目的については変わるところはないが、組織的な運営を図るため、企画ワーキングチームを立ち上げ、セミナーの企画・実施については、企画ワーキングチーム間で随時意見交換を図って進めると共に、2019年度の外部委員については南山大学法科大学院修了の若手弁護士を選任することにした。	企画ワーキングチームが立ち上がり、若手弁護士を外部委員に選任することにより、事業の企画、実施についての具体的な基盤ができた。	新たな人的組織の整備ができたので、その効果的な運営方法を検討する必要がある。	B	企画チームを中心に事業の企画を定期的に協議する機会を設ける。	企画運営チームを中心に委員の意見を取り入れ、本年度の事業の企画、実施計画を速やかにメール等で情報、意見を共有して協議する。	法曹実務教育研究センター運営委員会記録

		研究所/研究センター等名称	法曹実務教育研究センター		氏名	久世 表士				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができていないか。	センター長の他は、研究科長、専攻主任、教員1名(刑事訴訟法担当)、外部委員2名(弁護士)、他学部教員1名、事務局員1名、オブザーバー2名(実務家教員)からなり、年2回程委員会を開催している。	審議機関として機能を果たしている。	セミナー等の事業の企画・実施力を強化する必要がある。	B	メール等により情報共有をする。	本年度から企画チームを立ち上げた。また、外部委員の法学法科大学院修士生の弁護士を選任して、若手弁護士の意見を組み入れた活動を行う。	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。	-						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	現在の組織構成については具体的に検証は行っていない。今後新たな活動・企画如何によっては組織構成メンバーの見直しの必要性が出て来る可能性はある。			B			

			研究所/研究センター等名称	法曹実務教育研究センター	氏名	久世 表士		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	-				
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	-				

		研究所/研究センター等名称	法曹実務教育研究センター		氏名	久世 士				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	従来は法曹実務教育研究センターにおいて一般市民を対象に法律相談を企画し、チラシを作成するなどして広報を行っていたが、相談申し込みがほとんどなく、また、法科大学院生の実務教育に適するものが少なかったことから、現在法律相談を停止している。一般市民を対象とするものではないが、南山経済人クラブと接点を持ち南山大学卒業生の企業経営等に役立つ法律情報（民法改正など）を提供するなどして社会経済活動に何らかの貢献ができるよう企画した。	南山大学関係であるが、新年賀詞交歓会で南山大学経済人クラブと接点を持ったことは、今後の活動に意味を持つと考えている。	一般市民に対する法律相談については現状実施が難しいものとなっているが、法科大学院院生の実務教育、一般市民への社会貢献の観点からは有意義であることに鑑み、何らかの形で法律相談を実施することを再検討したい。	B	2019年度の事業において、南山経済人クラブと協議して、従来の広報に加え、同クラブを巻き込んだ形でのセミナーを企画したいと考えている。また、セミナーの実施会場は従来は南山大学で行っていたが、名駅、栄といった都心での開催も実施したいと考えている。	法律相談の実施は現状難しいものがあるが、2019年度に企画ワーキングチームを中心にして形を変えての実施ができないか検討したい。	
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	南山大学法科大学院修生の弁護士にセミナーのテーマの希望を聞くに留まっている。なお、法科大学院において2018年度に行われた認証評価において、本センターにおける法律相談の有益性について触れられていたので、協力弁護士を選任して院生の教育に適した法律相談があれば適宜参加できるようなスポット法律相談ができないか検討をしている。	従来行われてきた弁護士を対象とするセミナーは実施しているが、それを超えての一般社会への社会貢献事業は行われていないが、法律関係者でなく主に経済関係者に貢献できる企画の一步として南山経済人クラブとの連携を申し入れた。	本センターにおいてどのような社会貢献が可能か、広く意見を求めるなどして検討する必要がある。	C	特になし。	2019年度に企画ワーキングチームを中心に検討を加えたい	セミナー案内文書 セミナーレジメ

		研究所/研究センター等名称	外国語教育センター		氏名	花木 亨				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	南山大学は、その教育モットーである「人間の尊厳のために」(Hominis Dignitati) の具現化を目指して、人種、障がい、宗教、文化、性別など様々な違いを認識し、受容するための基礎となる教養、多様性を前提とした人間の尊厳、他者の尊厳を尊重する力、および多様な人々との共生・協働を可能にする基礎的専門知識、コミュニケーション能力、判断力を身につけられるような教育を提供している(3-②-1)。外国語教育センターは、共通教育における外国語教育と外国人留学生別科における日本語と日本文化についての教育をとおして、南山大学の理念と目的を実現しようと努めている(3-②-2)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	3-②-1「南山大学 3つのポリシー」 3-②-2「南山大学外国語教育センター規程」



			研究所/研究センター等名称	外国語教育センター	氏名	花木 亨			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方法を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合を、冊子のページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。	外国語教育センターでは、センターの目的に沿って教員を任用するための人事計画を定めている(6-②-1)。大学設置基準において必要となる教員数を遵守しつつ、年齢や性別などのバランスに配慮しながら教員組織を編成している(6-②-2)。	人事計画に沿って教員組織を編成している。年齢や性別などのバランスに配慮して組織を編成している。語学講師の退職などの突発的な事態に対応し、適切に非常勤講師を委嘱している。	英語教育部門において、年度末に退職を願った語学講師がおり、その後任人事が間に合わなかった。	特になし。	2019年度中に2020年度に向けた語学講師の任用人事を進める。	6-②-1「外国語教育センター人事計画」「外国人留学生別科人事計画」 6-②-2「外国語教育センター委員会記録」
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。	各部門において、以下のFD研修会を開催した。その内容はどれも外国語教育に直接的に関わる実践的なものだった。(6-④-1)  【英語教育部門】 ・FD Session (2018年9月14日、2019年2月1日実施) ・Nanzan Language Education Seminar (2018年12月1日実施)  【初習外国語教育部門】 ・FD研修会 (2018年7月24日、2019年1月22日実施)  【外国人留学生別科】 ・日本語教育担当者FD研修会 (2018年5月7日実施、2018年9月3日実施)  それ以外にも、定例ミーティングなどにおいて、小規模なFD活動を日常的に行なった。	外国語教育センターでは、活発なFD活動が行われている。また、授業運営についての課題や問題を日常的に共有し、改善策や解決策を話し合う風土がある。外国語科目の特徴として、少人数クラスで対話的な授業運営がなされている。	特になし。	特になし。	特になし。	6-④-1「外国語教育センター委員会記録」「外国語教育センターFD活動報告」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の適切性について、大学設置基準において必要となる教員数を満たしているか、また年齢や性別などのバランスがとれているかを外国語教育センター長と各部門の副センター長たちが確認している。また、FD活動の適切性について、各外国語のコーディネーターたちと連携しつつ、センター長と各部門の副センター長たちが確認している。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	

		研究所/研究センター等名称	外国語教育センター		氏名	花木 亨				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	外国語教育センターでは、特別な配慮を必要とする学生や成績が良好でない学生など、困難を抱える学生たちに対して、全学的なルールに則り、即時に細やかな支援を行っている。必要に応じて、各学部・学科、教務課、学生課などと緊密に連携しながら、組織的に対応している。	困難を抱える学生たちに対して、即時に細やかな支援を行っている。学内の他の組織と緊密に連携している。	特になし。	A	特になし。	特になし。	
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学生への修学支援の適切性について、各外国語のコーディネーターたちと連携しつつ、外国語教育センター長と各部門の副センター長たちが確認している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

		研究所/研究センター等名称	外国語教育センター		氏名	花木 亨				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	南山大学エクステンション・カレッジに講師を提供することで、地域住民の生涯学習に貢献している(9-②-1)。また、大学間協定に基づき、豊田工業大学に講師を提供している(9-②-2)。	南山大学エクステンション・カレッジと豊田工業大学に継続して講師を提供している。	特になし。	A	特になし。	特になし。	9-②-1「南山エクステンション・カレッジ公開講座パンフレット」 9-②-2「学外出講教員一覧」
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	南山大学エクステンション・カレッジと豊田工業大学において、どの所属教員がどのような科目を担当しているかについて、外国語教育センター長と各部門の副センター長たちが確認している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

		研究所/研究センター等名称	教職センター		氏名	宇田 光			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教育研究組織については、大学の理念・目的に沿って構成している。学際的な教育・研究を活性化できるよう、必要な教員を揃えている。研究発表の場として、教職センター紀要を昨年度に創刊した。毎年の年度末に教員の教育研究業績を提出してもらい、定められた基準に従って適切に点検・評価を行っている。	報告を求めている内容は著書・論文、その他の業績、学内外での研究活動、授業負担、大学運営への貢献、である。これらを毎回確認しており、これまでのところ、基準を下回って問題となったことは無い。	A			「2018年度教職センター教員評価のための報告」

			研究所/研究センター等名称	教職センター	氏名	宇田 光			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。	教職センターにおいては、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成してきた。基本的には、本センターの所属教員は、学長特別枠で採用されている。	教職課程における教員組織については、教育職員免許法上の基準を満たすように設定されている。その適切性は、今回の再課程認定申請においても認められている。	A		「教職センター教育職員選考手続き等に関する申し合わせ」	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。	教員の資質向上のために、センター所属の各教員はそれぞれ学内外の各種FD活動に参加している。	一部の教員は、学外FDの講師を務める場合もあるなど、大学教育の改善には積極的に関与している。	B	各学部学科においては、それぞれFD活動を行っているが、教職センターとしてはこれまで独自のFD企画をおこなっていない。	教職センターとして独自のFD講演会等をおこない、学内外の教員に対して積極的に貢献していく必要がある。	なし
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 教職課程の教員組織は、教育職員免許法上の基準を満たすように設定されている。(2) 毎年の年度末に教員の教育研究業績を提出してもらい、定められた基準に従って適切に点検・評価を行っている。	教育研究業績はいずれも基準を満たしている。また、各学期に実施されている学生による授業評価においても、本センターの教員の結果はおおむね良好な状態である。第2Qにおける学生による授業評価を見ると、教職センター所属教員の平均値(項目3から14)は4.35となっている。	A		「2018年度教職センター教員評価のための報告」 「学生による授業評価」のまとめ 2018年度第1クォーター・第2クォーター P.110、111	

		研究所/研究センター等名称	教職センター		氏名	宇田 光	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
基準7	学生支援	<p>(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。</p>	<p>教職センターにおいては、専任の教職員のほか特別に相談員を配置して、個別のニーズに対応する支援をおこなっている。本年度も、非常勤相談員が毎週水曜日の午後在室して教職キャリア相談等に当たるなど、教職を志す学生に対して、小論文指導、面接指導、集団討議指導を活発に実施することができた。</p>	<p>相談員が個別に対応する支援をおこなっている。また、ティーチングアシスタントが設けられて、院生による助言が受けられる体勢が整っている。これらの組織によって学生支援がなされているほか、学生たちも、自主的な組織(KON)をつくって、教員採用試験に向けて勉強会を開催するなどしている。このほか、教職センターの資料を利用して、個別の学習がなされている。さらに、OB組織である南友会も研修会を開催して面接や討論の練習をするなど、活発な活動が行われている。</p>	A		<p>2018年度第7回教職センター会議資料：「教職センターの非常勤相談員について(依頼)」</p> <p>2018年度第5回教職センター委員会資料：「2019年度教職センター非常勤相談員・学生TAの勤務時間数について」</p> <p>2018年度第5回教職センター会議資料：「南友会2月研修会開催について」</p>
		<p>(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>利用者の声は適宜、センターの運営に反映されている。センターの利用状況、利用者数については、センター会議・センター委員会において適宜報告され、改善に向けて検討がなされている。</p>	<p>センターの利用者は増加傾向にあり、積極的に活用されている。利用者には、コンスタントにやってきて学習に利用している学生のほか、勉強会を開催している団体であるKONの行事への参加者などが多くを占めている。</p>	A		<p>「教職センター利用者数2018年度」</p> <p>「2018年度教職センターイベント実施および活動実績」</p>

		研究所/研究センター等名称	教職センター		氏名	宇田 光		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
基準9	社会連携・社会貢献	<p>② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。</p>	<p>(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】</p> <p>教職課程の運営では、教育実習校、介護等体験の諸施設、教育委員会、社会福祉協議会など、様々な外部機関と綿密な連携が必要である。教育実習校、介護等体験の諸施設ともに、実習期間中に見廻り教員を派遣するなど、密接に連携を取る姿勢を取っている。</p>	<p>教職センターにおいては、毎年「教員免許更新講習」を開催している。本学卒業生を含め、多数の現役教員がこの講習を受講して、免許更新を実現している。本年度は、必修領域(1講座、定員130名)、選択必修領域4講座(定員合計、160名)、選択領域13講座を開講することができた。これらのうち、必修領域・選択必修領域は主に教職センターで担当しているほか、一部の選択領域講座も本センターの教員が担当している。</p>				<p>2018年度第7回教職センター委員会資料：2018年度(平成30年度)教員免許状更新講習開講講座一覧</p>
		<p>③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p> <p>以上のような社会連携・社会貢献の現状については、センター会議・センター委員会において適宜報告され、意見を収集している。その結果をもとに改善・向上がなされてきている。</p>	<p>免許更新講習においては、事後アンケート調査が行われている。その結果を見ると、各講座はおおむね好ましい評価を得ている。必修領域の講座においては、116名の参加者があったが、事後アンケート調査の結果、「本講習の内容・方法について」で肯定的な回答は96.5%であった。同様に、「最新の知識技能の修得の成果」では95.7%、運営面については97.4%であった。</p>				<p>免許状更新講習の認定申請等要領(平成30年度開設用)様式第8号：免許状更新講習受講者評価書</p>

		研究所/研究センター等名称	体育教育センター		氏名	佐々木 克巳				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 本学が掲げる「キリスト教世界観に基づく学校教育を行なう」という建学の理念と、それを端的に表す「人間の尊厳のために」という教育モットーのもと、体育教育センターは共通教育科目の体育・スポーツ科目を中心に教育研究において実現し、学生一人ひとりに浸透させることに取り組んできている(3-②-1)。この点を促進するため、体育教育センター会議の下部組織として体育科目運営会議を構成し、具体的なカリキュラム内容について審議・検討を重ねてきている。また国際化ビジョンを鑑みて、体育教育センターを紹介するWebページの英語化をした(3-②-2) (2) 毎年度末、教育研究の適切性を含め、センター員各自から教員評価報告書の提出を求め、自己点検・評価し、報告書を作成している。また教育研究業績については、広く社会に公開する取り組みとして、当該年度の教育研究活動状況を、本学の研究業績システムに入力するように義務づけている(3-②-3)。	特になし。	点検・評価については、大学の理念・目的に沿った運営の点検・評価が必要である。	B	特になし。	年度はじめに、体育教育センター規程を確認し、実際の運営との整合性を点検・評価する。	3-②-1南山大学体育教育センター規程 <a href="https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daigaku/dpart2/d2700.pdf">https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daigaku/dpart2/d2700.pdf</a> 3-②-2南山大学体育教育センターWebページ <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/pec/index.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/pec/index.html</a> 、体育教育センター会議第4回記録(審議事項2)、第12回記録(審議事項1) 3-②-3南山大学研究業績システム <a href="https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/">https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/</a>



		研究所/研究センター等名称	体育教育センター		氏名	佐々木 克巳				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができています。	体育教育センターでは、教員の募集・採用・昇格は「南山大学教育職員選考規程」に基づいて行われる(6-②-1)。加えて「体育教育センターにおける教員評価の基準と実施体制に係る内規」を定め、3年単位で3編の学術論文または著書を刊行していることという日常的な評価基準を課している(6-②-2)。さらにセンター員6名という小組織であるが、一部、年齢が近い教員がいるものの、年齢のバランスを取るようになっている(31~35歳1名、41~45歳1名、46~50歳2名、61~65歳1名、66~70歳1名)。また、多種多様なカリキュラム構成とするため、専任の教育職員の教育と研究の専門性が重複しないように検討するだけでなく、非常勤講師についても、体育科目運営会議にて定期的に検討している(6-②-3)。	特になし。	センター員6名のうち、男性教育職員が5名を占めており、全学的な学生の男女比率を勘案すると、今後、男女比を見直すための検討が必要である。	特になし。	今後、採用人事の際に、教育職員の男女比を改善するように検討する必要がある。	6-②-1南山大学教育職員選考規定 <a href="https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daijaku/dpart3/d3030.pdf">https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daijaku/dpart3/d3030.pdf</a> 6-②-2体育教育センター会議第2回記録(懇談事項1)、第4回記録(審議事項1) 6-②-3体育科目運営会議第1回記録(審議事項1)、第2回記録(審議事項1)、第5回記録(審議事項1)、第6回記録(審議事項1)	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。	合理的配慮を必要とする学生を含め、クォーター制に合わせた教育内容の充実を図ることを目的として、カリキュラム変更に合わせて成績評価基準の審議に付随したFD活動、および懇談会(2018年5月12日(土))を実施した。その結果、専任教員・非常勤講師ともに、授業運営、カリキュラム改善に関する知見を生かした学修促進となった(6-④-1)。毎年度末に、教員評価報告書の提出を義務づけ、自己研鑽を促進している。また毎年度各センター員が個々で必要と考える内容を実施している各学部・各学科・各センターでのファカルティ・デベロップメント研修会に参加し、教員の資質向上、組織改善・向上に努めている。	特になし。	毎年度末に、教員評価報告書の提出を義務づけ、その報告書を「体育教育センターにおける教員評価の基準と実施体制に係る内規」(6-④-2)に基づいて教育職員評価委員会が評価等を行うことになっているが、内規の施行が2018年4月1日からであるため、その教育職員評価委員会の実質的な運用は始まっていない。	B	全学的な視点から、体育教育センターとしてFD企画を計画・実施する体制ができればその方が望ましい(6-④-3)。	外国語教育センターでの例を参考に、「体育教育センターにおける教員評価の基準と実施体制に係る内規」に基づいて、教員評価委員会の運営をはじめ。	6-④-1FD活動方針・活動計画 <a href="http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/fd/item/方針_10_2018年度共通教育科目FD計画.pdf">http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/fd/item/方針_10_2018年度共通教育科目FD計画.pdf</a> 、報告 <a href="http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/fd/item/報告_10_2017年度共通教育科目FD活動報告.pdf">http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/fd/item/報告_10_2017年度共通教育科目FD活動報告.pdf</a> 、体育教育センター会議第1回記録(報告事項2)、第12回記録(報告事項5) 6-④-2体育教育センター会議第2回記録(懇談事項1)、第4回記録(審議事項1)

		研究所/研究センター等名称	体育教育センター		氏名	佐々木 克巳		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 教育および研究の専門領域の重複、年齢構成のバランスが取れた教員組織を構成するよう、体育科目運営会議にて自己点検を実施するだけでなく、非常勤講師の専門性を念頭に置き、カリキュラム内容を構成してきている(6-⑤-1)。(2) 各年度の初めに共通教育科目FD活動方針・活動計画を立て、年度末に共通教育科目FD活動報告を、共通教育委員会に提出し、FD活動の適切性について検証を行っている(6-⑤-2)。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	6-⑤-1体育科目運営会議第1回記録(審議事項1)、第2回記録(審議事項1)、第5回記録(審議事項1)、第6回記録(審議事項1) 6-⑤-2FD活動方針・活動計画 <a href="http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/fd/item/方針_10_2018年度共通教育科目FD計画.pdf">http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/fd/item/方針_10_2018年度共通教育科目FD計画.pdf</a> 、報告 <a href="http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/fd/item/報告_10_2017年度共通教育科目FD活動報告.pdf">http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/fd/item/報告_10_2017年度共通教育科目FD活動報告.pdf</a> 、体育教育センター会議第1回記録(報告事項2)

		研究所/研究センター等名称	体育教育センター	氏名	佐々木 克己				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方法を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	体育教育センターが管掌する体育・スポーツ科目は、定期試験期間中に試験を実施しない科目であるため、毎回の授業での学修成果で成績が評価される。そのため、欠席回数過多および成績不良になりかねない学生の担当教員間で当該学生に関する情報を共有し、学修効果を改善するように努めている(7-②-1、7-②-2)。また、2016年4月1日から施行された「障害者差別解消法」による「合理的配慮」が努力義務となったことに基づき、配慮内容・対応をセンター員(専任教職員)と担当教員(非常勤講師)間で共有している。	新年度の開始以前に該当する学生を把握するために重要な「障がい学生に対するサポート体制」についての情報共有会議(2018年3月30日(金)11時～、本部棟2階第4会議室)への同席が2018年度から認められるようになり、情報収集に努めるように改善した(7-②-3)。合理的配慮に該当する学生あるいは連年学生については、副センター長が学長、校医、看護師、保健係長と連絡を密にすることによって、履修補助をする体制に変更した(7-②-4)。また学長方針である「国際化推進」の一端である9月入学の留学生への対応として、担当教員による初回授業での履修ガイダンス補助、およびアクティブラーニングを推進する一方策として学生が協働的に学ぶカリキュラム提供となる授業を展開するように改善してきた(7-②-5)。	体育教育センター内に、体育・スポーツ科目の学修を促進する運営組織として体育科目運営会議を設置しているが、学校医面談に立ち会ったセンター員から他のセンター員に対しては、面談の情報十分提供されているとは言えず、その体制の点検が必要である。	欠席過多あるいは成績不良の学生に対するチーム・ティーチングにおける情報共有は概ね機能していると判断されるため、維持していく。配慮が必要な学生については、学内の学生支援組織(例えば、保健センター)との連携について、新年度初めに再確認し、連携強化を図っていき、国際化に伴う留学生の受講支援については、アクティブラーニング・協同学習を取り入れる授業を増やし、学生間で一層ピア・サポートできるカリキュラム提供するように、担当教員に働きかけたい。	7-②-1体育科目運営会議第7回記録(審議事項1) 7-②-2体育科目運営会議第9回記録(審議事項1) 7-②-3障がい学生に対するサポート体制についての情報共有会議資料 7-②-4体育科目運営会議第6回記録(報告事項1) 7-②-5南山大学体育教育センターWebページ <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/pec/index.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/pec/index.html</a> 、 <a href="https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/">https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/</a>	
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	修学支援の適切性の検証・評価として、体育科目に関する「学生による授業評価」だけでなく、体育教育センター会議の下位組織として設置されている体育科目運営会議にて、定期的に情報共有し、改善・向上に繋げている(7-③-1)。合理的配慮が必要な学生への支援の検証・評価として、「合理的配慮の申請があった学生に対する対応(改善案)」として、下記の「手続き」および「確認項目」を設定した(7-③-2)。「手続き」については、(1) 学校医面談、(2) 担当医からの意見書、(3) コーディネーター、(4) 情報共有、(5) 基礎体育[特]の開講形態、の5項目で主に構成されている。具体的な「確認項目」は、(1) 学校医面談に至るまで(2項目)、(2) 学校医面談において(5項目)、(3) 診断書・意見書について(4項目)、(4) 校医面談の記録(1項目)、(5) 配慮を求める学生との相互確認(3項目)、(6) 保健センターへの確認(2項目)で構成されている。	特になし。	学生支援に関する情報共有について、体育教育センターでの会議(体育教育センター会議、体育科目運営会議)を通じた情報共有に留まらず、非常勤教員を含めたすべての授業担当教員がより確実に情報共有できる態勢を整えていく必要がある。	特になし。	新年度初めの体育科目運営会議にて、「合理的配慮の申請があった学生に対する対応」に沿った手続き、および、合理的配慮が必要な学生に関する情報を確認し、共有する。また、クォーター中に新たに合理的配慮が必要となった学生に関する情報共有について、次クォーターの科目担当教員とより確実に情報を共有する方法について改善策を検討する。	7-③-1体育科目運営会議第1回記録(審議事項1)、第2回記録(審議事項1)、第5回記録(審議事項1) 7-③-2体育科目運営会議第4回記録(審議事項1)

		研究所/研究センター等名称	体育教育センター		氏名	佐々木 克巳				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	社会貢献に関しては、センター員個々が、スポーツ関係の協会・連合および学術団体等の役割を務めている(9-②-1)。	特になし。	特になし。	A	適切な機会があれば、組織としての社会連携・社会貢献について前向きに検討したい。	特になし。	9-②-1南山大学研究業績システム <a href="https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/">https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/</a>
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	毎年度末、センター員各自から教員評価報告書の提出を求め、その報告書に社会貢献の欄もあり、それをセンター長と副センター長が確認するしくみがある(9-③-1)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	9-③-1南山大学体育教育センター規程 <a href="https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daijaku/dpart2/d2700.pdf">https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daijaku/dpart2/d2700.pdf</a>

		研究所/研究センター等名称	国際センター	氏名	星野 昌裕			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 国際センターは、2013年度に国際化推進本部長(ミカエル・カルマノ学長)名で出された『国際センター設置に向けた報告』の序言、すなわち「グローバル化された世界で、南山大学が「世界から選ばれ、世界に人材を輩出する大学となる(グランドデザインより)」ために、1) 教育・研究の国際性および革新性を高める、2) 国際的情報発信力を養成する、3) 地域・国・世界に貢献できる大学となることを目標に、国際教育センターを発展的に改組し国際センターを設置する」との主旨にそって立ち上げられた。大学のグランドデザインおよび国際化ビジョンに示された方針のもと、国際化推進のための具体的な事業に取り組んでいる。  (2) 毎年度の学長方針および事業計画に記載される内容は、国際センターの国際化推進の指針であり、センター内国際戦略部門会議での取り組みについて検証をしている。また、補助金を受給する2件の「大学の世界展開力強化事業」については、専門委員による外部評価者会議により、プログラムの質の保証を維持することとしている。	・ 学生交流促進のため、協定校の新規開拓に努め、2018年度末までに30か国102大学との協定校となった。昨年度から7か国16大学の大幅な増加である。これは、2018年度学長方針の中で、現在交渉中の大学との締結が果たされた場合の数字と一致しており、その意味で評価できる。  ・ 平成30年度「大学の世界展開力強化事業(COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援)」に採択された。40年以上続けてきた米国との交流が採択されたことは、本学にとって大きな意味を持つ。	特になし	・ 国際化ビジョンに示された、2027年までに約130校まで増やす目標達成に向け、センター役職員および事務職員が新規開拓および交渉を続けていく。新規に締結した協定校へは、毎年コンスタントに交換留学生として派遣および受入れの実績を積み重ねよう働きかける。	・ 協定校一覧  ・ 平成30年度「大学の世界展開力強化事業(COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援)」選定結果 <a href="https://www.jp-ps.go.jp/j-tenkairyoku/dafa/shinsa/h30/j_h30_tenkai_kokka.pdf">https://www.jp-ps.go.jp/j-tenkairyoku/dafa/shinsa/h30/j_h30_tenkai_kokka.pdf</a>

			研究所/研究センター等名称	国際センター		氏名	星野 昌裕		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。  現在、3名の有任期の特別任用講師(国際教育交流担当、「大学の世界展開力強化事業(中南米)」担当、「大学の世界展開力強化事業(米国)」担当)が国際センターに配置されている。 2018年度末に国際教育交流担当の特別任用講師1名が退職し、その補充として公募を実施した。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	・教員配置表
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。  年1回、外部講師を招いたFD講演会を開催し、国際教育交流に関する知識、他大学の事例等を習得し、業務に活用している。2018年度は、関西大学国際部教授 池田佳子氏を講師として、「COILの実践と可能性について」というテーマで実施した。同大学におけるCOIL型授業運営および学生交流の事例を聞き、意見交換を行った。	FD講演会は、所属教員の知識・スキルの習得に役立っている。	特になし	A	2019年8月26日～28日に、本学会会場として、2019国際教育夏期研究大会(一般社団法人持続可能な国際教育推進のための研究コンソーシアム主催)が開催される。この大会に、本学教職員が参加可能である。このほか、補助事業の中で、教員が他大学へ出張し、先行事例からノウハウを習得する。	特になし	・開催通知
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) (2)特別任用講師の更新にあたっては、教育、研究および国際教育交流業務に関する評価を実施する。この中で、FD活動への参加やその活用についても評価する。  (1) (2)特別任用講師の更新にあたっては、教育、研究および国際教育交流業務に関する評価を実施する。この中で、FD活動への参加やその活用についても評価する。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	

			研究所/研究センター等名称	国際センター	氏名	星野 昌裕				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料			
			m	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	30か国以上から受け入れる外国人留学生に対しては、宗教、文化、習慣の違いに配慮して、学生を指導している。外国人留学生別科において特別な配慮が必要な学生に対しては、当該学生および協定校・機関からの事前の申し出を受け、試験時間の延長等教務上の配慮をしている。また、個別指導の必要ある学生については、ジャパンプラザの学生TAを活用して、補習的な指導を行っている。  派遣留学生への支援としては、協定校への派遣留学の促進のため、年2回の南山留学フェアを実施している。別科へ受け入れている交換留学生から協定校での修学および生活の様子を直接聞くことのできる機会を設けている。	特になし	精神的な課題を抱える留学生が増えており、対応が必要とされる。	A	特になし	年間を通じて、協定校・機関との連絡、保健センターとの連携を密にし、精神的にケアの必要な学生を外国語による早期のカウンセリングや受診に繋げる。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	授業に関しては「学生による授業評価」により検証している。  派遣留学では、学生から提出される「中間報告書」「帰国報告書」により留学の効果を検証している。  派遣留学生から提出された帰国報告書の留学全般にわたる感想の自由記述には、「留学して本当に良かった」「素晴らしい経験ができた」「留学で得たものは想像よりも大きかった」「語学面だけでなく、精神的な面でも成長できた」など、全般的に満足度の高いコメントが記されている。	特になし	授業評価においては、日本語科目およびその他の科目とも、授業運営および授業全体にかかる項目の平均が、4.6~4.8の間で推移しており、おおむね高い評価を受けている。	A	引き続き、別科教員が各日本語レベル別のミーティングや全体チーム座談会等を通じて、課題のある学生の共有に努め、事務室やジャパンプラザTAと連携し、可能な限り支援する予定である。  派遣留学においては、問題等が生じた場合には、Skype等を活用して学生本人または留学先大学担当者との連絡をとり、解決を図る。また、客観的に留学の効果を測定できる評価モデルの導入を検討する。	特になし	

		研究所/研究センター等名称	国際センター		氏名	星野 昌裕			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	<p>(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】</p> <p>国際学生宿舍の一つであるUR千代が丘住宅では、同住宅コミュニティの交流の場であるサロンに、居住する外国人留学生在が参加し、交流行事の運営に関わっている。</p> <p>インターナショナルウィークのうち、ロシア、スウェーデン、コロンビア各ウィークで開催した講演会を一般公開し、地域の方に参加していただいた。</p> <p>小中学生向け講座では、国際センターが担当する「いろいろな国の留学生と楽しく交流しよう！」を実施した。</p> <p>南山大学附属小学校連携事業の一つとして、同校児童のオリエンテーリング「英語で話そう」に、外国人留学生在が対応している。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>・講演会「Colombia Week チラシ裏」</p> <p>「Sweden Week 2018」 「ロシアウィークポスター」</p> <p>・講座 「小学校オリエンテーリング」</p> <p>・オリエンテーリング 「オリエンテーリング活動予定について」</p>
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>部門会議にて、その適切性を検証した。</p>	<p>特になし</p>	<p>特になし</p>	<p>特になし</p>	<p>特になし</p>	<p>特になし</p>	



		研究所/研究センター等名称	情報センター	氏名	野呂 昌満			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 本学の建学の理念に則って、本学の諸活動を円滑化するための情報化推進および情報環境の充実を図ることを目的として、情報センターの運営を実施している。(3-②-1) (2) 情報センターには、その目的を達成するために『情報センター運営委員会』(3-②-2)を置いている。情報センター運営委員会は、毎年自己点検・評価を実施し、目的に照らした運営がおこなわれているか検証を行っている。	1. 全学的な情報環境整備にかかる案件について、計画的かつ着実に任務を遂行している。具体的には、2017年度学長方針(3-②-3)に記載された『キャンパス整備』に沿って、2018年度までに全教室の無線LAN整備が完了した。また、『One Campus Many Skills』による教育のさらなる充実』の中で触れられている『学生の自主的な学びの場の充実』を実現するために、キャンパス内に複数のラーニング・コモンズを設置し運営している。 2. 情報化推進についても、2017年度から全学部必修となっている『情報倫理科目』の開設・運営に携わっている。本科目では、アクティブ・ラーニングおよびeラーニングを積極的に取り入れ、学生自身が主体的に考え学習・行動する授業運営となっている。2018年度授業終了時点において学生に対してアンケート(3-②-4)を実施した結果、80%以上の学生が、アクティブ・ラーニングの授業運営を肯定的に捉えていた。	特になし。	A 情報環境整備に関する案件において、最も重要な課題がBYOD(Bring Your Own Device)である。無線LAN環境を全教室に整備することは完了したが、利用者が自らの端末を大学に持参し、授業や個人学習・協働学習の際にストレスなく利用できる環境を提供しなければならない。PC教室を利用希望した授業数は、2017年度413、2018年度286となっている(3-②-5)。前年度比69.2%になったことになる。2020年度までには、150程度になるように教員へのFD活動および啓蒙活動を展開していきたい。	特になし。 3-②-1「南山大学情報センター規程」 3-②-2「南山大学情報センター運営委員会規程」 3-②-3「2017年度学長方針」( <a href="http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/position/2017/index.html">http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/position/2017/index.html</a> ) 3-②-4「2018年度授業アンケート集計報告」 3-②-5「年度別学科別Q別_PC教室使用状況一覧」

			研究所/研究センター等名称	情報センター	氏名	野呂 昌満		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができているか。	南山大学情報センター規程(6-②-1)に則り組織を構成している。情報センター長の下に、3つの部門を設けており、それぞれに専任教員を置いている(6-②-2)。	情報センターの3部門と情報センターを運営する情報センター事務室の3係が1:1に対応している。このことが、情報センターが円滑に運営されている大きな要因となっている。3部門会議の開催回数(2018年度)がその客観的な証拠となっている。(情報基盤部門会議:4回、情報システム部門会議:3回、情報教育部門会議:5回)	特になし。	特になし。	6-②-1「南山大学情報センター規程」 6-②-2「2018年度情報センター組織編成」
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。	情報センターが講義主体となっている「情報倫理」は、教員が講義形式で一方的に教えるのではなく、学生が主体的に仲間と協力しながら学びを深める「アクティブ・ラーニング型」の授業形態を採用している。全学部の1年次生を対象とした必修科目であるため、理工学部を中心に7名の教員で担当しており、コーディネータである情報センター所属教員がeラーニングシステム(WebClass)に授業コンテンツを用意し、各教員と共有することで対面授業を実施している。担当教員によって、クラス間で指導内容に差が生じないようにするため、年に1回情報倫理FD情報交換会を実施し、授業コンテンツおよび対面授業の運営方法等について情報を共有し、資質の向上に努めている。(6-④-1) また、授業期間中に生じる問題については、メイリングリストにより常に情報を共有し、足並みを揃えて解消に当たっている。	eラーニングで事前学習を行い対面授業に臨む授業形式(反転授業)および対面授業におけるグループワーク等のアクティブ・ラーニングの手法については、アンケート回答者の8割以上が理解が深まったと回答しており、一定の評価があったと認識している。(6-④-2)	特になし。	「情報倫理」の授業形式(6-④-3)は一定の評価があると認識しているため、当面は同様の形式で実施するつもりである。今後は対面授業の方法について、担当教員間で効果のあった手法を情報共有することで、更に効果を上げたい。具体的には、2019年度末までに、受講生対象アンケート結果の中の「対面授業におけるグループワーク等のアクティブ・ラーニングによって、この科目についての理解が深まったと思う。」という質問事項に対する肯定的な回答率が現在の80.7%から85%まで向上させたい。	6-④-1「2018年度情報倫理FD研究会記録」 6-④-2「2018年度授業アンケート集計報告」 6-④-3「情報倫理授業形態」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 情報センターの教員組織は、大学情報センター規程(6-⑤-1)に則って編成している。組織は、センター長の下に3部門を設け、その部門に対応する形で部門会議を置いて運営している。部門会議には、専任教員である議長以外に3名~7名の委員が任命されている(6-⑤-2)。各部門運営については、毎年情報センター運営委員会自己点検・評価報告書(6-⑤-3)を作成して、運営に関する適切性について評価を行っている。 (2) 授業アンケートの自由記述欄で指摘される事項について問題点があれば、メイリングリストによるメールおよびFD情報交換会で情報を共有し、次学期、次年度に改善・向上できるように取り組んでいる。	(1) 特になし。 (2) 特になし。	(1) 特になし。 (2) 特になし。	(1) 特になし。 (2) 特になし。	6-⑤-1「南山大学情報センター規程」 6-⑤-2「2018年度情報センター組織編成」 6-⑤-3「2017年度情報センター運営委員会自己点検・評価報告書」

		研究所/研究センター等名称	情報センター	氏名	野呂 昌満				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	日本語を習得中の学生がいる場合は、eラーニングのコース内にふりがな付きテキスト教材を準備し対応している。(7-②-1) また、配慮が必要な学生の授業受講については、個々の学生の個別支援要望に真摯に向き合い、学生の状況をしっかりと把握した上で、適切な配慮を行っている。特に個人情報保護に配慮した上で、関係課室間で情報共有を行い、適切に個別支援を行っている。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	7-②-1「日本語習得中の学生」
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	配慮が必要な学生の授業受講については、eラーニングでの取り組みやグループワークの様子をこまめに把握する等の対応を行っている。	「情報倫理」では、大学全体の授業評価アンケートとは別に、「受講生対象アンケート」を実施している。その中には、自由記述の意見聴取もを行っている。2018年度の自由記述の意見の中には、学生への修学支援に関する不満の声はなかった(7-③-1)。	特になし。	特になし。	特になし。	7-③-1「2018年度授業アンケート集計報告」

		研究所/研究センター等名称	情報センター	氏名	野呂 昌満			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが最適した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善の方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】	「情報倫理」では、以下をテーマとして取り上げている。(9-②-1) ・情報化社会において社会生活を営む上で他者の権利との衝突を避けるため各個人が守るべきルールを学ぶ ・インターネット社会における規範・規律を学ぶ ・情報通信技術の変化に対応した行動理念や行動基準を学ぶ 「情報」という観点から社会と関わる姿勢(連携・貢献)を身につけた学生を社会に送り出すことで、教育内容を社会に還元していると考えている。	「情報倫理」における評価基準の一つに「情報ネットワーク社会におけるルールを理解している」を上げている(9-②-1)。この基準については、反転授業を行って知識の定着を確実にしている。まず、eラーニング上でソーシャルメディアへの書き込みなどネット上で行う情報発信にはどのような社会的責任や法的責任が伴うかを理解した上で、グループ内ディスカッションを経て、クラス全員の前で発表することになっている。	A	eラーニング上では、学生毎に進捗を管理している(9-②-2)。また、eラーニングで修得した知識について、小テストを実施して知識の定着を図っている。今後は、課題をより実践的な内容にして、実社会において適切に生活できる人材育成に努めたい。2019年度の発表課題に実際に社会で起きている事件や事故を採用し、他者のレポート評価やグループ討議を通して他者の考えに触れる中で、自分の考えとの相違について真剣に考えさせたい。このため、他者のレポート評価時には、まず相手のレポートの要約を書かせることにした。	9-②-1 「情報倫理」シラバス 9-②-2 「情報倫理 eラーニング進捗状況」
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	「学生による授業評価」だけでなく、独自に「授業アンケート」を実施し、担当教員間で成果の確認と授業内容の向上を図っている。(9-③-1)	特になし。	A	特になし。	9-③-1 「2018年度授業アンケート集計報告」

			研究所/研究センター等名称	人類学博物館	氏名	吉田 竹也			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 人類学博物館では大学の理念である「人間の尊厳のために」に沿い、誰もが知的好奇心をもって楽しめる博物館をめざし、運営している。運営の中心は博物館運営委員会であり、また、資料の受入については資料評価委員会に諮問するなど、外部の意見を取り入れる体制をとっている。このほか、博物館活動のサポート(特に団体対応)のために、現状で12名の博物館ボランティアを育成している。 (2) 博物館運営委員会および資料評価委員会の会議の中で、課題があれば議論することとしている。なお、2019年度には、外部の有識者を中心とし、いわゆる外部評価委員会形式によって博物館評価を行う予定である。	(1) ユニバーサル・ミュージアムと言うためには、視覚以外の障がいのある人、特に聴覚障がい者への対応も検討すべきであるが、現状ではほとんどできていない。手話による展示解説の映像制作など、できる範囲で準備を始める必要がある。2019年度には聴覚障がい者を招いて研修会を開催する予定である。	B	2019年度に外部の視点から博物館評価を行い、その成果を分析して、より良い博物館の実現を目指す。具体的には、視覚以外の障がい者に対する対応を実現すること、展示を通した歴史・文化の理解を促進するプログラムを改善・開発していくこと、収蔵資料に関する研究を促進していくことなどが挙げられる。	聴覚障がい者からのニーズが把握できていないので、どのような対応が必要であるのかを調査する必要があるが、当面は外部有識者による2回目の博物館評価の際に一定の成果を挙げたいと考えている。	人類学博物館webサイト掲載の年報 (http://rci.nanzan-u.ac.jp/museum/katsudou/nenpou/) 2018年度第1回・第2回人類学博物館運営委員会議事録

		研究所/研究センター等名称	人類学博物館	氏名	吉田 竹也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編成しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編成ができています。	現状は、館長(教学担当副学長兼務)・学芸員2名(特別嘱託)・事務職員1名(専任嘱託)・臨時職員1名で運営されている。職員はいずれも教育・研究支援事務室の所管である。博物館の体制としては、学芸部門と事務部門が分けられているので、公立博物館などに見られる博物館組織と同じ形になっており、そういう意味では適正な形となっているといえる。博物館活動の企画・運営には博物館担当教員があたり、かつ博物館運営委員会委員長となること、「南山大学人類学博物館規程」および「南山大学人類学博物館運営委員会規程」にある。これらの規程に従い、現状では人類文化学科教員がこの任に就いている。	(1) 2017年より、博物館担当教員(運営委員会委員長)の担当授業教員が増えている。	(1) 学芸員の雇用条件に改善すべき点が多い。現在、学芸員は特別嘱託として雇用されている。しかし、博物館の専門職としての能力を有する人材を確保するには、本学の特別嘱託は待遇面では決して良くはない。また、特別嘱託の任期が5年ということも博物館事業の継続性という観点からは短い。 (2) 人類学博物館の将来を考えると博物館担当教員(運営委員会委員長)の継続は重要な課題であるが、博物館運営に経験があり、人類学博物館が所蔵する多岐にわたる収蔵資料に幅広く関心をもち、なおかつ人類学博物館のユニバーサル化への取り組みに理解と意欲を持つ人材を見つけることは難しい。	特になし。	(1) 正規職員としての学芸員採用が難しいのであれば、少なくとも専門職としての能力を有する人材が魅力を感じる待遇を考えるべきであろう。 (2) 博物館担当教員の人事計画を策定していく過程で、現在の運営体制で良いのか、見直すべきなのかも含めて検討すべきである。	南山大学人類学博物館規程 南山大学人類学博物館運営委員会規程
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。						
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針について、どのような検証を行っているか。 (2) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 学芸員の職務には、資料研究者と他の博物館を含む諸機関や研究者への対応などが含まれる。しかし、現在の学芸員は特別嘱託という立場であるため、勤務時間の制約が大きく、博物館業務に必ずしも適合していない。それに加え、本様式の「点検・評価」欄の「改善すべき事項」においても述べているとおり、継続性が重視される博物館活動において、5年の任期ではそれが担保されない。以上のような状況を、博物館運営委員会において適宜報告をし、課題として共有している。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	2018年度第1回・第2回人類学博物館運営委員会議事録
						B			
						A			

			研究所/研究センター等名称	人類学博物館	氏名	吉田 竹也	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の『評価の視点』	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。  ③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】多様な背景を持つ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。				
		(1) 【外国語教育センター、体育教育センター、教職センター、情報センター、国際センターのみ回答】学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。					

		研究所/研究センター等名称	人類学博物館		氏名	吉田 竹也			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。【2018年度学長方針】 (2) 誰誰もが楽しめる博物館(ユニバーサル・ミュージアム)を目指し、名古屋ライトハウス(名古屋盲文化情報センター)や名古屋盲学校との連携および協力を図っている。 (3) 大学博物館間の連携として明治大学博物館および名古屋大学博物館との連携事業を実施している。 (4) 名城大学附属高校との連携授業を行っている。 (5) 南山男子部への授業協力(資料の貸出)およびサテライト展示の制作を行っている。 (6) 国際博物館会議(ICOM)傘下にあるUMAC(University Museum And Collections)のメーリングリストを通じて国際的な大学博物館のネットワークへ参加している。	ユニバーサル・ミュージアムを目指す博物館として認知度が高まって来ている。特に視覚障がい者及びその団体の利用が増えつつある。2018年度には点字技能士協会の研修会を受け入れて、人類学博物館のユニバーサル化の経緯を説明し、展示案内・解説を行った。	視覚以外に障がいのある人への対応を検討する必要がある。まずは聴覚障がい者に対するアプローチを考えたい。	A	UMACメーリングリストを活用した情報発信を充実させていく。特に2019年度はICOM京都大会があるので、その機会を活かして国際的な認知を高めたい。	2019年度に、外部の有識者の意見等をも踏まえて、可能な改善方策を検討したい。	6-1. 人類学博物館webサイト掲載の年報 (http://rci.nanzan-u.ac.jp/museum/katsudou/nenpou/)
	社会連携・社会貢献	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。 (2) (3) については博物館運営委員会において報告し、審議しており、その際取り組みの適切性や、課題、今後の改善策などについて意見交換している。 (4) (5) については予算に関わる事業ではなかったため、これまでは運営委員会での審議や報告はしてこなかったが、今後、活動全体の適切性という観点から運営委員会に置いて点検していきたい。	特になし。	現状において特に改善すべき点は認識していない。	A	5年に1回程度、外部の有識者による博物館評価を実施する方向で検討する。	特になし。	2018年度第1回・第2回人類学博物館運営委員会議事録



		委員会/事務組織等名称	大学評議会	氏名	鳥巢 義文			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>【A】 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【B】 軽度な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】 軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合には具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	<p>大学の最高意思決定機関としての役割</p>	<p>評議会の審議事項は、評議会の審議以前に、協議会で協議を行い、その後、所管部署（学部教授会、研究科委員会、各種委員会）で審議を尽くした後に、評議会でも審議している。</p>	<p>評議会での円滑な議事進行と迅速な意思決定に繋がっている。</p>	とくになし	S	とくになし	とくになし	<p>南山大学評議会規程 南山大学協議会規程</p>
<p>(1) 前年度「＜点検・評価＞改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>								

		委員会/事務組織等名称	大学将来構想委員会	氏名	鳥巢 義文			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
1	研究科、学部等の設置・改組・廃止に関する将来構想	学部・研究科等の設置、改組については、下部組織としてワーキンググループを設置して申請作業を進め、これを全学調整機関として本委員会が議論することにより、学内の合意形成を行う。	円滑かつ適切に学内の合意形成が行われている。	とくになし	S	とくになし	とくになし	南山大学将来構想委員会規程
2	教育職員の人事案件に関する調整期間	人事権を持つ組織の長を構成員とするほか、事務処理の円滑化を目的に事務部の部長をオブザーバーとしている。教授会審議に先立ち、全学的調整機関として機能している。	円滑かつ適切に学内の合意形成が行われている。	とくになし	S	とくになし	とくになし	南山大学将来構想委員会規程
3	グランドデザインの中継総括	2017年度8月31日開催の学長室会議において、「グランドデザイン」の中間報告書の作成について了承し、学長補佐を中心に作業を開始した。その後、「2018年度学長方針」において、「III. 将来構想 3. 南山大学グランドデザインの刷新」として掲げ、学長補佐を中心に、検討作業を重ねたが、2018年度には、中間報告書を作成するには至らなかった。	とくになし	引き続き、「2019年度学長方針」においても、「II. 将来構想 3. 南山大学グランドデザインの点検」として掲げ、文部科学省が2018年11月に公表した「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン 3. 南山大学について(答申)」を踏まえて、点検および見直しを行い、2019年度には、その結果を公表する。	B	とくになし	学長補佐を中心に、執行部が主導的に、点検および見直しを行い、2019年度には、その結果を公表する。	「2018年度学長方針」、「2019年度学長方針」 「南山大学における「20年後の将来像」について(最終報告)」

		委員会/事務組織等名称	キャンパス整備計画委員会		氏名	青木 清		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	キャンパス整備計画委員会の役割	キャンパスに関する事項を把握し、施設の用途変更等はキャンパス整備計画委員会で審議している。	施設の利用状況を全学的に把握した上で、判断を行っている。	特になし	A	引き続き全学的な観点から適切な設備利用の検討を行う。	特になし	南山大学将来構想委員会規程第3条第3項 2002年5月21日 大学評議会承認

(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。

(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。

※必要に応じて行を増やしてください。

		委員会/事務組織等名称	個人情報保護委員会	氏名	青木 清				
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。</p> <p>規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	個人情報保護委員会の役割	個人情報の取扱について、疑問がある場合には事務局である学長室に問い合わせを行い、必要に応じて委員会にて審議を行っている。	個人情報保護に関し、2018年度は3件の相談があり、うち1件は個人情報保護委員会にて審議を行った。2件については、個人情報保護ガイドラインに沿って回答を行った。	特になし	A	引き続き、個人情報保護ガイドラインに則り対応を行う。	特になし	「個人情報保護ガイドライン」	
2	「情報セキュリティマニュアル」の見直し	個人情報保護委員会の所管事項となっている「情報セキュリティマニュアル」が、2010年以降更新されていない。	特になし	修正の必要な箇所が発見されており、また内容の妥当性についても確認が必要である。	B	特になし	情報センターの協力を得て、2019年度内に内容の確認・見直しを行う。	「情報セキュリティマニュアル」	
3	全構成員の個人情報保護の取組に対する意識向上	新入生については入学ガイダンス、新採用事務職員については新採用ガイダンス研修、新任教育職員には新任研修で、リーフレットを配付するとともに、個人情報に関する取り組みについて周知している。その他の在学生および教育職員・事務職員に対しては、PORTA（南山大学ポータルサイト）で周知している。	特になし	新入生、新任教育職員、新採用事務職員以外に対しても、個人情報保護の取り組みに対する継続的な意識の向上が必要である。	B	特になし	スタッフ・ディベロップメント委員会と協力し、個人情報についての意識向上を図るため、「個人情報について」のSD研修会を開催する。	「南山大学における個人情報保護に関する取り組み」 <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/privacy/kojinjyooho.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/privacy/kojinjyooho.html</a>	

		委員会/事務組織等名称	兼業審査委員会	氏名	青木 清			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる		[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
1	兼業審査委員会の役割	教育職員からの兼業申請は、「南山大学兼業規程」第5条により、兼業審査委員会で審議する。ただし、第8条に定めるとおり、兼業が第9条の承認基準に適合することが明白な場合、第10条の制限基準の一に該当することが明白な場合は、稟議書によって兼業の承認および承認の取り消しを判断している。 また、事務職員等の兼業の承認および承認の取り消し等については、学園事務職員等人事委員会において審議する。	委員会とは別に、コンプライアンス室が兼業申請・届出の内容を確認を行っており、これによりチェック機能が働いている。	特になし	A	特になし	特になし	南山大学兼業規程

(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  
 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  
 ※必要に応じて行を増やしてください。

		委員会/事務組織等名称	コンプライアンス室	氏名	神原 秀剛			
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
No.	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	コンプライアンス室の管掌事項と他組織との関係の整理	規程に定められた管掌事項の全てをコンプライアンス室のみで処理できる仕組みにはなっていない。2017年度より危機管理担当と規程担当を置く体制となったが、危機管理関係については学園の危機管理担当理事や内部監査室との関係、規程関係については総務課の事務分掌との関係を整理する必要がある。	特になし	危機管理マニュアル（「南山大学における危機管理について 2017年度改訂版」）冒頭の「I. 危機管理案件発生時の報告」に危機管理全般にかかる行動原則が定められており、そこには「必要に応じてコンプライアンス室に相談すること」と定められている。しかし、どのような場合に誰がどのタイミングで相談するかが明確になっていない。	C	特になし	・危機の重大性の分類等に応じて、誰がどのタイミングでコンプライアンス室と相談するかについて明確にする。その際、大学組織であるコンプライアンス室と学園の危機管理体制の関係についても留意する。 ・規程関係について、前述したとおり、コンプライアンス室と総務課の役割が異なるため、双方への事前確認が必要であることを、規程の制定・改正手続きを説明する総務課発出の文書に追記する形で構成員に周知する。	・南山大学における危機管理について 2017年度改訂版（I-1） ・コンプライアンス室規程第1条・第2条
2	依頼事項への対応	コンプライアンス室規程の管掌事項に基づき、以下の活動を行った。なお、受け付けた依頼については、全て完了した。 ・コンプライアンス相談1件 ・新規の規程・協定・契約書案の内容確認：規程12件、協定1件、契約書5件（依頼件数としては7件） ・兼業申請書の内容確認：全ての兼業申請書の事前確認（具体的な申請書枚数の統計は取っていないが、学長室からの依頼は計39回） ・コンプライアンス規程第4条に定められた委員会へのコンプライアンス室長のオブザーバ出席および第5条に定められた委員会の記録の確認。 ・研究倫理教育（e-ラーニング）の受講状況および誓約書の管理：自己点検・評価委員会および大学院委員会の求めに応じた資料の作成・提出。	依頼事項については遅滞なく対応が完了できている。	結果として現状に説明した案件を処理しているが、これが本来コンプライアンス室の確認が必要な案件全てであるかについては確認ができていない。	A	特になし	上記1とも関連するが、どのような案件の場合にコンプライアンス室への確認が必要かについては、学内に周知し、依頼漏れが発生しないようにする。	・コンプライアンス相談等受付表 ・規程確認等相談受付表 ・各委員会記録 ・自己点検・評価委員会資料、大学院委員会資料

		委員会/事務組織等名称	IR推進委員会	氏名	大石 泰章			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
					自己評定	将来に向けた発展方策		
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態あり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態あり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸长させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。</p> <p>規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	IR分析基盤構築	<p>『IR関連ソフトウェア開発方針については、IRに関するアプリケーション開発を行うのではなく、将来を見据えたIR分析基盤構築を中心に実施する。（2018年5月28日協議会了承）』に基づいて、IR分析基盤の構築を行った。</p> <p>2018年度上期において、「IR分析基盤事前検証」を実施し、IR分析に資する各種ソフトウェアの選定および分析手順の確認を行った。これを踏まえ、2018年度下期には、本格的に「IR分析基盤の本番環境作成」に取り組んだ。結果、Vertica (Data Warehouse 以下、DWH)、DataSpider (Extract/Transform/Load 以下、ETL)、QlikSense (Business Intelligence 以下、BI) の各種ソフトウェアおよびハードウェアの導入が完了した。</p>	<p>IR分析基盤を準備することで、以下の効果が上がった。</p> <p>①DWH内のデータを使用した分析が容易となった。</p> <p>②分析結果を共有することも容易となった。</p> <p>③データを時系列で保持するため、これまで実施が難しかった時間を跨った分析も可能となった。</p> <p>これを裏付ける結果として、以下の分析を試行的に行った。</p> <p>①出身高等学校と大学入学後の学修成果との相関：高校とGPAには明確な相関関係が存在した。</p> <p>②上場企業への就職者と成績あるいは留学経験有無との相関：上場企業に就職した学生の成績は必ずしも優秀ではなかった。また、留学経験があるからと言って、上場企業に就職し易いとは限らなかった。</p>	<p>試行的分析の目的、結果、課題を、以下に示す。</p> <p>【目的】 「機械学習」を活用し、ある特定の進路（職種、就職先など）へ進んだ学生の在学時の学修状況をモデルとし、現在、在学中の学生へ「同じ進路を実現するために重要となる学修策」を提案する仕組を検証する。</p> <p>【結果】 既卒者の学修実績をモデルとして、在学生への学修内容の提案は、今回使用したデータだけでは、実現困難であることが明らかとなった。</p> <p>【課題】 「機械学習」の結果の信頼度を上げるためには、分析対象データをより広範囲に選択する必要がある。しかしながら、分析対象データに応じた最適なモデル選択が困難である。</p>	B	<p>2018年度までに、IR分析基盤をDWH、ETL、BIツールで構築することができた。また、分析するためのプロセスについても明確化ができた。今後は、以下の点について重点的に取り組んでいきたい。</p> <p>【目標】BIツールの利用促進</p> <p>①執行部への説明 大学の経営改善、教育の質保証といった観点から、大学の意思決定機関の構成員に対して、BIツールができること、BIツールの利用方法等を説明する。</p> <p>②教職員への周知/教育 教員および事務職員に対して、広くBIツールができること、BIツールの利用方法等を説明する機会を設ける。</p>	<p>IR分析基盤の枠組の構築および分析のためのプロセスの明確化を実現した今、2019年度の目標は、既存データを有効活用し、大学運営に係る高度な戦略立案に資するIR分析の実践である。具体的には、IRによる入試結果の分析と、その分析結果の活用方法について検討する。</p>	<p>『南山大学IR関連事業(評価報告書)第1.0版』P.12～P.16</p>
2	帳票自動生成基盤構築	<p>1.帳票自動生成基盤の構築を行い、毎年5月に文部科学省が実施する「学校基本調査」について、2019年分より調査票の帳票を自動生成することが可能となった。</p> <p>2.帳票自動生成基盤構築によって、以下の帳票作成についてサポートが可能となった。</p> <p>調査票がXMLファイルで提供されれば、汎用的に入力項目および変換ロジック等を定義でき、必要な項目に調査回答を自動的に埋め込むことができる。</p>	<p>1.「学校基本調査」に関する調査票自動生成により、調査所管部門の総務課や調査に関連する各担当課室の事務作業の合理化、効率化が期待できる。</p> <p>2.上記の調査票以外（XMLファイルで提供されることが条件）についても、調査票作成における事務作業の合理化、効率化が期待できる。</p>	<p>1.本来は、調査票がXML形式以外のEXCEL形式であっても、帳票自動生成できることを目指していたが、現段階では実現できていない。</p> <p>2.本来は、調査票内の回答事項を導き出す変換ロジック等については、極力省力化あるいは内製化で作成できることが望ましい。しかしながら、現段階ではほぼ業者にオーダーメイドで作成してもらわなければならない。</p>	B	<p>「学校基本調査」は毎年調査票内の回答事項が変更となる。しかも、4月に変更情報が通知され、5月中には回答しなければならない。かなりの短期間での変更対応が要求されている。今回作成した「帳票自動生成系」で学校基本調査を回答するためには、短期間で変更情報を反映しなければならない。2019年度も同じ調査スケジュールとなることが予想されるので、2019年度の対応を今後に繋げるべく、より短期間かつ大きな変更に対応できるシステムおよび体制を構築したい。</p>	<p>外部から要請のある各種調査には、多様な入力ファイルや制約が存在する。このような環境の中で、すべての要請に対して帳票自動生成できることが望ましい。このためには、EXCEL形式のファイルや入力制限のあるファイル等に対応できるようにある仕組が必要となる。今後は、調査票作成における事務作業を極力合理化、効率化できるように現在の「帳票自動生成系システム」の改善に取り組んでいきたい。</p>	<p>「学校基本調査」調査票</p>

		委員会/事務組織等名称	ハラスメント問題対策委員会	氏名	豊島 明子		
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料	
No.		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
1	<p>新入生を対象とした、ハラスメント防止のための周知啓発活動</p>	<p>学部と大学院の各々の新入生を対象としたハラスメントガイダンスを、実施した。このガイダンスは、春・秋のそれぞれの時期に入学するすべての者を対象として実施している（学部新入生ガイダンス [4月4日]、大学院新入生ガイダンス [春：3月31日、秋：9月13日]）。                  加えて、秋入学については、秋入学留学生ガイダンス [9月13日]）も実施した。これらのガイダンスを通じて、ハラスメントに関する意識啓発を促すとともに、新入生としてぜひ知っておいてもらいたい、本学のハラスメント相談体制について、広く案内することができた。</p>	<p>例年実施しているガイダンスを、2018年度も実施することができた。また、例年と同様、周知啓発のツールとして、「STOP HARASSMENT」と題したパンフレットとクリアファイルの2点を作成し、ガイダンスの配付資料として活用できた。</p>	<p>特になし。</p>	<p>A</p>	<p>引き続き、多様な構成員に向けて、各構成員の属性に適した内容のガイダンスの実施に取り組む。また、ガイダンスについては、あらかじめガイダンスのシナリオ（ガイダンスで周知すべき点をまとめたもの）を用意して臨んでいるが、委員会においてその内容を点検し、ガイダンスの実施内容のさらなる充実を努める。</p>	<p>特になし。</p>
2	<p>学外での実習等に参加する学生を対象とした、ハラスメント防止のための周知啓発活動</p>	<p>ハラスメント相談の対象には学外で行われる実習等におけるハラスメント案件も含まれており（「南山大学ハラスメントに関するガイドライン」2（3）参照）、また、学外であるがゆえにハラスメント防止について特に注意すべき事項も想定されることから、例年、教育実習およびインターンシップ研修に参加する学生を対象としたガイダンスを実施しており、2018年度も、教職センターおよびキャリア支援室と連携し、ガイダンスを実施した（教育実習生ガイダンスは5月3日、インターンシップ研修履修者向けガイダンスは7月11日に実施）。</p>	<p>特に「インターンシップ研修」履修者を対象としたガイダンスについて、2017年度は「インターンシップ研修」の授業後の休み時間を用いてガイダンスを実施したため十分な参加学生数が確保できないという問題が生じていた。そこで2018年度は、この問題の解消を図るため、キャリア支援室およびキャリアサポート委員会委員長と事前の協議・調整を行い、上記授業の時間内にガイダンスを組み込んでもらう形で実施することとした。その結果、履修者全員の参加を得て、ガイダンスを行うことができた。</p>	<p>特になし。</p>	<p>A</p>	<p>引き続き、教職センター、キャリア支援室と連携し、教育実習やインターンシップに参加する学生を対象としたハラスメントガイダンスの確実な実施と、一層の充実を図っていく。また、ガイダンスについては、例年、あらかじめガイダンスのシナリオ（ガイダンスで周知すべき点をまとめたもの）を用意して臨んでいるが、委員会においてその内容を点検し、ガイダンスの実施内容の充実を努める。</p>	<p>特になし。</p>
3	<p>課外活動を対象とした、ハラスメント防止のための周知啓発活動</p>	<p>課外活動に携わる学生らが実施している、体育会・文化会の「リーダーズキャンプ」において、課外活動で起こりやすいハラスメントに関する理解を深めてもらうため、ハラスメント講習を実施した（文化会向けには2019年2月15日、体育会向けには同25日に実施）。また、学生課主催の「クラブ部長・コーチ懇談会」においてもハラスメント講習を行い、課外活動の指導にあたるクラブ部長とコーチに向けて、課外活動の指導者として留意していただきたい点とともに、年度末から年度初めにかけて特に注意を要するアルコールハラスメントについて、近年の他大学での問題事例を紹介し、注意喚起した（2019年3月7日実施）。</p>	<p>この複数年度にわたって、課外活動に参加する学生向けには「リーダーズキャンプ」、指導にあたる教員とクラブコーチ向けには「クラブ部長・コーチ懇談会」において、ハラスメント講習を開催できており、課外活動に特化したハラスメント防止の取組みとして、有意義な機会を提供できている。</p>	<p>特になし。</p>	<p>A</p>	<p>引き続き、学生課、学生部と連携して、この取組みを継続するとともに、さらなる内容の充実を努める。</p>	<p>特になし。</p>



		委員会/事務組織等名称	ハラスメント問題対策委員会		氏名	豊島 明子		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
					改善すべき事項	達成目標		
			<p>【1】効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>【2】記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>【3】到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>【4】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>【2】記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>【3】到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>【4】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>【1】「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>【2】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>【2】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
4	<p>教職員を対象とした、ハラスメント防止のための周知啓発活動</p>	<p>教育職員・事務職員を対象としたハラスメント防止に関する周知啓発活動として、新採用・新採用者向けには「新採用教育職員研修会」におけるハラスメントガイダンス（2018年4月3日）、「新採用者ガイダンス」におけるハラスメント研修（2019年3月19日）を実施した（各研修には、前年度中途採用者も参加する）。また、「外国人留学生別科全体会議」の機会をとらえて、別科講師を対象としたハラスメント研修も実施した。いずれの場においても、ハラスメントに関する意識啓発とともに、本学のハラスメント相談体制について周知ができた。</p>	<p>例年実施しているガイダンスや研修を、2018年度も実施することができ、新採用・新採用者および別科講師に対しては、ハラスメントに関する意識啓発とともに、本学のハラスメント相談体制の周知を行うことができている。</p>	<p>特になし。</p>	<p>A</p>	<p>引き続き、この取組みを継続し、ガイダンス・研修の内容についてさらなる充実ができるよう努めていく。なお、新採用・新採用者を含む全教職員向けに、4月にパンフレットを配付する形で周知啓発を進めているが、下記5に述べたような、講演会の企画を実現することが、より効果的な方策であると考えられるため、次年度はその実現に向けた取組みも進める。</p>	<p>特になし。</p>	<p>1. 「2019年度新採用者ガイダンス研修レジュメ」 2. 「2018年度別科教員向けハラスメント講習レジュメ」</p>
5	<p>ハラスメント防止のための周知啓発としての講演会の開催</p>	<p>2017年度に課題となっていた、教員向け講演会を2018年度も開催することができていない。また2018年度は、学生向け講演会の開催も行うこともできていない。</p>	<p>特になし。</p>	<p>教員向け講演会については、複数年度にわたり開催できておらず、喫緊の課題である。</p>	<p>B</p>	<p>特になし。</p>	<p>ハラスメント防止のための周知啓発にとって、外部講師を招いて行う講演会は、大変有意義な手段である。したがって、複数年度にわたり開催できていない教員向け講演会は、2019年度には確実に開催を行う必要がある。また、ハラスメント防止の観点から、学生向け講演会についても2019年度中に開催することが望ましい。</p>	
6	<p>ハラスメント相談への対応</p>	<p>さまざまな相談案件への対応を行い、相談者等の関係当事者との面談の実施や、各案件の相談対応の進捗状況把握と以後の対応方針を審議するため、委員会を計15回開催し、年間を通して、案件の解決に向けた取り組みを進めることができた。</p>	<p>特になし。</p>	<p>各相談案件について、関係当事者との面談対応を行う都度、委員会において進捗状況把握と以後の対応方針の審議がされており、すべての案件について委員会が責任を持ち、解決に当たる体制ができており、その限りでは有効に機能していると評価できる。しかし、現行の相談体制では、心理的ケアの観点からの専門性が備わっておらず、相談対応において心理面でのアプローチが欠けていることが案件への適切な対応を難しくさせている面が否めない。</p>	<p>B</p>	<p>特になし。</p>	<p>現状では備わっていない心理面での専門性を採り入れた相談体制の実現方法やその可能性について、2019年度中に、委員会で具体的検討を行い、一定の方針を得る。</p>	

		委員会/事務組織等名称	ハラスメント問題対策委員会		氏名	豊島 明子		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
7	現行の相談体制・手続の検証と、より望ましいあり方の検討  ※必要に応じて行を増やしてください。	現行の相談体制・手続の検証を行い、より望ましいあり方を検討するため、2018年度には関係委員研修会での意見交換を通して課題の発見・共有に着手することができた（「ハラスメント問題対策関係委員研修会」〔2018年9月5日開催〕）。また、2018年度は、新たな試みとして、他大学のハラスメント相談体制・手続に関する調査を行い、専門相談員を置く大学の相談体制について情報を得ることができ、より望ましい相談対応の実現に向けた各大学の取組みに触れることができた。	特になし。	さまざまな相談案件がある中、各案件への対応は、年間を通して、絶えず適正に進めていかなければならないが、このような相談対応と並行して、現行の相談体制・手続の検証を行い、より望ましいあり方の検討を進めていくことは、人的・時間的リソースに鑑みてもなかなか容易ではない。しかし、上記6でも述べたように、さまざまな相談対応を通じて、心理的ケアの観点からの専門性の導入がもはや不可欠な現状があると考えられるため、これへの対応が必要である。	B	特になし。	上記6でも述べたように、現状では備わっていない心理面での専門性を採り入れた相談体制の実現方法やその可能性について、2019年度中に、委員会で具体的検討を行い、一定の方針を得る。またこれと併せて、現行の相談体制・手続を定める規程や手続要領の点検・検証もを行い、必要に応じた見直しを進める。	1. 「ハラスメント防止対策ガイド」 2. 「2018年度ハラスメント問題対策関係委員研修会開催通知」

		委員会/事務組織等名称	キリスト教センター運営委員会		氏名	VARGHESE, Rejimon		
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
		[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した状態にある [A] 良好な状態にあり、取り留めが適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
1	宗教心の涵養にかかわる事業の実施展開	キリスト教を知る、外国語を学ぶ、趣味・芸術の3分野合計15講座を学生・一般向けに開講した。延べ122名が受講し、宗教心の涵養、外国語運用能力の向上、教養の充実等個々の希望に合わせて講座が活用されている。12月にはクリスマスチャリティイベントを学生団体の協力を得て実施し、売り上げを慈善団体に寄付している。学生・教職員の宗教的諸活動の推進のため、キリスト教・宗教的活動を行う課外活動団体への部室使用および活動場所を提供しているほか、学内各種団体の活動場所として施設を利用させている。特に食堂は学内唯一の調理ができる場所として、ゼミナールの懇親会、大学祭前の試作会等に多く利用されている。さらに、学外団体に対しても、ハンドベルでの聖歌演奏、キリスト教音楽の練習場所、カトリック信者の集い等、キリスト教センター利用規程に定める範囲内において、地域社会や信者の方に対してもご利用いただいている。ロゴスセンター聖堂等を利用した結婚式についても神言会と連携して、2組の挙式を行った。	特になし。	キリスト教センター講座の開講日程等が担当講師に委ねられており、キリスト教センター事務室で一部把握できていない部分があるため、開講スケジュールの変更等、事業主体として情報を認識し、運営する体制を実現する。結婚式の運営については、キリスト教センター事務室と神言会との業務分担および経費負担が明確に規定されていない。そのため、式準備や施設使用等に係るキリスト教センター事務室の負担が不明確であるので、より適正な運営を目指し、検討を進める。	A	特になし。	キリスト教センター講座の開講状況等はキリスト教センター事務室を通じて、講師に対してスケジュールの提出および実施状況の定期的な確認を2019年度より行う。結婚式の運営および費用等の負担について、2019年度より事務局が神言会と協議できる準備を始める。	南山大学キリスト教センター規程第2条 南山大学キリスト教センター利用規程第7条 2019年度第1回キリスト教センター運営委員会資料
2	宗教教育委員会との連携	学内のキリスト教精神、宗教心を養い育むための活動を推進する組織は、本委員会の他に宗教教育委員会が存在している。2018年度は本委員会および宗教教育委員会が所管する業務を各々行い、その中で本委員会で費用支出をしている課外活動団体（1団体）の活動について、学生課も加わり連携や情報共有を行い、適正な行事運営・活動に関して協力をした。	2018年7月にキリスト教センター交流会（本委員会所管）、降誕祭（宗教は、本委員会の他に宗教教育委員会所管）の運営を行う課外活動団体に対して、学生課の主導の下、援助金の取扱いを含めた行事の適切な運営方法について協働して助言を行った。それにより、一所管部署としてではなく、関係部署が連携して課外活動団体の活動に関して対応することができた。	本委員会と宗教教育委員会がそれぞれ業務として具体的に何を担当しているか、ほとんど互いに共有されていないため、双方の所管事項を確認し、必要に応じて業務の見直しや整理等の実施の是非について検討する。	B	特になし。	本委員会の事務所管は総務課、宗教教育委員会の事務所管は教務課でそれぞれ異なるため、まずは事務部署間においてそれぞれの業務と違いを認識できるように、情報共有を行う体制の検討を2019年度より行う。	
3	学習支援活動	学習支援活動は、大学近隣地域の小・中学生を対象にキリスト教センター設置前年の2016年度より開始した。年間20名程度の児童・生徒を対象に一般・学生の指導ボランティアの協力を得て、学習支援を実施している。活動は、平日夜間および土曜日昼間に、個別または少人数で指導を行っている。	学習支援活動に参加していた児童・生徒およびその保護者とボランティアの間に信頼関係が生まれており、良い形で交流がみられる。親とは素直に話せない年代の生徒が、大学生スタッフとの学習には集中して臨む例もあり、大学ならではの学習成果をあげたと言える。指導ボランティアのうち、教職に就くことを目指している学生もおり、教員免許取得に向けての実践的な活動の場にもなっている。実務責任者をはじめとしたロゴスセンター居住神言会員と指導ボランティアの間で、年2回のボランティア茶話会を実施し、学習支援活動についての意見交換を図り、より良い活動を目指している。	学習支援は個別支援を原則としてきたため、受講児童・生徒と指導ボランティアのマッチングおよび受講児童・生徒、ボランティア双方の当日の欠席等にかかる対応等で事務職員業務負担が受講人数、ボランティア人数に比例して生じている。今年度は、欠席連絡等に関して一定のルールを制定し負担軽減を少しではあるが図ることができたが、継続して学習支援活動に係る合理化、省力化について検討する。	B	茶話会については継続して実施し、指導ボランティアの意見を聴取した上で、より良い活動に資することに必要に応じて学習支援活動への反映を行っていく。学習支援活動は指導ボランティアの存在が不可欠であるので、必要人員の確保に向けて学内関係部署等との連携について検討する。	南山大学キリスト教センター規程第2条 第2018年度第3回キリスト教センター運営委員会資料	

		委員会/事務組織等名称	SD委員会	氏名	青木 清		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
					将来に向けた発展方策	根拠資料	
					<p>【1】「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>【2】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
1	教育職員のSD活動への参加	<p>南山大学スタッフ・ディベロップメント(SD)委員会規程第1条に定められているとおり、SD活動の対象は教職員全体であるが、教育職員の中でその意識が十分であるとは言い難い。</p> <p>大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための研修という観点で、今後も教育職員を含む大学構成員全体でSD活動に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>特になし。</p> <p>教育職員がSD活動に参加する割合をさらに高めたいと考えている。</p> <p>2018年度の参加実績は以下のとおりである。</p> <p>2018年度(3回合計107名)</p> <p>①学生部・FD・SDフォーラム「南山生のアルバイトをめぐる状況」(2018年7月4日開催)：39名(教育職員23名、事務職員16名)</p> <p>②SD講演会「レーモンド・リノセッション・プロジェクト」(2018年10月17日開催)：35名(教育職員9名、事務職員26名)</p> <p>③FD・SD講演会「COILの実践と可能性について」(2018年12月5日開催)：33名(教育職員21名、事務職員12名)</p>	B	特になし。	<p>学部で独自に開催されるFD研修の中で、内容がSD活動に近いものがあつた場合に、共催を検討して頂けるよう要請する。</p> <p>共催する中で教育職員がSD活動の内容をより一層理解して頂き、SD活動への参加が促進されることを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南山大学スタッフ・ディベロップメント(SD)委員会規程第1条</li> <li>・学生部・FD・SDフォーラム実施報告書(2018年7月13日PORTA掲載)</li> <li>・SD講演会(2018年10月19日PORTA掲載)</li> <li>・FD・SD講演会実施報告書(2018年12月7日PORTA掲載)</li> </ul>
2	講演会形式だけでないSD活動の展開	<p>講演会形式だけでなく、派遣・受入事業など、新しい形でのSD活動の展開について検討する。</p>	<p>講演会形式だけでなく「協定校イスタンブール・セヒール大学とのSD研修派遣・受入事業」など、新しい形でのSD活動にも取り組んだ。</p> <p>SD委員会の活動とは別に行われている大学基準協会への研修員派遣などについて、SD委員会としてSD活動に組み込むことを考慮していなかった。</p>	A	特になし。	<p>大学基準協会への研修員派遣について、その成果を教育・研究支援事務室などの特定課室だけでなく、大学事務職員をはじめとする構成員全体に還元する内容を検討したい。</p>	<p>南山ブレティン206号「トルコの大学とのSD(スタッフ・ディベロップメント)研修」</p>

		委員会/事務組織等名称	予算委員会	氏名	鳥巢 義文		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。 [1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	学納金改定および支出削減計画策定小委員会の活動内容  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2018年度より予算委員会の下に設けられた「学納金改定および支出削減計画策定小委員会」（以下、小委員会）は、2018年度中に5回開催された。2018年度支出予算削減に向けた方策策定のほか、学納金改定に関しては複数大学を訪問しヒアリングを行い、これを参考に2021年度からの改定方針、および金額案について議論を進めた。	従来予算委員会の枠内では議論しきれなかった「学納金改定」および「支出予算削減」について、小委員会の設置により時間をかけて検討を進めることが可能となった。2018年度の支出予算は小委員会での議論を経て、全課室の消耗品等購入予算一律3%カット、および前年度決算の予実対比を基にした当初予算再精査による削減を実施したことにより、約40,000千円の支出予算削減を実現した。また、学納金改定については改定に関する基本方針の作成を行い、予算委員会に提案した。これを受け予算委員会において各学部に対し意見聴取を行ったところ、改定に前向きな意向を確認することができた。	小委員会設置初年度から、学納金改定および支出予算削減に関し一定の成果を挙げることができたため、現時点で改善すべき事項は特段無い。小委員会の任期は2021年度までであり、今後3年間においては特に支出予算削減に向け、都度有効な方策を提示していく必要があると認識している。	A	学納金改定については小委員会の最終提案（金額改定案）を2019年度予算委員会において審議する道筋を立てた。これが承認されれば、小委員会における学納金の議論は一段落となり、当面は支出予算削減について引き続き検討を進めることとなる。各予算所管部署における削減可能な部分の洗い出しを行うことで、支出予算の抑制につなげるため、これについては小委員会のメンバーである各部の長が中心となり、都度検討するものとする。	2018年度第5回学納金改定および支出削減計画策定小委員会資料2-1「学生納入金の改定について（小委員会案）」
2	財務シミュレーションを意識した大学運営・業務遂行  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	予算委員会では近年財務シミュレーションを資料として提示する機会を増やしている。これは学納金改定に向けた議論を進めていたためであるが、予算委員会委員に対し、財政面における中長期的な展望を理解した上で、各所属において運営（事業立案等）を行ってほしいという意図もある。	財務シミュレーションを複数回提示してきたことにより、中長期的な財政の見通しは委員会内である程度共有できたと考える。	財務シミュレーションは理事会においても議論されており、そこに記された数値は、作成時点で想定されるものであるとともに、大学として最低限の目標とすべきものである。予算委員会はこの観点に立ち、学校運営や各業務の遂行がなされているのか、監視を行わなければならない。	B	委員会内で共有した中長期的な財政の見通しを、各委員が各所属に還元することで、常に収支を意識しながら立案を行い、業務を遂行していくこととする。新たな事業を立案する場合は、財源の確保は可能であるのか、また人件費削減に繋がるような業務効率の向上が見込めるのか、といった視点を各構成員が持つことが重要である。	2018年度第6回予算委員会 審議資料1-7 はじめ2018年度中の予算委員会に3度提示

		委員会/事務組織等名称	入学試験委員会		氏名	鳥巢 義文	
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		
No.	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸长させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
1	カトリック系高等学校を対象とした入試制度の変更への対応  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2018年度（2019年度入試）よりカトリック系高等学校を対象とした「特別入学審査」を実施した。実施にあたっては、5月にカトリック系高等学校に要項を送付、6月には進路指導担当教員を対象としたエリア別説明会（北海道、東北、東海、九州）を開催し、新しい入試制度の周知に取り組んだ（1-1～3）。7月初旬までに各校からの出願予定者数報告の取りまとめ、9月中旬に出願受付、10月初旬に試験を実施した。初年度の入試実績としては、志願者46名、合格者40名であった。一方、従来の「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」は、志願者94名、合格者78名であった（1-5）。試験実施後は、個別にカトリック系高等学校を訪問し、ヒアリングを実施した（1-6）。2020年度（2021年度入試）には、「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」を廃止することを決定したため、引き続き、高等学校への周知活動が必要となる。	新しい入試制度の周知期間は実質3カ月程度となり、かならずしも十分な期間を確保できたとは言えない状況ではあったが、募集人員40名に対して、46名の志願者があった。志願者の内訳としては、東海エリアの高等学校だけではなく、エリア別説明会を実施した北海道や九州等の遠隔地のカトリック高校も含まれており、周知活動の一定の成果があった（1-2, 1-5）。試験実施後のヒアリングの結果、「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」の廃止については、概ね理解を得られている状況である。一方で、一部のカトリック高校からは生徒の中には、勉学が中心で部活動や課外活動など「活動報告書」に記載できる内容がない生徒もいるため、このような生徒の受け皿として「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」の存続を求める意見もあった（1-6）。	試験実施後のヒアリングの中では、「特別入学審査」の改善すべき事項についての意見も見られた（1-6）。入試日程に関して、全体的に時期が早く、夏休み期間での生徒への指導が必要となった、校内選考を前倒しで行う必要があった等、進路指導の現場での負担があったとの意見があった。出願書類として新たに設けた「活動報告書」については、書く分量が多く（A4用紙・4枚）生徒の負担が大きくなり、出願のハードルになっている。勉学が中心で部活動や課外活動を積極的にこなしている生徒には書きづらく、指導が難しい等の意見があった。	B	2019年度（2020年度入試）においては、2020年度（2021年度入試）での「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」の募集人員を67名（前年度40名）を増やした。2019年度入試より多くの志願者を確保することを目標として、できるだけ早期に高等学校へのアプローチをする必要がある。2019年4月中旬には入試要項の印刷を完了させ、進路指導用的高等学校に提供するものとする。なお、2021年度入試からは総合型選抜の合格発表を11月1日以降とすることが文部科学省から求められており、入試日程を現行より遅らせることになるため、今後、改善が見込まれる。「活動報告書」が出願のハードルになっていることについては、各高等学校の進路指導において生徒の書類作成のサポートをいただけるよう依頼することについては、各高等学校の主体性評価が一般的となることが予想される中、現在、各高校現場においてその準備が進められているため、ハードルは下がっていくと考えられるが、高校側の意見を今後も継続的に聴取し、改善の必要性を検討する。	「特別入学審査」の入試日程が早い、という意見への対応として、現在の入試日程自体を変更することは困難であるため、2019年度入試より早期に高等学校にアプローチすることと、進路指導の現場での負担が少しでも軽減されるよう対応する。2019年4月中には入試要項の印刷を完了させ、進路指導用的高等学校に提供するものとする。なお、2021年度入試からは総合型選抜の合格発表を11月1日以降とすることが文部科学省から求められており、入試日程を現行より遅らせることになるため、今後、改善が見込まれる。「活動報告書」が出願のハードルになっていることについては、各高等学校の進路指導において生徒の書類作成のサポートをいただけるよう依頼することについては、各高等学校の主体性評価が一般的となることが予想される中、現在、各高校現場においてその準備が進められているため、ハードルは下がっていくと考えられるが、高校側の意見を今後も継続的に聴取し、改善の必要性を検討する。
2	2021年度入試の変更対応  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2020年度（2021年度入試）からの「大学入学者選抜改革」に伴う入試制度の変更については、文部科学省の「2年前ルール（2年前告知）」に基づき、2017年度に本委員会が審議した原案をベースに検討を重ね、2018年12月初旬に2021年度入試の概要の予告文書をWebページで公表した（2-1）。	特になし	2018年12月初旬に公表した予告文書では、2021年度の入学者選抜において、一般入試と全学統一入試【個別学力試験型】の試験内容を大きく変更する予定はないこと、大学入学共通テストの活用方法や主体性の評価についての基本方針を示すに留まった（2-1）。2021年度の入試日程や試験科目等の詳細な検討には至っていないため、2019年度は、本委員会の下部委員会である試験運営委員会および学力検査委員会において具体的に検討を進めていく必要がある。2019年度の前半を目標として、決定した事項を順次公表していく。	B	特になし	英語の資格・検定試験の活用において、従来の「みなし満点」を継続することになるが、対象とする資格・検定試験の種類や基準スコアは見直しを検討する必要がある。2018年度（2019年度入試）まで本学で活用していなかった試験についても、大学入学共通テストの枠組みにおいて活用が認められている資格・検定試験の中から新たに追加することを検討する必要がある。追加採用する試験および基準スコアの設定については、他大学の動向を参考としながら、学力検査委員会で原案を作成することとする。一般入学試験（一般選抜）における主体性の評価については、出願時に提出された調査書等の資料を「得点化せず、入学後の参考資料とする」という方向性を公表したため、今後は他大学の動向を参考としながら、JeP（JAPAN e-Portfolio）等のe-Portfolioの活用可否、Web出願時に受験生に主体性評価のための資料を記述させる等の可能性を検討し、具体的な評価方法を公表していく。

		委員会/事務組織等名称	試験運営委員会	氏名	平川 武仁			
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
No.	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	Q棟内の掲示と受験者の案内  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	前年度の反省から、Q棟の掲示物の内容や掲示場所、案内担当者の配置等を見直したことで(1-1)、試験室への移動で迷う受験者は少なくなった。しかしながら、今年度も案内が分かりづらい箇所があったため、来年度も引き続き見直しを検討する必要がある(1-2)。	特になし。	一般入試において、案内担当者から、Q棟内のトイレや立入禁止エリアの案内が分かりづらい箇所があるという報告があった。そのため、次年度も引き続き見直しを検討する必要がある。	特になし。	入試課で掲示物の準備を進める際に、受験者の動線等を考慮した上で、掲示物の内容や掲示場所を見直す。	1-1「掲示マニュアル」 1-2「案内担当者の業務報告書」	
2	大学入試センター試験英語「リスニング」の音声メモリの仕分け・配付・管理  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(2)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	大学入試センター試験で使用する音声メモリ（リスニングテストの音源、受験者に1枚ずつ配付）は試験問題と同様に、入試課と試験運営委員で封入作業を行っており、「受験者数＋予備」を封入している。監督者の業務においては、封入されている枚数および音声メモリ配付後の未使用枚数については確認していない。また、答案等受け取り担当者についても、使用済み枚数と、未使用枚数の整合性までは確認していない。試験実施後は、未使用分も含めて大学入試センターに返却する必要がある。	特になし。	試験終了後に、英語「リスニング」の音声メモリ1枚の紛失があった。紛失の原因は不明であり、音声メモリの発見に至らなかったため、大学入試センターに事故報告をした(2-1)。現状では、音声メモリ配付後の残数の確認は行っていないが、音声メモリ配付後および答案等受け取りの際に確認を行う必要がある。また、音声メモリの封入方法についても見直す必要がある。音声メモリはSDカードのため小型で紛失しやすいにも関わらず、現状では一試験室に対して全音声メモリを一袋に封入していた。複数の監督者が配付を分担する場合、袋がなく手づかみで袋から音声メモリを出した状態で配付しなければならない監督者がいる状況があった。監督者の人数に応じて、予め小分けする等の工夫が必要である。	特になし。	入試課と試験運営委員で行う事前の封入において、1袋に全て封入するのではなく、監督者の人数分等に分けて封入することで、配付時の紛失を未然に防止する。音声メモリを封入する封筒のラベルに「音声メモリ配付後は未使用枚数が正しいか確認する」旨を記載して、監督者も確認する。答案等受け取りの際にも、受け取り担当者が使用済み枚数と未使用枚数の整合性を確認する。	2-1「大学入試センター試験の事故報告書」	
3	大学入試センター試験の予備監督者の待機期間  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(3)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	大学入試センター試験では、健康上や子女受験の理由により、事前に監督者の交代が生じた場合に備えて予備監督者を用意している。しかしながら、12月中旬に実施する監督者説明会前に、監督者の交代がなかった予備監督者全員を業務免除している。そのため、監督者説明会以降の監督者の交代については、試験室対応班の待機者（事務職員）および試験運営委員で対応している。	特になし。	大学入試センター試験において、試験前の約1週間の期間に監督者の体調不良等による交代（インフルエンザ4名、その他3名）が発生した。予備監督者は既に業務免除にしているため、試験室対応の待機者（事務職員）と試験運営委員により対応した。これにより、1日目については、試験室対応班の待機者は1名を残して全員が監督業務等を担当する状況となった(3-1,3-2)。	特になし。	試験当日まで待機期間とした予備監督者（教員）を各試験日3名程度依頼しておき、試験当日までに監督者交代が発生した場合にも対応できるようにする。	3-1「監督者一覧」 3-2「監督者等の交代履歴資料」	

		委員会/事務組織等名称	試験運営委員会	氏名	平川 武仁			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。</p> <p>規程の場合は、冊子の場合には具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
4	試験中の不正行為の未然防止	<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(4)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>一般入試・全学統一入試の監督者説明会において、「注意書」の使用方法を説明するためのスライドを追加し、不正行為等に対する対応について周知した(4-1)。</p>	<p>「注意書」は、一般入試・全学統一入試において、計5回使用された。内訳としては、不正行為に見える行為が1件、周囲の受験者への迷惑行為が4件であった。入試期間中の重大な不正行為・迷惑行為等は報告されなかったことから、「注意書」による不正行為・迷惑行為等抑止の効果が一定程度あったと考えられる。</p>	特になし。	<p>来年度の監督者説明会で、注意書使用事例として今年度の使用例を紹介し、監督者が「注意書」を適切に使用して不正行為等を防ぐようにする。</p>	特になし。	4-1「監督説明会スライド資料」
5	改修工事完了後の試験室割当	<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(5)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>キャンパス内第Ⅲ・Ⅳ期工事が終了したことに伴い、今年度試験室として使用する教室を検討した。また、試験室の検討を行う際に、教室が改修されたG・H棟の試験室を含む、各試験室の収容数の見直しもした(5-1)。</p>	<p>一般入試・全学統一入試において、新しくなったG・H棟を使用したことで、安定しない机や建物の気密性の低さにより発生する音等の問題が改善された。</p> <p>また、昨年度とは異なる試験室を使用したことが、収容数と試験室の配置を見直したことで、より適切な環境での試験運営ができた。</p>	特になし。	<p>H棟の一部の試験室(HB1、H11等)については、監督者より収容数が多いという意見も出たため、収容数を再検討する必要がある。</p>	特になし。	5-1「試験室確認表」
6	特別入学審査(カトリック系高等学校等対象)の新規実施	<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(6)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>今年度新たに特別入学審査(カトリック系高等学校等対象)を実施した。試験日は、AO入学審査【外国語学部】および国際教養学部特別選抜試験【AO入試型】と同日とした(6-1,6-3)。</p>	<p>特に大きな問題なく、試験運営を進めることができた。しかしながら、要項の発送時期については見直す必要がある。</p>	特になし。	<p>要項の発送時期については、推薦入学審査(カトリック系高等学校等)と特別入学審査(カトリック系高等学校等対象)の両入試の詳細を把握した上で出願を検討したいという高等学校からの意見を受け、5月に送付を予定している(6-2)。</p>	特になし。	6-1「入学審査要項」 6-2「入試日程」 6-3「Webページ」 ( <a href="http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/">http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/</a> )
7	外国人留学生入学審査[EJU利用型]の新規実施	<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(7)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>今年度新たに外国人留学生入学審査[EJU利用型]を実施し、出願期間や合格発表等は既存の外国人留学生入学審査と同様の日程で進めた(7-1)。</p>	<p>入試要項作成、出願受付から審査、合格発表まで特に問題無く試験運営できた。</p> <p>なお、初年度は2名の志願者があった(7-2)。</p>	特になし。	<p>「外国人留学生入学審査[EJU利用型]」と従来の「外国人留学生入学審査」の要項を統合し、一冊にまとめることにより、どちらの入学審査にも出願の可能性のある留学生に対して漏れなく情報を提供できるようにする。</p> <p>また、志願者が自身により適した入学審査を選択できるよう、入学審査要項の記載を各入試の特徴や違いが明確に分かるものに工夫する。</p>	特になし。	7-1「入学審査要項」 7-2「人数表」



		委員会/事務組織等名称	入学試験広報委員会	氏名	COURRON, David				
		点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策	根拠資料		
No.		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合には具体的な条数は、冊子の場合には具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	WEBページによる受験生への広報活動	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	学生募集における広報ツールの一つとして、大学Webページ内に受験生向けページ「受験生の皆様」を開設している。「受験生の皆様」における掲載コンテンツについては入試情報や学部学科紹介、各種支援制度紹介といった基本的な情報に留まらず、n-cast+（在学生の学生生活紹介）やGlobal news（留学経験紹介）、先輩の履歴書（卒業生紹介）など多様なコンテンツを用意し、閲覧者が本学への理解を深め、志望度を高めることを目的としている。なお、「受験生の皆様」の全ページ総閲覧数は2018年4月1日-2018年9月30日で547,951件である。（参考：2017年10月1日-2018年3月31日で866,565件、2017年4月1日-2017年9月30日で549,791件）(1-1) また、高校生の情報入手手段の一つであるSNSにおける広報活動の重要性に鑑み、入試課ではtwitterを利用した広報活動も実施している。	各種イベントの来場者に対して実施するアンケートにおいて、「当該イベントを何によって知ったか」という質問に、「Webページ」と回答する来場者が一番多い。オープンキャンパスでは52.5%（2番目の「高校や予備校の先生」は19.8%）、また、受験生と保護者のための入試説明会では30.2%（2番目の「ダイレクトメール」は24.1%）と非常に高い数字となっていることから、受験生向けページ「受験生の皆様」は広報ツールとして効果が上がっていると見える。また、ダイレクトメールやチラシ等による広報活動は、制作費だけでなく、印刷費や発送費もかかり、高コストとなることが多い。今後、Webページによる広報活動の割合をさらに高めていくこととする。	大学Webページはトップページのみスマートフォンでの閲覧に対応（以下、「スマートフォン対応」という）。しているが、「受験生の皆様」を含めたその他のページについてはスマートフォン対応できていない。総務省情報通信白書（平成29年版）によると、13～19歳のスマートフォン保有率は2011年度より年々上昇しており、2016年度においては81.4%となっている。(1-2) この社会情勢に対して、主に高校生が閲覧することを想定した「受験生の皆様」ページがスマートフォン対応できていない現状は好ましくない。このことについて、2018年度の本委員会において議論を重ねた結果、状況の改善を図るため、「受験生の皆様」のスマートフォン対応に取り組みすることとした。また、「受験生の皆様」のコンテンツにおいては、情報が古いもの（留学期間2009年3月～2010年5月の留学経験紹介や2009年12月時点の卒業生紹介記事など）や閲覧数の少ないものが見受けられる。そのため、スマートフォン対応に合わせ、既存コンテンツの精査を行い、Webページ構成の見直し等をはかる。	C	Webページを活用した広報活動の一環として、SNSの活用をより推進することで、さらに高い効果が得られると考えられる。例えば、n-cast+（在学生の学生生活紹介）は、ブログによる情報発信となっているが、高校生の利用実態とマッチしていないと考えられる。今後は、SNSを活用した情報発信に切り替えることで、閲覧者の増加が期待できる。	2019年度事業計画において、「受験生の皆様」のスマートフォン対応を申請した。従って2019年度中に「受験生の皆様」のスマートフォン対応にあたっては、他課室が管轄するWebページにリンクするコンテンツ（学部・学科（学長室）や学生生活（学生課）等）が存在するため、「受験生の皆様」のみを先行してスマートフォン対応した場合、スマートフォン対応したページからスマートフォン対応されていないページを閲覧することになり、利用者に不自由さを感じさせてしまう構造となることに留意する必要があるが、2019年10月に学長室が管轄するコンテンツのスマートフォン対応がなされる予定であるため、「受験生の皆様」においても時期を併せてスマートフォン対応を行うこととする。ただし、オープンキャンパスの特設ページについては、2019年度の開催に間に合うよう前倒しして対応する。なお、スマートフォン対応にあたっては、大学戦略広報と入試広報との兼ね合いからも学長室と綿密に調整・連携を行うこととする。	1-1 南山の先生アクセスログ解析 1-2 <a href="http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitopaper/ja/h29/pdf/index.html">http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitopaper/ja/h29/pdf/index.html</a>
2	オープンキャンパス満足度向上	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	オープンキャンパスは、受験生に本学の魅力をアピールする最大のイベントであるため、2017年度より1日開催から2日間連続開催に変更した。しかし、例年、来場者より2日目の開催時間（10：00-15：00）が短いとの意見が寄せられるため、2018年度においては試験的に開催時間を1時間延長し10：00-16：00とした。また、来場者満足度向上を目的に、次の4点の取り組みを実施した。①相談コーナーを小教室から従来の体育センターメインアリーナへ変更（2017年度に会場を小教室へ変更したことにより来場者の満足度を大きく減少させたため）。②保護者向けプログラムの新規実施（近年保護者の関心が高まっていることから更なる満足度向上を目的に実施）。③会場内の景観向上と統一感醸成を目的とした、学内掲示の新規制作。④学部説明会から学科説明会への変更。(2-1) その結果、2018年度に来場者数は前年度の8,480名より147名増の8,627名となり、過去最高となった。また、アンケート回収数については昨年度の3,663件より28件増の3,691件となった。(2-2)	①熱中症対策 オープンキャンパスは、7月の猛暑または酷暑が予想される時期に実施するため、熱中症対策として2018年度においては屋外にミストファンを設置したり、空調の効いた教室を休憩スペースとして開放するなどした。また、学生アルバイトには飲料水を配布した。その結果、熱中症発症者は1名（学生アルバイト）だけであった。次年度以降においても熱中症発症者を出さないことを目標に、来場者およびスタッフの体調管理に配慮した対策を実施する。②アンケート回収 来場者に配布するプログラムにアンケートを挟み込み、来場者に提出を求めている。アンケート回収によって、オープンキャンパスの評価は勿論のこと提出者の個人情報も取得できるため、以降の広報活動につながるものとなる。来場者数は増加傾向にあるもののアンケートの提出数は近年減少傾向（2018年度：3,691件、2017年度：3,663件、2016年度：4,115件、2015年度：4,174件、2014年度：3,944件）となっているため、改善が必要である。今後の目標として、来場者の半数以上のアンケートの回収を目標とする。	B	①相談コーナー 担当者から意見のあった利用者数の減少については、対策を行い、今後の改善へとつなげる。具体的には、学科説明会・模擬授業の回数や開催時間帯の見直し、掲示による体育センターメインアリーナまでの誘導強化および呈茶コーナーの設置による来訪インセンティブの強化を実施する。また、現在別会場にて実施している入試相談コーナーを体育センターメインアリーナにも設置することによって相談コーナーの内容充実を図り、利用者数上昇および満足度向上につなげる。  ②保護者向けプログラムの見直し 大学概要説明・入試説明と内容を分けていた保護者向けプログラムについて、保護者がより関心のある内容に変更し、更なる来場者数増加および満足度向上につなげる。具体的には大学概要説明・入試説明から入試・就職・進学資金の説明に内容を変更とする。	①熱中症対策 熱中症対策として新たに呈茶コーナーの設置と休憩スペースの配置見直しを実施し、目標達成を目指す。呈茶コーナーについては体育センターメインアリーナの相談コーナー内に設置することで、相談コーナーの利用者増加も期待できる。休憩スペースの設置については2018年度初めに実施したが、オープンキャンパス開催直前に設置を決定したことや改修工事により教室数に余裕がなくなったことから、空き教室を利用する形となった。次年度においては、来場者が利用しやすい配置になるよう導線も考慮して配置を行う。  ②アンケート回収 アンケート回収数が減少している要因の一つとして、回答方法が紙媒体であることが考えられる。そこで高校生におけるスマートフォン普及に着目し、Web（スマートフォン）でのアンケート回答を可能にすることによって、アンケート回収数の向上につなげる。当日はWebでの回答へ誘導するために、配布するプログラムおよびアンケートへの記載および、学内各所にWebページへ誘導するための掲示を行うこととする。	2-1 2018年度オープンキャンパス実施要領 2-2 2018年度オープンキャンパス実施報告 2-3 2018年度オープンキャンパスアンケート集計結果	

		委員会・事務組織等名称	大学院入学試験委員会	氏名	鳥巢 義文			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
					将来に向けた発展方策	根拠資料		
					<p>【1】「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>【2】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>		
1	法学研究科開設への対応	<p>2019年4月開設の法学研究科について、2018年11月の秋季試験および2019年2月の春季試験と国外在住者入学審査を実施し、4月入学のみを募集することを決定した。</p> <p>これを受け、2018年8月の設置認可に向け、趣意書との整合性を確認しながら入学試験要項やパンフレットの作成を進め、7月の本委員会において内容を確定させた。</p> <p>なお、志願者数は合計3名（博士前期課程2名、博士後期課程1名）であり、出願受付から試験実施、合格発表まで滞りなく行うことができた。</p> <p>(1-1)</p>	<p>特になし。</p>	<p>設置認可後の周知期間が短かったこともあり、9名の募集人員（博士前期課程6名、博士後期課程3名）に対し、志願者3名という結果であったため、さらなる志願者確保が求められる。</p> <p>特に、博士前期課程の志願者2名はいずれも本学以外の出身であったことから、在学生の目を向けさせる方策を検討する必要がある。</p> <p>(1-2)</p>	<p>特になし。</p>	<p>他研究科と同様、入学試験要項の配布を5月から開始することにより、周知期間を確保する。併せて、毎年4月更新のため法学研究科の情報掲載が不可能であった外部の広報媒体（Webページ・情報誌等）を更新し、情報提供の機会を増やすとともに、大学院広報用ポスターや大学院入試説明会のチラシも積極的に掲出する。</p>	<p>1-1. 南山大学大学院入学試験（審査）人数表</p> <p>1-2. 南山大学大学院入学試験（審査）出身大 学種別別人数表</p>	
2	入学試験の実施と志願者確保施策	<p>2019年4月入学の志願者数について、博士前期課程・修士課程（76名：昨年度比10名減）は減少に転じたものの、博士後期課程（12名：昨年度比7名増）および専門職学位課程（45名：昨年度比10名増）は増加し、全体で昨年度比7名増となった。</p> <p>2018年9月入学の志願者は9名（博士前期課程・修士課程8名、博士後期課程1名）となり、昨年度（計6名）より若干増加した。</p> <p>(2-1)</p> <p>昨年度の点検結果を受け、在学生向け広報活動の一環として、研究科・専攻や入試情報を載せたポスターを新規作成し掲出した。その結果、2018年12月の大学院入試説明会の参加者の10%が「説明会開催を知った媒体」として当該ポスターを挙げた（複数回答可）。</p> <p>(2-2、2-3)</p>	<p>外国人留学生別科生への告知や国内外の相談会等での広報活動の結果、2019年4月入学の外国人留学生別科推薦入学審査に1名志願があり、3年続けて志願者を確保できた。さらに、2018年9月入学においては、国外在住者入学審査で2名の志願があった。</p> <p>(2-1、2-3)</p>	<p>2019年4月入学について、法務研究科（専門職学位課程20名）を除くすべての研究科において志願者数が募集人員（博士前期課程・修士課程139名、博士後期課程31名）を下回り、定員確保には至らなかった。</p>	<p>B</p>	<p>国内在住外国人入学審査および国外在住者入学審査の入学試験要項の英語版を新たに作成することで、各種広報活動や外国籍の志願者への便宜を図り、外国人留学生別科推薦入学審査以外の入試種別でも志願者確保に努める。</p> <p>また、理工学研究科において、国内在住外国人入学審査を新たに実施し、外国籍の志願者へ間口を広げる。</p>	<p>2018年度5月および12月の大学院入試説明会アンケートにおいて、参加者の約70%（5月：77%/12月：68% 複数回答可）が大学院の情報収集媒体としてWebページを挙げていることを受け、Web媒体での情報提供を推進する。（2-3）</p> <p>併せて、大学院広報用ポスターを在学生向けの学内掲示として使用するだけでなく、一般向け広告としても展開することで露出を増やす。（2-2）</p>	<p>2-1. 南山大学大学院入学試験（審査）人数表</p> <p>2-2. 大学院広報用ポスター</p> <p>2-3. 大学院入試説明会アンケート集計結果</p> <p>2-4. 外国人留学生別科生向けリーフレット</p>

		委員会/事務組織等名称	大学院入学試験運営委員会	氏名	吉田 竹也			
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
No.	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	2018年9月入学・2019年4月入学試験の実施	2019年4月入学の志願者数について、博士前期課程・修士課程（76名）は減少したものの、博士後期課程（12名）および専門職学位課程（45名）は増加し、全体で昨年度比7名増の133名となった。うち3名が新設の法学研究科の志願者である。なお、2018年9月入学の志願者は9名（博士前期課程8名、博士後期課程1名）となり、昨年度（計6名）より若干増加した。 (1-1) 法学研究科はこれまで他研究科とは異なる入試日程を設定し、A棟で試験を実施していたが、春季試験とC日程（2019年2月）の初日が同日となったため、初めてS棟を試験会場として使用した。 (1-2)	法学研究科と他研究科の試験時間割は大きく異なるため、試験室や担当で円滑に試験を実施できた。 (1-3)	春季試験およびC日程においては、試験室対応および面接誘導担当の大学院生の人数が確保できず、一時的に各階の試験室担当者が1名のみとなってしまった。 その結果、監督者自らが本部へ向う必要が生じたが、当該試験室は監督者2名体制のため試験実施への影響はなかった。	A	特になし。	各フロアごとに複数名の試験室対応担当者を配置できるよう、大学院生の確保に努めるとともに、各業務の責任者を事務職員が担うことも検討する。	1-1. 南山大学大学院入学試験（審査）人数表 1-2. 南山大学大学院入学試験（審査）【春季・法務C】試験室案内 1-3. 研究科別時間割
2	入学試験要項・パンフレット作成	2019年4月/9月入学分より、入学試験要項およびパンフレットの体裁を大きく変え、4月/9月入学が選択可能であることを明確にした。 新設の法学研究科分については、2018年8月の設置認可を念頭に置いたスケジュールを組み、研究科での校正作業や関係委員会での審議を滞りなく進めることができた。 (2-1、2-2)	これまで別冊子としていた4月/9月入学の要項を合冊にすることがより、大学院入試説明会等での配布が容易になった。	2018年5月の要項配布開始後に研究科からの連絡漏れによる試験科目の誤りが発覚し、当該科目を含む要項をすべて再印刷する必要が生じたが、本件によって不利益を被る志願者はいなかった。 また、要項およびパンフレットの体裁変更や人事情報の確認漏れに伴う誤りが複数件生じ、一部のパンフレットは再印刷、それ以外は訂正シールでの対応となった。 国外在住者入学審査の要項については、一部英訳を併記しているが、その内容が不完全であり、要件が正確に伝わらない可能性があることが判明した。	B	特になし。	要項およびパンフレットの校了日を遅らせ、3月の人事情報確定後に各専攻が内容を確認できるタイミングを設ける。 国内在住外国人入学審査および国外在住者入学審査の入学試験要項については、英語版（2020年4月/9月入学用）を新たに作成することで、外国籍の志願者への便宜を図る。	2-1. 大学院入学試験（審査）要項 2-2. 大学院パンフレット

		委員会/事務組織等名称	学生委員会	氏名	岡田 悦典			
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
No.		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	
1	<p>学生生活全般の対応</p> <p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>①通学マナー向上のため、学生生活スタートブックを配布し、4月に巡回するとともに、ボルタ・各団体説明会等で注意喚起を行った。また、定期試験2週間前から学内放送を実施するとともに、通学マナー7カ条を作成した。2018年度の苦情は42件であった。</p> <p>②キャンパス内に3か所の屋外喫煙エリアを継続して設定していたが、改正健康増進法の制定にともない、学校における喫煙を原則禁止とすることが法令として義務付けられるようになった。</p> <p>③飲酒・宗教勧誘・SNSなどの学生生活の問題について、適宜指導を行った。</p>	<p>①苦情に迅速に対応し、苦情を減少させることを目標とした。通学マナーについて、定期的なボルタにおいて告知を徹底するとともに、通学マナー7カ条を制定し、掲示板、告知を徹底した。名古屋大学駅までのルートが明確化しなかったため、推奨ルートとして明確化した。結果として、名古屋大学駅ルートの苦情は少なかった。コンビニエンスストア無断駐車車の類末書に学生委員の押印を必要とするという新たな制度を設けて、無断駐車対策の強化を図った。</p> <p>②来るべき法令の施行（2019年度）に対応することを目標に対処した結果、3か所ある屋外喫煙エリアを廃止することを決定することができた。</p> <p>③個別に学生に指導を行い、宗教勧誘についての告知をボルタを通じて行った。特にその後問題が発生することなく対応することができた。</p>	<p>B</p>	<p>①通学マナー・自動車通学禁止の意識向上を促すことを目標に、入学時ガイダンスにて、各学科（学生委員が主に担当）によって、詳しいアナウンス告知を4月初旬までに行う。また、学生生活スタートブックを新入生に昨年同様に配布する。</p> <p>②キャンパス全面禁煙化が2019年7月1日より実施することを目標に、全面禁煙の情報を学科ガイダンス時およびボルタ告知を通じて2019年6月末までに行い、保健センターと連携してたばこに関する講座を保健センターで開催する。また、学生委員・学生部次長により、実施後の状況につき7月および9月に巡回・指導する。</p> <p>③問題状況に応じて個別に指導するとともに、入学ガイダンスで各学科から、詳しいアナウンス告知を4月初旬に行う（学生委員が主に担当）。また、学生生活スタートブックを新入生に昨年同様に配布する。</p>	<p>①八事日赤駅方面の集中化を防ぐために、いりなか駅の利用を促進する方策を検討し、利用促進について告知する。コンビニ無断駐車についても、より詳細な告知を学生部において2019年度内に行い、周知徹底を図る。</p> <p>②については、特になし。</p> <p>③については、特になし。</p>	<p>①8月2日、3月14日学生委員会資料、2018年度ボルタ告知文書</p> <p>②1月17日学生委員会資料</p> <p>③告知文（5月2日、1月16日学生部会議資料）</p>	
2	<p>委員会の適切な運営</p> <p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>①学生委員会を計12回開催（臨時2回）した。</p> <p>審議内容：課外活動団体の登録、課外活動団体に対する各種援助（課外活動団体育成援助金、器具・備品援助、学外団体加盟費等援助、全国大会参加費等援助）、学生部長表彰選考、学生の懲戒、課外活動関連要項制定等の案件を審議。</p> <p>②奨学生選考委員会を計8回開催した。本学奨学金採用者、学外各種奨学金推薦対象者の選考に関する事案、本学または日本学生支援機構から奨学金貸与を受ける学生への学業成績処置基準による処置等を審議した。</p>	<p>①適切な委員会運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種事項に十分審議を行い、特に懲戒、課外活動に関する要項等の制定等の重要案件については、時間をかけて慎重に議論を行う等、適切な運営を実施した。</li> <li>委員による学部教授会でのアナウンスを励行することを目標とし、それを実現した（卒業生の漢字名の変更手続、南山チャレンジプロジェクトについて教員への周知徹底をはかり周知を徹底した）。</li> <li>国際教養学部設置に伴う新たな収容定員の状況を鑑み、来るべき2019年度の学長表彰に備えて、新たな基準による学科割り振りによる制度に改正した。</li> <li>課外活動に対する奨励奨学金制度の意義を検証し、意見のあったゼミ活動を対象とするなど方針を明確にした。</li> </ul> <p>②各種事項に十分審議を行い、特に本学奨学金採用者、学外各種奨学金推薦対象者の選考に関する事案、本学または日本学生支援機構から奨学金貸与を受ける学生への学業成績処置基準による処置等について、時間をかけて慎重に議論を行い、適切な運営を実施した。</p>	<p>①定期試験不正行為が13件あった。このうち第4Qで発生した7件については、これまでに想定されていないスマートフォンを利用した事案であった。</p> <p>②課外活動団体処分が1件あった。</p>	<p>A</p>	<p>①特になし。</p>	<p>①スマートフォンを利用した不正行為については、時代的背景もあるため、それに対応するための対策を、学生部が教務部と協議の上、必要な整備を7月末までに行う。</p> <p>②課外活動団体の処分について、迅速かつ柔軟に対応するための規程改正を2019年度に学生部より行う。</p>	<p>2018年度学生委員会・奨学生選考委員会資料および記録</p>

		委員会/事務組織等名称	学生委員会	氏名	岡田 悦典			
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
No.		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。</p> <p>規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
3	大学主要行事の適切な運営	<p>以下の主要大学行事を実施・監督した。</p> <p>① 上南戦の開催 (7/6-8)</p> <p>② 大学祭の開催 (11/2-4)</p> <p>③ 降誕祭の開催 (12/14)</p> <p>④ 野外宗教劇 (10/13)</p> <p>⑤ ゆかたフェスティバル (7/13)</p>	<p>主要な大学行事について、重大な問題も発生せず、適切に実施されることを目標とし、その目標が達成され、無事に開催された。</p> <p>① 上南戦は本学で初めての7月開催であったが、事前に熱中症対策などを指導してきたため、特に重大な事故もなく、実施された。2019年度上南戦の日程を7月開催で上智大学と合意し、確定することができた。</p> <p>② 大学祭は3日間開催となったが問題も発生することなく実施された。</p> <p>③ ④ 降誕祭・ゆかたフェスティバルも予定通り実施された。</p> <p>⑤ 野外宗教劇については、学内の改装工事のため屋内で開催し、予定通り実施された。</p> <p>これら課外活動については、学生委員会において報告するとともに、意見を聴取した。学生部で今後の課題を集約し、課外活動担当次長が、大学祭実行委員会、上南戦実行委員会、野外宗教劇の担当学生と話し合う機会を持ち、次年度に向けての課題について、意見交換を行った。</p>	特になし。	<p>・2019年度を通じて、学生部が各行事を主催する団体との意見調整の上、学生委員会の意見を集約し、次年度への課題を明らかにする。</p> <p>・上南戦の日程が7月となって2年が経過した。2019年度の日程は確定しているが、2020年度以降日程の固定化（7月第1週末）に向けて上智大学と交渉を行う。</p>	特になし。	2018年度学生委員会資料および記録	
4	課外活動団体の支援・指導	<p>① 課外活動団体について問題ある団体について、適切な指導・支援を行った。</p> <p>② クラブ部長懇談会を実施して、クラブ部長からの意見を聴取するとともに、適切なクラブ部長配置の方針を決定した。</p> <p>③ 奨励クラブコーチに対するハラスメント講習会を実施するとともに、懇談会で意見を聴取した。</p> <p>④ キリスト教センター運営委員会に学生部長、学生部次長（課外活動担当）、学生課長が出席して、連携を図った。</p>	<p>① 課外活動団体をより奨励・支援するために、新たに学長表敬訪問を年に2度実施することとし、第1回の実施を9月に行った。また安全講習会を開催し、安全対策を徹底した。さらば課外活動団体の全国的活躍を促進するために、全国大会参加費等援助)を改正し、他部員の支給もできるような支給の拡大化を図った。</p> <p>② クラブ部長の委嘱についても、意見聴取の上方針として1教員2クラブまでという部長割当てを原則とし、徐々に適正化をすすめることとした。全教員にクラブ部長人材調査をPORTAを通じて実施し、各教員の関心や課外活動歴の情報収集を行い、退職や研究休暇等で新たなクラブ部長が必要になった場合の人材配置の選考材料とすることを可能とした。</p> <p>③ 奨励クラブコーチの年度内切り替えの制度を新たに実施できるものとした。また、奨励クラブコーチの指導状況報告書および申請書の書式を改訂し、コーチによる確認を行う形式とし意思疎通を徹底した。</p> <p>④ キリスト教センターが南山大学所有のものとなったため、同センター所属の課外活動団体に大学ルールの徹底を図る説明会を実施した。</p>	<p>① 課外活動団体においては、機体・船舶という法令に基づく物品を所有するところがあり、また、ヨット部員は、現在、スポーツ安全保険に加入しているが、ヨット・モーターボート保険については未加入の状況である。ただし、ヨット部員は減少傾向にあり、2019年度4月以降、部員数の状況を鑑み、加入を再検討することとなった。所有者名義については、現在学校法人南山学園の所有となっているが、学校法人の性質、役職者およびクラブ部長教員の異動等により、必ずしも適切な運用方法とは言えないため検討の必要がある。</p> <p>②③④については特になし。</p>	<p>① 学長表敬訪問を、本年度も学生部により2回行う。</p> <p>② 今後は新任用教員についても、任用時にクラブ部長人材調査への回答を求め、学生部・学生課として、情報の蓄積を行い、適切なクラブ部長の人材配置が行えるようにする。</p> <p>③ 奨励クラブコーチに対してもスポーツ保険加入の案内をすることとし、安全対策への意識向上を図る。</p> <p>④ については、特になし。</p>	<p>① 機体・船舶の管理方法については、他大学の状況を鑑みつつ、より適切は方法について検討を行う。2019年度のUNIVAS加入などもふまえて、各クラブの安全対策について継続的に検討を加えていく必要がある。</p> <p>②③④については特になし。</p>	2018年度学生委員会資料および記録・学生部会議資料および記録	

		委員会/事務組織等名称	学生委員会	氏名	岡田 悦典			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。 [3] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
5	南山チャレンジプロジェクトの実施  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	南山チャレンジプロジェクトの実施  ・学生の主体的な課外活動を支援する南山チャレンジプロジェクトを実施した。8件の申請があり、厳正な審査のもと、7件が採択された。	採択された案件の中には、マスコミにも大きく取り上げられたものや、大きな行事として実施され本学における課外活動が一層活性化された。 ・一部団体の活動については、学生交流センターのコアグループ等の形で継続的に参加を行ったり、別途同窓会の援助を得ることで活動が継続できた例もあった（2017年度採択団体ゆかたフェス実行委員会） ・学生交流センター10周年記念事業の一企画として、次年度の継続実施の目処がたったものもあった（2018年度採択団体KNICX）。	現状の南山チャレンジプロジェクトは、単年度ごとに各団体から申請に基づき、支援すべき活動を採択し、一年間の活動を支援する形で行われている。そのため、すぐれた実績をあげた採択団体であったとしても、次年度以降に継続的な支援が得られない場合には、その活動が停止してしまうことがあった。そのため、依然として多くの団体が単年度ごとの活動にとどまり、継続的活動にまでは至っていない。 例：2017年度採択団体Bright Berry・アルバイトをする中で直面した労働問題について調査し、対処法を記載した冊子の製作。 例：2018年度採択団体Kizuna-talk・異文化理解のため、カンボジアの大学生と南山大学生がSkypeを通して日本語での交流を実施。	A	・より多くの申請を促すため、南山チャレンジプロジェクトの申請の応募件数を緩和し（1名から可能。アドバイザー教員は事後でも可）、スケジュールの前倒し、2コースを30万円まで一本化する改善策を行った。また申請書類の修正再提出期間を設けた（10月3日学生部会議）。この改善策を、2019年度の第2期募集においても、学生部において継続実施する。	・南山チャレンジプロジェクトについて次年度以降の継続的な支援の枠組みについて、学生部において、2019年度9月末までに検討する。	2018年度学生委員会資料および記録・2019年度南山チャレンジプロジェクト募集要項 南山チャレンジプロジェクトHP (http://office.nanzan-u.ac.jp/student-services/nanchare/index.html)
6	セントルムは、学生の自主的な課外活動を支援するために設立されて、来年度は10周年を迎える。今年度行った運営改善点や新規に開始したことは、以下の通りである。  ①セントルム開室時間を大幅に拡大し、学生の利便性を向上した。  ②TAの雇用ルールを明確し、セントルムの活動を支えられる人材の雇用に努めた。  ③TAの役割分担を明確化した。具体的には、広報・ランチトーク準備・コアグループ対応などのポストを各TAに割り当てた。  ④より学生のニーズに即したランチトークの開催に努めた。  ⑤2019年度のセントルム10周年に向けて準備を開始した。	セントルムは、学生の自主的な課外活動を支援するために設立されて、来年度は10周年を迎える。今年度行った運営改善点や新規に開始したことは、以下の通りである。  ①セントルム開室時間を大幅に拡大し、学生の利便性を向上した。  ②TAの雇用ルールを明確し、セントルムの活動を支えられる人材の雇用に努めた。  ③TAの役割分担を明確化した。具体的には、広報・ランチトーク準備・コアグループ対応などのポストを各TAに割り当てた。  ④より学生のニーズに即したランチトークの開催に努めた。  ⑤2019年度のセントルム10周年に向けて準備を開始した。	効果が上がっている事項は、②・③・⑤である。  ②については、これまで明確な雇用ルールが存在しなかったため、その都度簡単な面接をするなどして採用を決めていた。今回のルール化により、GPA基準を設け、動機書などを記入させることで、TA雇用をよりスムーズに実施できた。  ③については、セントルムの組織体制がはっきりし、TA自身の役割も明確にされ、責任意識が高まった。TAの代表に負担が集中することなども改善された。  ⑤については、年度末の学生交流センター委員会でも、10周年企画の概要は伝えられた。これまでの活動の振り返りと今後に向けたセントルムの活性化に向けて良い機会となるようにしたい。	改善すべき事項は、①・④である。  ①については、今年度、学生の利便性を高めるためにセントルム開室時間を9時～20時半に変更した。しかし、月によっては増えた時期もあるが、基本的に前年度とほとんど増減はなかった。開室時間の問題以外で何か学生の利便性を高める方策を考えていきたい。  ④については、試験対策ランチトークは例年通り参加者が多かったものの、他のランチトークはなかなか人が集まらなかった。この辺りも今後の課題としたい。	A	②については、新年度の開始などでTAの入れ替わりなどがあるので、今後も新規TA雇用は積極的に行う。  ③については、役割の明確化の二年目になるので、その体制を実際に動かしてみても問題はなさかどうかも検討する。  ⑤については、10周年企画の詳細は今後も検討が必要であるため、引き続きしっかりと準備を進めていく。	①については、コアグループに新年度の説明会などでセントルムの積極利用を働き掛けることにした。  ④については、ランチトークの開催内容をTAミーティングにセンター長も加わって検討し、より集客力のあるものを計画し、実施していく。	2018年度第1回・第2回学生交流センター委員会資料および記録 2018年度学生部会議資料および記録

		委員会/事務組織等名称	学生委員会	氏名	岡田 悦典		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料
7	奨学金制度の適切な運用	<p>①学内給付奨学金について、2018年度に221名の応募があった（前年比28名減）。それに対して、受給者は規程通り63名であった。</p> <p>②学外奨学金の推薦についても、36名の推薦を行った。また、学外奨学金主催の催しに学生部次長が出席し、情報を収集した。</p> <p>③日本学生支援機構貸与型奨学金の新規申し込み者にかかる選考・推薦を延べ197名おこなった。</p>	<p>①一昨年度より5年間の実績を契機として給付奨学金制度の改正を行った。具体的には、認定方法をJASSSの基準に原則として依拠する方式を改め、所得基準に統一することとした。これによって、多様な家族構成が考えられる今日の状況に対応することができるようになった。一方、本学の給付奨学金においては、1種と2種の差を設けることについてはこれを維持した。1種の奨学金額が周辺大学よりも大きいことから、所得が低い家庭でも本学への進学動機となっており、広報的效果はあった（根拠資料①）。</p> <p>②学外奨学金について、新規のものを精査し新たに募集を募った。</p> <p>③奨学金と関連のあるアルバイト事情についての理解を図るために、「南山生のアルバイトの現状と課題」に関するSDを企画実施した（7月4日）。</p>	A	<p>①広報的效果が認められるのであれば、それについて、入試広報との連携をはかり、本学志望者に対して、2021年度入試より、周知することが考えられる。</p> <p>②学外団体の意向に応じた選考をすることが最終的な採用に影響するため、その内容の把握および検証を継続的に行う。</p> <p>③については特になし。</p>	<p>①1種と2種の選出方法の合理性の検討をし、合理性がない場合には、2020年度より合理性のある選出方法、もしくは、2種のみの給付という弾力的運用を検討する。加えて、文科省が示す住民税非課税世帯に対する授業料減免の方針を打ち出しており（根拠資料②）、住民税非課税世帯等に対する支援のあり方を、給付奨学金も含めて全体的に見直す必要がある、2020年度内に一定の結論を出す。</p>	<p>①日本学生支援機構の学校担当者用のWebページ「大学・地方公共団体等が行う奨学金制度」（<a href="https://www.jasso.go.jp/about/statistics/shogaku_dantaiiseido/index.html">https://www.jasso.go.jp/about/statistics/shogaku_dantaiiseido/index.html</a>）</p> <p>②文部科学省「高等教育の負担軽減の具体的方策について」（<a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/086/gaiyou/1406203.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/086/gaiyou/1406203.htm</a>）</p> <p>2018年度奨学生選考委員会資料および記録・学生部会議資料および記録</p>

		委員会/事務組織等名称	保健管理委員会		氏名	中野 有美		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
					改善すべき事項	改善すべき事項		
1	学生からの合理的配慮申請への対応	2016年4月の「障害者差別解消法」施行により私立大学における障害者への合理的配慮が努力義務になったことを受け、2017年度のキャンパス統合に伴い、保健センターは関連する部署などと連携しつつ学生・教職員の保健管理に取り組んできた。今後、合理的配慮を希望する学生は増加が見込まれ、保健センター内の保健室、学生相談室、特別修学支援室の3室間、保健センター外の関連部署とのより一層の情報共有と連携が望まれる。	①合理的配慮を求める学生に対応するための対応手順の充実。 ②合理的配慮を求める学生に対し、申請時のアセスメントに加え、文部科学省が打ち出した「障害のある学生の就学支援に関する検討会(平成28年度)第二次まとめ」の内容を受けて、前年度に行っていたモニタリングをより体系化し行った。 ③合理的配慮を主に担当していた特別修学支援室スタッフが年度末で全員(3名)辞めることになったが、意欲があり人格円満かつ有資格の人材を2019年度4月に向けて任用することができた。	①「改善すべき事項」を記述してください。 ②記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 ③到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 ④500字以内で簡潔に記載してください。	A	①合理的配慮の新たな担当者には、さっそく着実に合理的配慮について学習して、具体的な仕事内容を把握してもらい、業務に慣れて行けるような環境を構築する。 ②合理的配慮を申請した学生が、成長していけるような支援の手順を関係者が把握し体現できる環境を作る。 ③学内全体に向けて(教員、職員)合理的配慮の重要性と意義を周知していく	①「改善すべき事項」については、その改善方法を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 ② 500字以内で簡潔に記載してください。	① 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
2	キャンパス統合後の環境に合わせた活動	キャンパス統合に伴う学生数の増加を受けて、保健センター内各室の業務量と内容(とりわけ、身体管理と精神保健管理)に見合った人員を適切に配置するとともに、保健室、学生相談室、特別修学支援室の各室での活動内容と活動状況を把握し整備していく必要がある。	①適切な業務内容を勘案し、新しい体制作りの基礎として看護師を2名体制とした。 ②修学支援、就活サポート、合理的配慮を担当するコーディネーター(委嘱)を特任助教の立場で任用することを決定し、就労移行支援に詳しい人材を任用した。	①「改善すべき事項」を記述してください。 ②記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 ③到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 ④500字以内で簡潔に記載してください。	A	①看護師の専門性が引き出されるような環境を作り出すことで、彼らの潜在能力を引き出す。 ②新たに採用された特任助教の特性を生かし、特別修学支援室の活動内容を充実させる。	①「改善すべき事項」については、その改善方法を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 ② 500字以内で簡潔に記載してください。	① 2018年度第2回保健管理委員会資料(2019. 2. 27)





		委員会/事務組織等名称		保健センター		氏名		中野 有美	
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
			[1] 効果が上がっている事項」を記述してください。	[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。		[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。	[2] 500字以内で簡潔に記載してください。		
3	職員定期健康診断	<p>①職員定期健康診断 「労働安全衛生法第66条と労働安全衛生法規則44条に基づき、事業者は労働者に対して、医師による健康診断を実施しなければならない。また、労働者は、事業者が行う健康診断を受けなければならない。」 学内で実施する春期・秋期健康診断または、人間ドックを受け、保健センター・保健室へ結果を提出している。 秋期の健診結果・受診状況を集計をした時点で、教育職員未受診者については教授会にて受診を勧められている。2018年度の受診率は72.2%であった。受診率100%を目標に労働安全衛生法にて決められた健康診断である事の周知が必要である。 事務職員については例年受診率100%であるが、2018年度は健康診断結果の未提出が1件があった。定期受診されていても、健診結果の提出が必要であることを更に周知していきます。</p>	<p>①事務職員の受診率は100%に達する状況であり、来年度も継続できるようにサポートしていく。</p>	<p>①教育職員においては、定期健康診断の必要性が浸透していなく、行動変容が必要である。 学部別の受診率をお知らせし、受診同期に結びつけるように取り組む。</p>	B	<p>①来年度より、人間ドックの補助金の制度変更があり、受診率低下を招く危険性がある。 制度変更について、情報提供を行い、不明点について説明を行っていく。</p>	<p>①教育職員においては、定期健康診断の必要性が浸透していなく、行動変容が必要である。 学部別受診率や、定期健康診断受診が決められたことであることを、定期的に情報提供して、受診に結びつけるように取り組む。</p>	<p>労働安全衛生法第66条 労働安全衛生法規則44条 南山大学規程・就業規則第4章第2節111条</p>	
4	職員健康管理	<p>①健康診断後の事後指導（労働安全衛生法第66条の7に基づく） 2017年度までは、事後指導が積極的に行われていなかった。 2018年度は春期・秋期定期健康診断と人間ドックの結果により、要受診・要精密検査の項目について、医療機関への受診の有無を確認し、未受診の場合は健康相談の予約を取り、個別指導を行っている。 場合によっては、総合病院の受診予約を取り対応している。 入院・手術が必要となった場合は、退院後の状態について再度健康相談にきていただき、その後の就業について評価を行っている。</p>	<p>①2017年度の改善点に上がっていた「健康診断後の事後指導」については、有所見者へ定期的な面談を積極的に行い、疾病の予防・早期発見に努めた結果、状態の安定がはかれている。 来年度も引き続き、積極的に対応を続けていく。</p>	<p>①については特になし</p>	A	<p>①健康診断の評価を早急に行い、指導が必要な方を取りこぼしの無いように対応していく。</p>	<p>①については特になし</p>	<p>労働安全衛生法第66条</p>	

		委員会/事務組織等名称	保健センター	氏名	中野 有美		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
5	健康相談	①学生・職員に対する健康相談風邪・インフルエンザ等の感染症から、部活・体育にて捻挫・外傷等にて保健室を利用された方に病状・その後の対応の説明を行う。身体的不安について、医療機関を受診した方が良いか迷う場合、相談を受け必要に応じて紹介状を作成する。 健診結果の内容が理解しにくいいため、説明の希望があった。結果説明に加え、経過観察項目についても生活習慣の改善指導を行った。	①学生・職員に対して、気軽に利用できる場所として保健室・保健センターを知っていただけている。	①については特になし	①引き続き、各々の問題について対応を行っていく。	①については時になし。	2018年度南山大学保健センター利用案内リーフレット（見開き1ページ目）
6	保健センター・保健室主催「健康講座」	①「大学生の海外留学、海外旅行における旅行医学入門」を開催した。水曜日の午後開催としたが、参加者は10人以下となった。参加者からは、活発な質問があり、また講座内容の予防接種について、後日個別に健康相談にみえ、留学前に医療機関への受診へ結びつけることができた。参加された国際センター職員との繋がりができ、留学生の保健室への来室のきっかけ作りとなった。参加人数の少ないことが問題であり、今後、学生・職員が参加しやすい日時・講座内容の検討が必要である。	①参加者が、興味ある講座内容については、その後の保健センターへの関わりが向上した。	①例年通り、参加者が少なかった。講座内容と開催日時について検討が必要である。	①2019年度は、7月からの学内禁煙に向けて、「受動喫煙施設者に与える健康影響について」を2回予定している。	①例年通り、参加者が少ないことが問題である。参加者が、興味ある講座内容について検討する。開催日時も参加しやすい日時を検討し、参加することでの特典も考える必要がある。	2018年度第2回保健管理委員会資料 2019年度第1回保健管理委員会資料

		委員会/事務組織等名称		保健センター		氏名		中野 有美		
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価		自己評定		将来に向けた発展方策		根拠資料
		[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。			
7	産業医活動	①職場巡視 衛生管理者と共に、月1回学内の職場巡視を行っている。 通常業務時間内に巡視を行うため、日常の問題を把握することができている。建物の老朽化に伴う換気システムのトラブル、トイレ環境の悪さ(臭い、寒さ、和式のため使いにくい、洗浄が上手くできないなど)、耐震対応の不備(棚が壁に固定されていない部分が散見される)、ムカデ等の発生など確認し、衛生委員会へ報告を行い、施設課など関係部署へ対応の依頼につなげている。 ②ストレスチェック 「労働安全衛生法第66条の10の規定に基づく労働者の心理的な負担の程度を把握するための検査(ストレスチェック)」を年1回行っている。 ストレスチェックの結果により、2名が産業医面接を希望され、実施した。1名は1回の面接で終了、もう1名は面接後も引き続き月1回健康相談を継続している。面接当初よりは、笑顔も出るようになり、変化がみられている。 ストレスチェックの集団・分析結果は、教育職員・事務職員に分けて行い、衛生委員会、大学本部へ提供している。	①については特になし ②については特になし	①については特になし ②については特になし	A	①引き続き、巡視を行い、職場環境の改善に繋げる。 産業医の存在について、知っていたら機会にしておく。 ②については特になし	①については特になし ②については特になし	南山大学衛生委員会規程第6条  南山大学職員の心理的な負担の程度を把握するための検査(ストレスチェック)制度に関する規程第1条		
8	留学に関する業務	①英文診断書の作成 留学を控えている、学生・教育職員の診察、健診結果より英文診断書を作成している。 期日ギリギリに学生から作成依頼があり、各部署に早めに依頼するよう促している。 現在、作成遅延はなく問題なく行われている。 ②総合政策部による南山短期アジア留学プログラム(NAP) 短期留学前に、NAP健康調査票の内容を学校医が確認し、留学前・中に対応が必要なこと、持病にて通院している場合は英文診断書の必要性を判断し、健康相談を行っている。術後定期通院している学生に対して、高所での生活が不可欠の確認を主治医に取ること、使用エアラインの確認などを指導した。 学生を引率していく場合は、事前に旅行会社に使用エアライン、旅客機の種類の確認、現地の医療体制の確認が必要な場合が出てくるので、学内担当者と旅行会社の密な打ち合わせ確認が必要と感じました。	①英文診断書の作成依頼があった時点で、すぐ連絡を取り、面談予約や健康診断結果の準備をすることで対応が可能であった。 ②NAP健康調査票の内容評価を行い、個別対応を行うことができた。	①英文診断書作成時間が必要なことが認知されてなく、期日当日に面談される方がいた。 時間に余裕を持って依頼していただくように、周知が必要である。 ②持病がある学生を入学時に、把握できれば、その後の行事に事前に対応可能となるため、健康診断時の既往歴・現病歴の記入が大切である。 問診票の記入について見直しも考慮していく。	A	①来年度も依頼が入った時点で、早急に面談等の対応を決めていく。 ②NAP健康調査票から問題点を洗い出し、対応をしていく。	①英文診断書作成時間が必要なことを、関係部署にお知らせして、時間に余裕を持って依頼していただくよう勧める。 ②定期健康診断の既往歴・現病歴の記入例を作成し、正確な情報収集に努める。			

		委員会/事務組織等名称	保健センター	氏名	中野 有美			
	No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	9	国際センターとの業務	①2018年春季派遣留学生の「出発前オリエンテーション」 2回オリエンテーションの依頼があり、看護師が、海外生活における注意事項（飲食の注意、常備薬の持参、睡眠障害などメンタルトラブル）について説明を行った。 ②外国人留学生別科生の健康相談持病があり母国の担当医作成の英文診断書を持参して相談にみえ、担当医とメールにて情報共有を行った。感染症のため近医へ紹介状を作成し受診。 精査が必要なため、総合病院の予約を取り受診。 体調不良のため、保健室にて休養、その後のアドバイスを行ったなど、外国人留学生の保健室利用が増えている。	①海外へ行くことを特別と捉えず、日常生活の続きと捉えて、通常使用している常備薬を持参することを説明。 ②外国人留学期間中は、日本語によって異なるため、生物の摂取（屋台のカットフルーツは、包丁・まな板が不衛生のリスクあり）について説明。 ③環境の変化によって、不眠症やうつ症状が出現することがあることを知っておいて、異常を早期に気づくことが大切と説明。 ④知っていることで予防可能なことがあり、上記を周知することから安全な留学期間につながる。 ⑤国際センター、外国人留学期間中に、保健センター・保健室の存在と利用方法を知ってもらえている。	①出発前オリエンテーションの効果について、評価ができておらず、来年度は評価方法について検討し、実施が望ましい。 ②外国人留学期間中は、日本語を学ぶことで、病状や困っていることを具体的に説明することもできるが、詳しいことになると、言語の問題が見られた。	A	①出発前オリエンテーションについて、春季派遣留学生が医療的に不安に感じていることなど、要望を事前に聴取し、その項目について説明することで、より深く対応していきける。 ②国際センター職員も、学生対応に積極的に関わってくれ、保健室・保健センターと顔の見える関係ができてきている。	①2018年度末に開催の合理的配慮を希望する学生へのサポート体制についての情報共有会議にて、学生相談室を含む保健センターのコンサルテーションについて周知した。また、2019年度に、心理検査（WAIS-IV）を購入し、学生相談室および特別修学支援室の特任助教を中心とした心理検査を実施可能な体制を整える。 ②特になし。 ③特になし。
	10	学生相談室の運営	①2018年度学生相談室の面接時間は、春学期1週につき約11.5日（精神科医による精神保健相談3.5日、臨床心理士による学生相談約8日）、秋学期14日（精神保健相談6日、学生相談8日）であった。2018年度における精神保健相談・学生相談件数（相談のべ数）は、1,627件であった。 ②「南山大学保健センター報告書第1号（2017年度）」に学生相談室関連各位が2017年度における学生相談室活動に関して記載するとともに、来談者数等の統計資料を掲載した。 ③学生・教職員を対象とした講習会を年間4回（学生対象：2回、学生および教職員対象：2回）実施した。計48名の参加があった。	①学生や保護者の個人面談、教職員のコンサルテーションのニーズに沿う個人面接体制を整備し、ニーズに応える面接を実施することを目標にした。この点について春学期は面接実施日が少ないため、懸念があったが、春学期も含め通年でニーズに沿う個人面接を実施することができた。 ②学内の教職員に対して、学生相談室に関する客観的データに加えて、学生相談や心理的課題・問題に関連する諸テーマについて、報告することができた。 ③学生および教職員の心身の健康の促進に寄与する講座開催を通して、心身の健康に関する予防的アプローチを実施することができた。	①発達障害も含めたより広いニーズに、より的確に対応できる目標に向けて、学内の教職員と連携できる体制や保健センター内の体制の整備を行う必要がある。 ②特になし。 ③特になし。	A	①2019年度の面接実施状況を保健センター会議等で確認・検証し、2020年度における適切な面接体制について協議する。 ②特になし。 ③特になし。	2019年度第1回保健管理委員会 南山大学保健センター報告書第1号（2017年度）

		委員会/事務組織等名称		保健センター		氏名		中野 有美		
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価		自己評定		将来に向けた発展策		根拠資料
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
11	合理的配慮を視野に入れた、特別修学支援室の事業計画	H24年度に高等教育局が開催した「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」等で示された高等教育段階における合理的配慮に関する留意点、すなわち、1) 機会の確保、2) 情報公開、3) 決定過程、4) 教育方法等、5) 支援体制、6) 施設・設備の6つの項目について、大学の特別修学支援室において期待される役割を明確にし、それに沿った事業計画の見直しを行った。	①6つの項目の中で、次の項目の効果が上がったと考えられる。 1) 機会の確保 4) 教育方法等 5) 支援体制 6) 施設・設備  ② 1) 2018年度は、187日間、9:30から16:30まで開室し、学生の随時受け入れを行った。 4) 履修の相談、授業内容に関する補習について、学生サポーターをアルバイトとして募集し、学生の支援を必要とする側面と学生サポーターのマッチングを行ったうえで、マンツーマンで修学に関する困りごとへの具体的な支援を実施した。 5) 修学支援は4)に記載した。合理的配慮については中間モニタリングを開始した。 6) 明るく和らいだ雰囲気づくりのために、グリーンを置いたり、絵画を飾ったりした。	①6つの項目の中で、次の項目について改善すべき点が挙げられる。 2) 情報公開 3) 決定過程 4) 教育方法等 5) 支援体制  ② 2) 保健室や学生相談室へ、特別修学支援室が得た情報を公開し、共有する流れを作る。 3) 保健室や学生相談室からの意見を尊重しながら決定過程を作成していく。 4) 5) コーディネーターとして委嘱されていた者を特別修学支援室担当の特任助教とし、マンパワーを充実させる。 個室で話したい学生がいた場合、個室での相談活動が可能になると良い。	B	1) 特別修学支援室の開室時間や日数をさらに増やす。具体的には、授業日は基本的に開室することとし、いつでも訪室できる安心感を学生に感じてもらえるようにしていく。 4) 学生サポーターに関しては、特別修学支援室の前身が瀬戸キャンパスにあったMa-NAVIという学生支援の機関だったため、これまではその流れの影響で、瀬戸キャンパス内にあった学部(総合政策学部)との連携が中心となっていた。今後は募集システムを工夫して多くの学部から広く募るようにする。修学支援体制についても、説明可能なオープンな体制づくりをする。 5) 合理的配慮については、さらに配慮できる項目の整備、配慮開始後の支援体制の整備(中間モニタリングを含む)を行う。特別修学支援室の特任助教とコーディネーターが中心になって行う。	2) 3) 5) 情報公開と支援体制については、3室連携の手始めとして、学生相談室で働く特任助教との連携が深まるようなシステム作りを工夫する。例えば、■学相カウンセラー→特修カウンセラーで働く日を作る。 ■特修カウンセラー→学相で定期的な面談も担当する。 ■保健室、学生相談室、特別修学支援室のスタッフで、学生に関する情報共有と意見交換の場を定期的に設ける。 ■特別修学支援室を利用する学生で急に個室で相談が必要になった際に、空いている個室が使用できるような仕組み作りを行う。これにより、特別修学支援室利用学生からの相談への対応力を向上させる。 4) 教育方法等について ■学生の仲間作り、横の繋がりを伸ばすため、特別修学支援室での行事をより充実させ場の提供を行う。 ■認知行動療法等の心理社会的資源ツールを活用し、特別修学支援室以外の場も含めたキャンパスライフ全体の質の向上に努める。	合理的配慮を希望する学生へのサポート体制についての情報共有会議資料(2019/03/31開催)		
12	特別修学支援室における、学外機関との連携	学内のリソースのみでは十分な対応が困難な状況について、労働関係機関(就労移行支援事業所等)との連携について工夫した。	就労移行支援事業所ノックス葵の安井キャリアコンサルタントに委託し、キャリア支援講座、個別相談を行った。	①就労移行支援が必要な学生が、仕事体験や職場見学ができると良い。 ②大学のキャリア支援室と連携が進むと良い。	B	特別修学支援室の特任助教はキャリアコンサルタントの国家資格を持ち、キャリア支援業務に携わった経験がある。当該特任助教にも、特別修学支援室に来る学生のキャリア支援を学んでもらい、外部の刺激を得ながら内部のスタッフがキャリア支援できるような体制を整える。	①ノックス葵を始めとした外部の就労移行支援事業所の協力を得るなどして見学したり、職場体験できる場所を開発する。 ②キャリア支援室のスタッフによる特別修学支援室見学、特別修学支援室のスタッフによるキャリア支援室見学を行い、お互いの業務内容や業務の流れについて理解を深める	合理的配慮を希望する学生へのサポート体制についての情報共有会議資料(2019/03/31開催)		

		委員会/事務組織等名称	教務委員会	氏名	佐々木 克巳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】並度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	委員会の計画・方針の確認	第1回の委員会において、委員会の日程、および、前年度の自己点検・評価報告書に基づき、2019年度の方針を確認した。	委員会の方針を確認することにより、委員会を円滑に運営することができた。	A		第1回教務委員会記録_報告事項1		
2	授業日予定表、新入生行事日程表	授業日予定表で15コマが確保できない授業の問題に対し、2019年度の授業日予定表では、月～金の各曜日で各クォーター8週間を確保した。 新入生行事日程は、第1クォーターで各曜日8週間の授業日を確保するため、短縮しなければならなかったが、webの活用等で短縮した形で計画できている。	本来の15コマ確保という原則の範囲で対応できた。新入生行事日程も、期間を短縮した形で計画できた。	A		2019年度授業日予定表_第5回教務委員会_審議事項4 2019年度新入生行事日程表_第3回教務委員会_審議事項6		
3	単位認定	以下の単位認定をその時期の教務委員会で審議した。 ・編転入・転部転科者、再入学者、帰国留学生、休学留学生の単位認定 ・外国語検定試験、経営学部簿記検定試験、愛知学長懇話会・単位互換事業による単位認定	単位数や時間数等の確認を全学の組織である教務委員会で行い、適切な単位認定に繋がられている。	A		各回の教務委員会記録		
4	追試験の認定	各クォーターの追試験申請に対し、その理由の妥当性を教務委員会で審議した。	追試験の理由を審議し、一定の基準のもとでその判断ができている。	A		第2, 4, 7, 10回の教務委員会記録		

		委員会/事務組織等名称	教務委員会	氏名	佐々木 克巳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
5	各種資格の課程修了者の認定	博物館学芸員養成課程修了者、司書課程修了者、学校図書館司書教諭課程修了者の認定を行った。	必要単位数の確認を、全学の組織である教務委員会で行い、適切な認定に繋がられている。	A		第11回教務委員会記録_審議事項3、4		
6	科目の履修条件	科目の履修条件を整理し、在学生については対応表をwebに掲示し、2019年度入学生については、対応表を履修要項に明記した。	これまで、科目の履修条件は、委員会等にかかわらず科目ごとに設定されていたものもあったが、これを各委員会と教務委員会での承認のもとで対応表にまとめることができた。システムへの入力や学生への案内時の確認の基準となる資料ができたことで、わかりやすさやミス防止につながると考える。	A		2019年度履修要項 教務課webページ「履修要項・履修案内等」 _http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUU/Item/2019_100_0_gakubu.pdf		
7	履修証明プログラムに関する規程の制定	本学学生以外の者を対象とした特別の課程として編成される履修証明プログラムに 関して必要な事項を定めることを目的として規程を制定した。	この制定により、理工学部の enPiT の枠組みを大学として提供できることになった。	A		11月6日大学評議会承認事項要約_審議事項10		
8	履修要項の改正	法学部、共通教育の新制度にともない履修要項を改正した（7の課題の対応としても改正しているが、7で記載されているので、ここには記載しない）。	法学部では、教職課程再課程認定との整合性から、2019年度と2020年度の2段階での改正が確認できている。 共通教育では、国際産官学連携PBL科目の追加され、「大学の世界展開力強化事業」の計画が着実に履行できている。	A		2019年度履修要項 教務課webページ「履修要項・履修案内等」 _http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUU/Item/2019_100_0_gakubu.pdf		



		委員会/事務組織等名称	教務委員会	氏名	佐々木 克巳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料		
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
9	夏期集中講義の取扱	夏期集中前半、夏期集中前後、夏期集中後半の定義を、全学カリキュラム委員会での了承の上で、本委員会でも明確にした。	クォーター制のもので、3種類の集中講義のどれに該当するか微妙な開講が予想できるため、その定義を明らかにすることで、円滑な運用につながる事が期待できる。	A		第7回教育委員会記録_審議事項8		
10	シラバスのコーディネータチェック	シラバスのコーディネータチェックは、カリキュラム方針に基づきチェックすることをコーディネータへの依頼文に明記することを確認した。	内容自体がわかるものではないが、この明記は、私立大学等経常費補助金の算定基礎のために提出している要件を満たすことにつながる。	A		第7回教育委員会記録_審議事項9		
11	南山大学試験規程の改正	追試験の申請方法の見直しと追試験運営に合わせた変更を行った。	第2クォーターの定期試験後から事務休日までの期間を考慮した追試験申請日程を計画できるようになった。加えて、現状で運用で対応していることを規定上にも明記できた。	A		3月11日大学評議会承認事項要約_審議事項22		
12	南山大学授業科目履修規程の改正	南山大学学則の改正に合わせた改正を行った。	学則との整合性が維持されている。	A		3月11日大学評議会承認事項要約_審議事項21		
13	南山大学早期卒業規程の改正、南山大学法務研究科および南山大学法学研究科との連携に伴う法学部早期卒業に関する内規について	法学部の早期卒業に関連する規程の整備を行った。	法学部の早期卒業に関する規程が整備できている。	A		3月11日大学評議会承認事項要約_審議事項23		

		委員会/事務組織等名称	教務委員会	氏名	佐々木 克巳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
14	第2クォーター在学中在学学習の単位認定制度	クォーター制移行後(2017年度から)の施行である。2017年度は2名、2018年度は3名の学生の単位を認定した。	クォーター制を活かしているかの1つの指標であるが、一定の効果は確認できていると考える。	A		第11回教務委員会記録_審議事項2		
15	卒業論文提出の電子化	2019年度の卒業論文提出からの実現に向けて、まずは各学部への意見聴取からはじめている。	意見聴取の依頼までは、滞りなく進んでいる。	A	意見聴取の結果を踏まえ、5月からの新委員で、実現に向けた具体案を検討していく。	第11回教務委員会記録_審議事項11		
16	定期試験の時間割発表日	第1クォーターの定期試験と就職試験との時期が重なりやすいことへの対応として、定期試験時間割発表日を早められないかの検討を継続している。2019年度は、第1クォーターの授業期間が長くなっていることから、1日早めることができています。	1日ではあるが改善されたと考えます。	A		各回の教務委員会記録		
17	定期試験の運営1	各学期の定期試験の実施要項提出がそろった段階で、参照物を指定した科目を教務委員会を確認し、参照物の指定方法が十分でないものを抽出し、該当の担当教員には、学生への適切な周知を依頼する文書を個別に配付することを継続した。	結果、2017年度に続いて今年度も、参照物の判断に関連した問題は起こらなかった。	A		各回の教務委員会記録		
18	定期試験の運営2	第4クォーターの定期試験においてスマートフォンを用いた組織的な不正があったが、学生部と連携して対応を検討中である。	参照物の指定方法、監督担当などの運営などの見直しが必要である。	B	学生委員会と連携して、案を考えることから始める。第3クォーターの定期試験には反映できるようにしたい。			

		委員会/事務組織等名称	教務委員会	氏名	佐々木 克巳	
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。 【A】 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【B】 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】 軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
19	授業の方法の誤記について	シラバス等における、授業の方法、時間数、単位数に関する誤記が起こらないような対応が求められている。	シラバス等における、授業の方法、時間数、単位数に関する誤記が起こらないような対応が求められている。	B	・シラバス作成依頼時に、授業の方法、時間数、単位数の関係に注意して、授業の方法を記載するよう案内する。 ・シラバス作成依頼時までに、シラバス作成案内の英語版の授業の方法の部分を見直す。 ・2019年度の早い段階で、海外実習科目においては、改めて時間数を確認する。 ・2019年度の早い段階で、学外授業については、計画書に時間数を明記するよう運用を変更する。 ・実態が演習であるが、科目名が「…実習」であるものは、2020年度（または2021年度から）科目名を「…実習演習」と変更する。	
20	2021年度～2024年度の計画	2021年度の理工学部改組に向けて2021年度～2024年度の計画を立てる時期が来ている。	2021年度の理工学部改組に向けて2021年度～2024年度の計画を立てる必要がある。	B	6月の事前相談後に、その結果をもとに進めることになる。	

		委員会/事務組織等名称	全学カリキュラム委員会	氏名	吉田 竹也		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
					「効果が上がっている事項」を記述してください。	「改善すべき事項」を記述してください。	
1	共通教育科目の開設および編成	第1回委員会ならびに第3回委員会において、2018年度の共通教育科目の登録状況を確認した。	本委員会において、毎年、初回登録抽選漏れ状況を委員に示し、特に抽選漏れが多く発生した科目はクラス数や定員等の再検討を依頼している。また、可能な限り授業定員を上回る収容人数の教室を割り当てることで、教室定員の都合上発生する抽選漏れを防ぎ、学生が履修を希望する授業に登録できるよう努めている。その結果、全学向け科目において2018年度は初回登録の抽選漏れが前年度よりおよそ13%（819名）減少し、66科目5,249名であった。	A	2019年度は改修工事が概ね終了したため、教室割当にやや柔軟性が増す。これを生かし、教室定員による制約を緩和し、抽選漏れ人数の減少を目指す。また、抽選漏れ人数や履修登録状況に応じて、教室変更を行い、履修希望者が可能な限り履修できる環境を整える。		第1回全学カリキュラム委員会_協議資料1 第3回全学カリキュラム委員会_協議資料1
2	共通教育科目の担当・委嘱状況	第2回委員会において、全学向け科目の担当状況を協議した。また、非常勤講師の委嘱状況を報告し、全学にて現状を把握した。	各学科等の全学向け科目提供数の基準合計（471コマ）に対し、実績は482.9コマであり、充足率は100%を超えている。また、共通教育科目における非常勤講師の委嘱率は、前年度と同程度に抑制できている。	B	充足率を示すだけでなく、不足するコマ数を明示するよう資料を改善する。そのうえで、基盤・学際科目等、各学科が提供できる科目を増やすよう、引き続き、本委員会より各開講主体に依頼する。		第2回全学カリキュラム委員会_協議資料1、報告資料1
3	共通教育科目と学部共通科目および学科科目との調整	第1回委員会において、2019年度の時間割編成に向け、コマ配置方針を確認し、了承した。第2回委員会において、教室割当の原則を示し、全学に理解を求めた。第1回および第3回委員会において、国際科目群に指定された科目の登録状況を説明し、今後、全学的に登録を増やすよう努めることを協議し、了承した。	クォーター制による科目の配置が確立されてきた。一層円滑な時間割編成のために、1年次と2年次の学部学科の必修科目配置の優先順位を上げる改善を加えたコマ配置方針を全学的な組織で確認できた。「設備の使いやすさの要望には、応えられない場合がある。」「教室配置の細かい要望には、応えられない場合がある。」ことについて、昨年度より具体例を多く示した資料を作成した。教室の要望があった際に、この資料に基づき、教務課員が授業担当教員に教室割当の原則を説明することにより、理解を得られるケースが増えてきている。	B	国際科目群の履修者が特に減少した外国語学部に対し、2019年度の時間割編成において異なる曜日時間に配置するなど、学生が履修しやすいよう配慮を求めた。また、今後は短期留学プログラムを含む、留学前後の学生に対する周知を強化するとともに、南山大学国際化ビジョンの達成に向け、国際科目群の科目数を増やすよう開講主体に引き続きの協力を求めていく。		第1回全学カリキュラム委員会_報告資料10、協議資料2、協議資料3 第3回全学カリキュラム委員会_協議資料2

		委員会/事務組織等名称	共通教育委員会	氏名	佐々木 克巳		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
					「効果が上がっている事項」を記述してください。	「改善すべき事項」を記述してください。	
1	図書費計画的利用	<p>基盤・学際科目科目の分野で、電子書籍を選書し購入した。100万円程度の有効利用ができたと考えているが、一方で、他の分野での利用が減っていること、学生数の関係で当初予算が増額されたこと、次年度持ち越しがでなくなったことなどから、結果として残額は増えてしまった。</p>	<p>電子書籍の選書・購入を行い、この意味では図書費の有効利用ができていた。</p>	B		<p>年度はじめの共通教育委員会で、全学的な方針の変更に対応した図書費の利用計画を提案し、検討をはじめた。</p>	
2	委員会の計画・方針の確認	<p>第1回の委員会において、委員会の日程、および、前年度の自己点検・評価報告書に基づき、2019年度の方針を確認した。</p>	<p>委員会で方針を確認することにより、委員会を円滑に運営することができた。</p>	A			<p>第1回共通教育委員会記録報告事項2</p>
3	共通教育科目の登録者数、抽選漏れの確認	<p>2018年度の状況を委員会で確認した。</p>	<p>極端な抽選漏れ等が起きていないか、適切な教室が割り当てられているか等の確認ができていた。</p>	A			<p>第2回、第5回共通教育委員会記録報告事項1</p>
4	共通教育科目の運営	<p>代講、外部講師招聘、時間制変更、担当者変更、授業計画変更、科目等履修生の受入を、それぞれの理由や学生への影響を確認した上で行った。</p>	<p>適切な運営ができていたかの確認ができていた。</p>	A			<p>各回の共通教育委員会記録 各回の審議事項</p>

		委員会/事務組織等名称	共通教育委員会	氏名	佐々木 克巳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
5	次年度の共通教育科目の準備	時間割編成、非常勤講師の新規委嘱、学外授業計画、科目等履修生受入科目など、実質的な運営をする組織と連携し2018年度の準備を行った。	時間割編成等の全体像の確認ができています。	A		第4, 5, 6, 7, 8回の共通教育委員会記録 各回の審議事項		
6	科目の履修条件	全学的な方針に基づき、科目への履修条件を対応表の形で、履修要項やwebに記載した。	履修条件が、会議体で確認された上で、明確にされ、根拠がたどれる形で整理された。	A		2019年度履修要項30ページ		
7	国際産官学連携PBL科目の追加	「大学の世界展開力強化事業」に伴って、国際センターと連携し、国際産官学連携PBL科目を追加した。	新規科目と共通教育全体の枠組みとの整合性等を確認の上で、追加できている。	A		2019年度履修要項30ページ		
8	共通教育委員会規程の改正	組織の名称変更や新規科目追加に伴って、委員会規程も改正した。	状況に合わせて、適切な時期に改正ができている。ともなう、これまでの規程の表現等も見直されている。	A		3月11日大学評議会決定事項要約 ・第2条第1項第10号 ・第4条第2項 ・第4条、了解事項1.3.4		

		委員会/事務組織等名称	共通教育委員会		氏名	佐々木 克巳		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重微な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
9	(1) 前年度「点検・評価改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。 ※必要に応じて行を増やしてください。	南山大学と豊田工業科大学における単位互換協定に基づく聴講科目	この科目は、10年ほどそのままになっていたが、他の単位互換協定や科目等履修生の受入との整合性を踏まえ見直した。	現状にあった形での運営体制ができたと考え。	A			第8回の共通教育委員会記録審議事項6

		委員会/事務組織等名称	基盤・学際科目委員会	氏名	佐々木 克巳		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】並度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
1	委員会の計画・方針の確認	第1回の委員会において、委員会の日程、および、前年度の自己点検・評価報告書に基づく、2019年度の方針を確認した。	委員会の方針を確認することにより、委員会を円滑に運営することができた。	A			第1回基盤・学際科目委員会記録報告事項2
2	基盤・学際科目の登録者数、抽選漏れの確認	2018年度の状況を委員会で確認した。	極端な抽選漏れ等が起きていないか、適切な教室が割り当てられているか等の確認ができています。	A			第2,5回共通教育委員会記録審議事項1
3	次年度の基盤・学際科目の時間割編成	各回の委員会で、進捗を確認しながら、行った。	各委員会時での進捗や課題を全員で確認し、意見を出しながら進めることができた。	B		最初の担当依頼で、候補者の情報をきちんと確認することを行う。	各回の基盤・学際科目委員会記録第3回～第8回審議事項1
4	基盤・学際科目リーフレットの作成	2019年度用のリーフレットを作成し、新入生に配布した。	前年度までは、各科目のサブタイトルに空欄が目立っていたが、それらも改善に向かっていく。	A			2018年度基盤・学際科目案内（リーフレット）第4回審議事項2 第6回審議事項3 第7,8回審議事項2



		委員会・事務組織等名称	人間の尊厳科目委員会	氏名	松根 伸治			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
1	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	十分な科目数を提供できているか。また、学生の履修動向を把握し、開講状況について検証しているか。  2018年度は合計52科目を開講した。Q1:19科目、Q2:15科目、Q3:10科目、Q4:8科目。年間の履修者総数は約4,778名。上限の188名に達するクラスがある一方で、10名に満たない少人数クラスが4つあった(うち1つは国際科目群)。人間の尊厳科目委員会において、春学期と秋学期に各クラスの登録状況の一覧を確認し、開講状況の適切さについて検証している(1-1)。委員会で1クラスの定員設定188名についても検討したが、今すぐに定員を引き下げて受講人数を平均化する必要性は低いと判断している。	学生数に対して十分な科目数を確保できている(履修者総数/科目数=約92名)。2017年度から始めたコマ配置の基本方針もうまく機能している(1-2)。	特になし。	A	教務課、共通教育事務室の協力のもと、科目コーディネーター(委員長)が担当者、各学部と調整しながら、今後もバラエティに富んだ一定数の科目を継続的に開講できるよう時間割編成を進める。クラス定員に関しては、全体の状況を注視したうえで、必要に応じて委員会や担当者間で議論を続ける。	特になし。	1-1: 第1回委員会報告資料2-1、2-2、第2回委員会報告資料1 1-2: 第1回委員会報告資料5
2	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	科目に関連する図書購入を適切におこなっているか。  2018年度は共通教育図書費から科目に配分された図書費予算330,000円のうち、各担当教員からの要望にもとづいて140,918円を使用した。書店の協力を得て作成した分野ごとの関連書籍のリスト(新刊書を中心に159点)を科目担当教員に配布することで、各自ができるだけ注文を出しやすい体制を整えている。その結果、「人間の尊厳」科目に関連する図書館所蔵文献をある程度まで充実させることができた。	特になし。	科目に配分された図書費予算をさらに有効に使えるよう検討する必要がある。	B	特になし。	選書リストの作成と配布は今後も継続的におこないたい。書店が推薦する新刊書に加えて、人間の尊厳に関連する参考図書や古典についても委員会でも選書し、図書館所蔵のないものは体系的な購入計画を立て、関連書籍のいっそうの充実に努める。	第2回委員会報告資料2、人間の尊厳科目図書館購入書籍リスト
3	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	科目担当者のFD活動を定期的に実施しているか。  2月25日に科目担当者懇談会を開催し、今回は経験の長い教員に授業実践を紹介していただいた。講義で実際に配布したレジュメと課題シートを披露してもらい、具体的な授業の進め方や技法について学ぶと同時に、「人間の尊厳」科目のカリキュラム上の位置づけと特色についても有意義な意見交換をおこなった。	科目担当者懇談会で、次年度の開講予定科目の一覧(副題つき)を配布し、各クラスの授業テーマと全体の開講状況について情報共有することができた。	特になし。	A	科目担当者間の情報共有と授業改善をめざしてFD活動を継続する。その際、個別の授業法の工夫や学生の状態についての話題に加えて、科目群全体の理念を確認したり、共通教育のあり方について考えたりする機会をもてるよう配慮する。	特になし。	科目担当者懇談会配布物、同記録

		委員会/事務組織等名称	宗教教育委員会	氏名	井上 淳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>[B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	<p>2019年度以降の「宗教論」講演会開催計画の作成</p> <p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>2018年度は、クォーター制導入後初めての学長講演会を開催した。演題は「カトリック大学で学ぶ意味を考える」で、開催時期は、Q1:2018年5月23日(水)、Q2:2018年6月13日(水)、Q3:2018年10月3日(水)、Q4:2018年12月12日(水)、全て授業のない水曜日午後開催し、授業振替とした。</p> <p>クォーター制に変わったことにより指定コマ枠が増え、通常の授業時間との授業振替が学長とのスケジュール・予算の関係から困難であること、他授業との重複回避等により、各クォーターに1回の開催とした。</p> <p>また、参加受講生にはアンケートを配布し、講演会についての感想や今後の要望等を聞いた。</p> <p>全体で受講者の約8割程度の参加者があったが、中には他学科とのイベントの重複やTOIEC試験との重複で参加できない学生がいたり、日程設定に問題がある回もあった。</p>	<p>受講生アンケートを配布しているが、受講生からは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1年次にこのような講演会に参加出来なかった」</li> <li>・「学長から直接話が聞けて良かった」</li> <li>・「カトリック大学について知ることができて良かった」</li> <li>・「4年間の過ごし方の参考になる」</li> </ul> <p>等の感想があげられ、とても意味のある講演会であったと考える。</p> <p>根拠資料：受講生対象アンケート</p>	B	<p>引き続き学生にとって意味のある講演会になるよう、アンケートに記載された要望を確認しながら開催していく。</p> <p>今回日程の重複があったイベントの主催先に、日程の確認を行いつつ、講演会の開催日を決定していく。</p>	<p>根拠資料</p>		
2	<p>宗教科目(「宗教論」「キリスト教概論」)の円滑な授業運営</p> <p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>宗教教育委員会予算で新規図書とDVDを購入。</p> <p>学生に、より身近に「宗教」というものを感じてもらえるよう、キリスト教の世界観が背景にあり、映画にもなった書籍とそのDVDを購入し、各教員の努力のみならず、当委員会としても円滑で質の高い授業を行ってもらえるよう後押ししている。</p>	<p>特になし (年度末に購入したため、今年度内の検証が困難)</p>	A	<p>特になし</p>	<p>特になし</p>	<p>購入図書・DVD： ・ナルニア国物語 ・指輪物語</p>	
3	<p>降誕祭の開催</p> <p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>学生有志団体「降誕祭実行委員会」のメンバーを中心とし、企画・運営のすべてを学生が行うクリスマスイベントであり、宗教教育委員会が後援している。2018年度はクリスマス聖歌とクリスマスパーティーの二部構成で開催された。クリスマス聖歌は神音神学院大聖堂において南山学長、南山学園理事長、宗教教育委員会委員長の司式のもと執り行われ、降誕祭実行委員会委員長らによる感謝の祈り、管弦楽団による演奏、コーラス・ユビラータによる合唱、参加者全員によるキャンドルサービスなどが厳かな雰囲気の中で行われた。また、降誕祭開催に合わせ、キャンパス内に馬小屋とクリスマスツリーを設置したほか、メインストリートにイルミネーションの飾り付けも行う装飾を行った。</p>	<p>カトリック修道会を母体とする南山大学において、学生・教職員が全学的に参加できるクリスマスイベントとして認知されている。約20年間継続したことで地域住民にも浸透しつつあり、複数の学外者からの問い合わせや参加があった。これからのことから、当該事業を通じて、カトリック大学として南山大学を学内外にアピールできているだけでなく、学生や教職員と地域住民との交流の場としても活用されているといえる。また、学生・教職員には、聖書にあるキリスト誕生の一節(馬小屋)を再現することにより、カトリックに対する興味・知識を深めることに役立っている。</p>	<p>・プレゼン設置の時期について降誕祭に合わせ、適切な時期に設置を行う。</p> <p>2018年度設置：2018年11月20日(火)</p> <p>2018年度待降節：2018年12月2日(日)</p>	A	<p>2019年度も引き続き降誕祭開催に向けて後援を行っていく。</p>	<p>2019年度降誕祭に合わせたプレゼン設置を行うよう学生に指示をしていく。</p> <p>2019年度降誕節：2019年12月1日(日)</p>	

		委員会/事務組織等名称	宗教教育委員会	氏名	井上 淳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
4	宗教科目懇談会の開催	2019年2月25日（月）開催。参加者は10名であった。 宗教科目担当教員に、閲覧している過去の授業資料の更新や差し替えを促し、常に水準の高い授業を提供できるよう意識付けをしている。	より良い授業に向けての意見交換の場として有益である。 根拠資料：2018年度 宗教科目担当者懇談会 記録	特になし	A	特になし	特になし	
5	クリスマスカード送付	日本カトリック学校連合会加盟大学・短大の学長宛てに、宗教教育委員会委員長名でクリスマスカードを送付（2018年度送付実績：30枚）。	送付先の大学・短大からもクリスマスカードが届くようになり、交流が生まれている （2018年度実績：2枚）。	特になし	A	2019年度も引き続き送付を行っている。	特になし	

		委員会/事務組織等名称	博物館学芸員養成課程委員会		氏名	石原 美奈子		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	クォーター制導入により、学芸員養成課程科目と人類文化学科の必修科目が時間割上重複するケースが見られた。そのために資格取得を目指す学生が、卒業までに必要な科目を履修できずに、学芸員の資格を取得できないケースも報告されている。実際、本年9月に「アゴラ」で、学芸員養成課程科目の開講曜日時限が人類文化学科の必修科目のそれと重複しているので改善策を求めるとする要請があった。	博物館学芸員養成課程科目委員会の委員長は人類文化学科長が兼任しているため、次年度の博物館学芸員養成課程科目と人類文化学科科目の開講予定曜日時限を把握できる立場にある。そのため、資格取得希望者の多数の資格取得が困難になるような重複が発生した場合には、事前に科目担当者に移動をお願いすることはできる。	とくになし	A	博物館学芸員養成課程科目履修者の大半が人類文化学科生なので、引き続き、人類文化学科長（＝博物館学芸員養成課程委員会委員長）を介して学科との連携をはかりながら、次年度の開講科目の曜日時限の調整を行うこととする。	とくになし	2018年度シラバス
2	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2017年度を最後に、博物館担当教員は人類文化学科の演習担当から外れた。学芸員養成課程科目と博物館担当教員の演習科目は、高度な専門性を求められる学芸員となるには欠かせない大学院への進学に導く両輪となっていたが、博物館担当教員が演習をもたなくなると、大学院進学率の低下（ひいては学芸員になる可能性の低下）につながる可能性がある。	博物館担当教員は人類文化学科の演習担当から外れたことにより、博物館学芸員養成課程科目、および博物館自体の運営に専念できるようになった。	とくになし	A	今後も、人類文化学科に博物館を利用した授業の開講を推奨することで、博物館の活発な利用と、学芸員養成課程科目履修者確保につなげたい。	とくになし	2018年度シラバス

		委員会/事務組織等名称	教職センター委員会		氏名	宇田 光		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			「効果が上がっている事項」を記述してください。	「改善すべき事項」を記述してください。		「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。	「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。	
1	教職課程履修者数の維持・改善	教職課程履修者数は、ここ数年は前年度並みあるいは漸減の状態推移している。	教職課程履修者数は、景気の動向など外部的な要因によって左右されるものである。昨今の教職をめぐる状況から、今後も容易に履修者数を増やすことはできないと考えられる。むしろ履修者の資質向上と教員免許状取得の達成を目標として、努力していく。幸い、教職センターの利用者数は、着実に増加を続けている。是非とも教員になろうと努力を続ける学生は、少なくない(根拠資料 第9回教職センター会議記録)。	B	教職センター内部の努力で改善できる余地もある。たとえば、ガイダンスでの説明内容の険しさを強調し過ぎていた面がある。「念のために免許状を取得しておこう」との安易な姿勢では困ること、教職への道は厳しいことを、繰り返して話してきた。しかし今後は、教職のやりがいなど魅力を伝える努力もより積極的にしていく必要がある。同時に、履修者へのきめ細かい指導によって、真剣に教員になろうという思いを育てていきたい。	第9回教職センター会議記録		

2018年度自己点検・評価報告書 「委員会・事務組織等」

様式3

		委員会/事務組織等名称	司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会		氏名	宇田 光		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、期待が寄せられた水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる改善が求められる。 [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
1	学生の学力やモチベーションを高める工夫  (1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	文章力等は特にそうだが、学生の学力低下が懸念されている。このような状況で効果的な教育を行っていくために、学生に自らの学習状況や理解度を把握させることが必要となっている。また同時に、課程履修のモチベーションを高める工夫も必要となっている。	学生用の履修カルテ（ポートフォリオ）を作成した。このことにより、学生が現在の課程の履修状況を自ら把握できるようになった。 また、専任教員が担当する司書課程の講義では数回の小テストを実施した。実施後には詳しい解説を行うことで、学習内容の定着を図ると共に、理解度の自己確認に役立てるようにした。 2018年度は7月と11月にそれぞれ、図書館情報学を専門とする研究者を外部講師に招き、司書課程主催の講演会を実施している。特に司書課程の講義や演習の振替措置はとっていないが、課程履修者の多くが参加していた。	学生の学力やモチベーションを高める工夫については、課程を担当する教員全体で引き続き努力を重ねていく必要がある。	B	履修カルテを年度始めのガイダンスの参加者に配布することで、学修状況の把握を全員ができるようにする。 司書課程主催の講演会については、2018年度は研究者を外部講師として招いたが、2019年度は図書館員も外部講師とする予定である。これにより、司書という職業を意識させて、さらに司書課程を受講するモチベーションアップにつなげる。	第1回司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会記録 第2回司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会記録	
2	司書課程・学校図書館司書教諭課程の履修指導における工夫  (1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2019年3月に司書の資格を取得した者の数は昨年度比3名減少し47名、学校図書館司書教諭の資格を取得した者の数は昨年度比3名減少し4名である。なお、2018年4月に司書課程に登録した者の数は昨年度比6名減少し104名、学校図書館司書教諭課程に登録した者の数は昨年度比6名減少し8名であった。	学年初めの司書課程・学校図書館司書教諭課程ガイダンス等を通じて、履修希望者にそれぞれの課程の概要を周知し、積極的に資格取得を考えるよう指導している。課程の履修者数は、司書課程・学校図書館司書教諭課程ともに、ほぼ例年なみの水準を維持している。	司書課程の選択科目は開講科目の中から2科目を修得する必要があるが、2単位の科目を1つ修得しただけで資格取得の要件を満たすと思いをしている学生が一定程度見受けられた。このような学生を従来より少なくしていく必要がある。	A	司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会の構成委員が、司書課程の講演会があるときには担当講師等で学生に周知する。これにより、2年次以降の司書課程の受講者の掘り起こしに繋げていく。	学年初めの司書課程・学校図書館司書教諭課程ガイダンスでは、司書資格の取得要件（特に選択科目）について丁寧に説明する。また、2018年に新たに作成した履修カルテでも記述しておく。	第1回司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会記録 第2回司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会記録

		委員会/事務組織等名称	外国語教育センター委員会	氏名	花木 亨			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	授業	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>共通教育の英語、初習外国語、日本語に関する科目、および外国人留学生別科の科目を安定的に提供した。開講科目の設定、時間割編成、担当者の割り当て、シラバス作成、履修登録、休講・補講・代講の手続き、定期試験、成績報告、授業評価など、授業運営に関する一連の手続きを行った。(1-1)</p>	<p>特になし。</p>	A	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>1-1 「外国語教育センター委員会記録」「共通教育委員会記録」</p>
2	人事	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>以下の人事を行った。(2-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育部門の上級語学講師1名と語学講師4名の任期を更新した。</li> <li>・英語教育部門の語学講師2名を任用した。</li> <li>・初習外国語教育部門の上級語学講師1名と語学講師4名の任期を更新した。</li> <li>・初習外国語教育部門の語学講師1名を任用した。</li> <li>・外国人留学生別科の語学講師2名の任期を更新した。</li> <li>・外国人留学生別科の語学講師2名を任用した。</li> <li>・各部門において、非常勤講師の委嘱を安定的に行った。</li> </ul>	<p>英語教育部門において、年度末に退職を願い出た語学講師がおり、その後任人事が間に合わなかった。</p>	A	<p>特になし。</p>	<p>2019年度中に2020年度に向けた語学講師の任用人事を進める。</p>	<p>2-1 「外国語教育センター委員会記録」</p>
3	FD	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>各部門において、以下のFD研修会を開催した。その内容はどれも外国語教育に直接的に関わる実践的なものだった。(3-1)</p> <p>【英語教育部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD Session (2018年9月14日、2019年2月1日実施)</li> <li>・Nanzan Language Education Seminar (2018年12月1日実施)</li> </ul> <p>【初習外国語教育部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD研修会 (2018年7月24日、2019年1月22日実施)</li> </ul> <p>【外国人留学生別科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育担当者FD研修会 (2018年5月7日実施、2018年9月3日実施)</li> </ul> <p>それ以外にも、定例ミーティングなどにおいて、小規模なFD活動を日常的に行った。</p>	<p>外国語教育センターでは、活発なFD活動が行われている。また、授業運営についての課題や問題を日常的に教員同士で共有し、改善策や解決策を話し合う風土がある。外国語科目の特徴として、少人数クラスで対話的な授業運営がなされている。</p>	<p>特になし。</p>	A	<p>特になし。</p>	<p>3-1 「外国語教育センター委員会記録」「外国語教育センターFD活動報告」</p>

		委員会/事務組織等名称	外国語教育センター委員会	氏名	花木 亨			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			点検・評価	自己評定		点検・評価	自己評定	
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
4	図書と視聴覚資料	外国語教育に関する図書と視聴覚資料を購入した。(4-1)	授業運営に必要な図書と視聴覚資料を確保できている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-1「外国語教育センター委員会記録」「共通教育図書費決算」「視聴覚資料(外国語部門)決算」
5	英語プレイズメントテスト	英語プレイズメントテストを実施し、適切なクラス分けを行った。(5-1)	英語プレイズメントテストの結果を踏まえて、適切なクラス分けができている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	5-1「外国語教育センター委員会記録」



		委員会/事務組織等名称	外国語教育センター委員会	氏名	花木 亨			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合には具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
6	TOEIC IP テスト	TOEIC IP テストを2回実施した。 (2018年6月13日、2018年11月7日実施) (6-1)	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	6-1「外国語教育センター委員会記録」
7	英語教育部門ハンドブック	英語教育部門において、共通教育英語科目を教える教員向けに「Foreign Language Education Center - English Education Division Handbook」を作成した。(7-1)	このハンドブックを配布、活用することにより、共通教育英語科目を教える教員たちに教務や授業運営についての基本的な情報を漏れなく伝えることができている。また、授業内容、シラバス作成、成績評価、教材などについての方針を統一することができている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	7-1「Foreign Language Education Center - English Education Division Handbook」

		委員会/事務組織等名称	外国語教育センター委員会	氏名	花木 亨			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
8	南山大学外国人留学生別科紀要	『南山大学外国人留学生別科紀要』を発行した (8-1)	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	8-1「南山大学外国人留学生別科紀要」
9	ワールドプラザ	ワールドプラザを安定的に運営した。(9-1)	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	9-1「外国語教育センター委員会記録」

		委員会/事務組織等名称	大学院教務委員会	氏名	佐々木 克巳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	委員会の目的と管掌事項、2018年度の計画の確認	第1回の委員会において、委員会の目的と管掌事項を規程で確認し、資料に基づき1年間の計画を確認した。	・委員会での目的と管掌事項、計画を確認することにより、委員会を円滑に運営することができた。	A			第1回大学院教務委員会記録_確認事項3, 4, 5	
2	複数指導体制	例年通り、各研究科からの案を確認・承認した。	複数指導体制を全学的な組織である大学院教務委員会で確認し、適切な体制での運用に繋げている。	A			第1, 3回大学院教務委員会記録_審議事項1	
3	大学院授業日予定表(教育ファシリテーション、法務、法学)、休日開講科目	各研究科からの案を確認・承認した。	通常の授業日と異なる開講について、事前に確認することで、トラブル等が起きにくい体制を維持できている。	A			第4回大学院教務委員会記録_審議事項1, 2 2月22日締切大学院教務委員会メール審議資料	

		委員会/事務組織等名称	大学院教務委員会	氏名	佐々木 克巳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策		根拠資料	
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
4	履修要項の改正	国際地域文化研究科、総合政策研究科の案を確認し、承認した。	各研究科のカリキュラムについて、全学的な組織である大学院教務委員会で確認し、適切なカリキュラム改正に繋げている。	A			第3回大学院教務委員会記録_審議事項2,3 第4回大学院教務委員会記録_審議事項3	
5	履修要項等の制定	法学研究科の案を確認・承認した。	各研究科のカリキュラムについて、全学的な組織である大学院教務委員会で確認し、履修要項の適切な制定に繋げている。	A			第4回大学院教務委員会記録_審議事項4	
6	定期試験期間の補講等の実施について	定期試験期間でも一定の条件のもとで補講等を実施できるよう、「定期試験期間の大学院科目補講等の実施に関する取扱要項」を制定した。	クォーター制のもとでも補講日を確保しやすくなった。	A			2018年6月12日 大学評議会_審議事項10	

		委員会/事務組織等名称	大学院教務委員会	氏名	佐々木 克巳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】顕微的な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
7	年度末の定期試験期間の最終試験実施について	定期試験期間でも一定の条件のもとで最終試験を実施できるよう、「年度末の定期試験期間における大学院最終試験実施に関する取扱要項」を制定した。	クォーター制のもとでも最終試験実施日を確保しやすくなった。	A	定期試験期間での最終試験実施の申請日が第3クォーター末日であるが、この期日が適切かどうかを確認する。		2018年6月26日 大学評議会_審議事項26	
	(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。							

		委員会/事務組織等名称	就職委員会	氏名	中村 和彦		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
					自己評定	将来に向けた発展方策	
1	職業指導の充実	<p>3年生向け第1回就職ガイダンスの開催を5月に実施していたが、2018年度より4月開催に変更した。早い時期から就職活動のスケジュール、流れを周知することに努めている。また、3年次に夏のインターンシップに参加する学生が増加したため、インターンシップの選考に対応できるよう、これまで秋学期に実施していた就職講座（筆記試験、自己理解・自己PR、業界・職種研究、企業研究）を5月から実施した。秋学期には春学期と同じ講座を内容を掘り下げて行った。</p>	<p>南山生の就職活動実態調査の回答によるとキャリア支援室の行事で役立つものについて、就職ガイダンス：2017年度28.93%→2018年度36.19%に増えた。 また、最終的な進路先とした企業（団体）の満足度は、2018年度：95.25%と高い。</p>	<p>3年生向けのスタート面談を実施しているが、利用者が少ない。スタート面談：10月から12月に実施。事前予約制で就職に関するどんな相談でも可。（スタート面談件数：2018年度243件、2017年度221件）</p>	【B】	<p>就職活動の環境変化、学生のニーズに応じた支援プログラムを検討し、実施する。</p> <p>2019年度はスタート面談の参加者を300件を目標にする。3月に入ったからすぐにエントリーシートを提出できるように、12月までに南山様式履歴書を完成させるよう、引き続きガイダンスで学生に周知する。 キャリア支援委員を通じて教員からゼミの学生へキャリア支援室利用について周知を依頼する。（3年生の12月までに）</p>	学生アンケート
2	職業指導に関する広報活動	<p>キャリア支援室主催のガイダンス、講座を学生へ周知し、参加率を向上させるためにPORTAを利用するほか、ミニチラシを作成しキャリア支援室入口、ラーニングコモンズ入口付近にラックを設置した。 2019年1月よりキャリア支援室利用講習会を実施している。</p>	<p>2019年1月から実施した利用講習会は3回実施した。</p>	<p>PORTAのお知らせを見ていない学生が多い。 就職に関する情報はPORTAで提供することを引き続き、ガイダンスで周知する。</p>	【B】	<p>2019年度は対象学生の8割が就職ガイダンスに参加することを目標とする。 就職講座の参加率を昨年度より1割増を目標とする。 利用講習会についてキャリア支援委員を通じ、教員に周知する。</p> <p>3年生5月までにゼミで就職講座のチラシを配布する。</p>	
3	進路把握率	<p>2018年度学長方針：就職率100%を目指す。 就職率（就職内定率） 2017年度98.46%2018年度97.69% 進路把握率 2017年度99.42%2018年度99.39%</p>	<p>就職率100%を目指し進路把握率の向上のため、3月の卒業確定発表、ガウン貸出会場に向き進路届未提出者に提出を促した。 2019年度は把握率100%、就職率100%を目指す。</p>	<p>進路届を提出する必要性を学生に伝える機会を設けておらず、提出を拒否する学生がいる。（2名） 精神的な配慮から進路届の提出を依頼することが難しい学生がいる。（1名）</p>	【B】	<p>学生がPORTAをよく利用する期間（定期試験時間割発表、成績発表）に進路届提出を促すお知らせを送信する。 3年次の就職ガイダンス、就職講座で内定が出たら2018年度より早い時期に推奨求人PORTAに掲載する。その際に提出の意図も伝える。</p> <p>進路届提出の根拠となる「学生等の職業紹介業務運営規程」に基づき、就職率・進路把握率が、大学にとって重要な資料となることを説明する。</p>	内定率

		委員会/事務組織等名称	キャリアサポート委員会	氏名	中村 和彦			
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
No.	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態あり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態あり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	インターンシップ研修の充実  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	インターンシップに対する学生の興味・意識が高く、共通教育の授業として開講しているキャリア科目「インターンシップ研修Ⅰ」は水曜日3限に設定されている1単位の科目にも関わらず、2018年度もQ2登録時は定員200名に対し抽選が実施された。「インターンシップ研修Ⅰ」単位取得後に履修する「インターンシップ研修Ⅱ」では様々な業界・職種で5日間以上（25時間以上）の実習と事後研修を行っている。実習では受入機関での実際の業務体験の他、課題解決や提案のプロセス体験、グループワークを通してビジネスの現場を学ぶ内容が組まれており、業界や企業を知る上でよい機会となっている。このことは実習に参加した学生のアンケート結果からも顕著である。	キャリア教育の実施に向けた大学との協働の一環として、長期インターンシップに取り組む企業の拡大が見られる反面、1Dayまたは3日間程度の短期インターンシップがトレンドとなっていることは否めない。本学の「インターンシップ研修Ⅱ」受入機関も2017年度の79機関から2018年度の66機関へ減少しているが、これは近年受入れ実績のない機関を整理したこと、多くの機関で5日間以上の研修を実施しなくなっていること、学生自らによる受入機関開拓がなかったことなどに起因している。こうした状況下でも研修先の業種・職種は広いバリエーションが維持できており、参加した学生の満足度（4.7/5.0）は高い。アンケートや事後報告などから相当に充実したプログラムとなっていることは明確である。	1Dayなど短期のインターンシップが主流になりつつある中で、インターンシップの今後あるべき姿も検討課題としたい。 現在は会社説明会的な1DayインターンシップについてもPORTA等で情報を提供しているが、昨今はその件数も急増し事務的な負担ともなっている。学生に開示すべきインターンシップ情報であるか否かを判断する基準を設けることも検討したい。	【B】	広い業種・職種から厳選された受入機関との協働をもって、履修生の種々のニーズに応えるインターンシップ研修を実施したい。5月22日の履修説明会までには一定の受入機関数を確保し学生に供したい。	1Dayインターンシップ参加者に対して、授業に出席することが最優先であることを確認しているが、これ以上の対応は現在の就職活動環境では難しいと思われる。	履修登録
2	キャリアサポートプログラムに関する広報活動  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	低年次生のキャリア意識向上を計るべく、Q1・Q2期間はテーマを細かく絞らず大きな視点で捉えられるキャリアサポートプログラムを実施した。また、Q3・Q4ではテーマ別・業界別のプログラムを中心に構成し、学生が自身のキャリアに対して具体的なイメージを持っている内容で運営した。 こうしたキャリア支援室主催のプログラムを学生へ案内し参加率を向上させるためにPORTAを利用する以外に、ミニチラシを作成しキャリア支援室入口、ラーニングコモンズ入口付近にラックを設置した。 キャリアサポート委員の協力も仰ぎ、それぞれの学部・学科での基礎演習、ベーシック演習など低年次生が多く履修している授業でのミニチラシ配布も試みた。	既存の掲出場所以外に新たにQ棟各階やR棟多文化交流ラウンジにもポスターを掲示し、ビジュアル的にも学生が関心を寄せられるように努めた。 2018年10月から新たに学生生活デザイン・セミナーをランチタイムに実施し、計2回で352名の参加者があり、配布物や掲示物による告知の効果が認められた。 また、プログラムに参加した学生からのアンケート結果からは行事を通して様々な気づきがあったことが伺える。参加学生にとっては進路を意識するきっかけとなる機会になっており、今年度も継続して満足度の高いプログラムの開催に努めたい。	PORTAのお知らせを見ていない学生が多い。各種ガイダンスやセミナーでPORTAから積極的に情報収集するよう引き続き周知したい。	【B】	学生の満足度も高かったランチタイムの学生生活デザイン・セミナー（満足度4.35/5.00）について、2019年度は開催回数を前年度の2回から4回に増加したい。引き続きPORTAや配布物、掲示物等で事前の広報活動に努め、キャリア支援委員にも協力を求めたい。	5月のキャリア支援委員会開催時に年間スケジュールの確認を求め、必要に応じて都度ミニチラシなどの配布を委員に依頼する。	学生アンケート

		委員会/事務組織等名称	国際センター委員会		氏名	星野 昌裕		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
					改善すべき事項	改善すべき事項		
			<p>【1】「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>【2】記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>【3】到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>【4】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>【2】記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>【3】到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>【4】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態あり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態あり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>【1】「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>【2】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>【2】500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>【1】記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	多文化交流ラウンジの活性化	<p>2017年9月にR棟内に開設した多文化交流ラウンジは、使用言語を制限せず、自由に多文化交流を実現することを目的としている。開設後3年目となり、ますますの学生利用率アップが望まれる。</p>	<p>Nanzan International Ambassador (NIA) と呼ばれる学生スタッフによる様々なイベント開催により、一定の賑わいを見せている。</p> <p>2018年度のイベント開催数：10回。</p> <p>インターナショナルウィークの一企画として実施した、スウェーデンウィークでは、駐日スウェーデン大使館政治担当参事官による講演、IKEAとの連携、声楽家のスウェーデンクラシック鑑賞など様々な側面で外国文化に触れるイベントとなり、学生に大変好評であった。</p>	<p>国際交流の第一歩として、できるだけ多くの学生に利用参加を促したが、全学の学生が参加しているとは言いがたい。R棟は他の教室棟から離れているということもあるが、広報・周知を強化する必要がある。</p>	B	<p>好評であるインターナショナルウィークは、国際センター事務室事務職員および学生スタッフが取り上げる国・地域のニーズを調査し、毎年複数回の開催を実現する。</p>	<p>2019年度は、新入生に対し、早期の働きかけよう、広報冊子を作成し、ガイダンスで配布する。また、留学ガイダンス、留学生対象国際交流ミーティングなどの国際センターが主催する行事のたびに宣伝活動を行う。</p>	<p>・学内での国際交流イベントレポート http://office.nanzan-u.ac.jp/ncia/crossculture/events.html</p>
2	外国人留学生別科のさらなる発展	<p>交換留学生を中心に40年以上の歴史を誇る外国人留学生別科は、全世界的な日本語履修者の増減にあわせ、さらなる発展のためより魅力あるプログラムを展開する時期に来ている。</p>	<p>協定校の増加とともに、外国人留学生別科への出願者数が増えている。</p> <p>2019年サマープログラム出願者数：111名（前年比13%増）、2019年秋季学期出願者数：148名（前年比23%増）。</p>	<p>従来通り日本語専攻、副専攻の学生に加え、非専攻の学生にとっても留学先として魅力ある教育課程の設置を検討する必要がある。</p>	A	<p>より質の高い日本語教育を施す機関として、別科教員により、プログラムの発展に努める。また、未開拓の国・地域に協定校を作り、日本語学習者を取り込むよう、国際センター役職職員および事務職員が国際会議等で交渉にあたる。</p>	<p>副センター長（留学生教学担当）を中心とした別科改組のタスクフォースを設置し、検討を始める。設立50周年となる2025年には、新たなプログラムに学生を受け入れられるよう準備する。</p>	



		委員会/事務組織等名称	情報センター運営委員会	氏名	野呂 昌満			
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
No.		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。</p> <p>規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	BYOD環境整備	<p>1. 無線LAN環境整備 2018年度までに全教室における無線LAN環境整備が完了した。</p> <p>2. PC教室再編成 2018年度開始時点において、前年度の11教室(576台)から7教室(384台)にPC教室を再編成した(1-①)。</p> <p>3. ネットワークプリンタ配置 2018年度開始時点において、学内10か所に12台のネットワークプリンタを配置した(1-②)。</p> <p>4. 韓旋PCについて 2018年度新入生を対象に、南山大学推奨モデルPC(1種類)を韓旋した。最終的に、1,024台のPCを韓旋できた。</p>	<p>1. Wi-Fi利便性向上 ・校舎間跨りにおける再認証取り止め ・eduroamサービス開始</p> <p>2. PC教室利用率 11教室から7教室に減少しても、PC教室の利用率は、2017年度51%、2018年度50%とほぼ横ばいで推移した(1-③)。</p> <p>3. コピー機能について 従来のネットワークプリンタにはなかったコピー機能を付加したことにより、利用枚数が増えた。2017年度の293,000枚から2018年度は428,300枚となった(1-④)。</p> <p>4. PC韓旋状況 2019年度生を対象とした韓旋PCは、昨年度の1機種から3機種に増やした。また、1機種については色の選択も可能とした(1-⑤)。韓旋PC購入台数は933台(2019年4月30日現在(1-⑥))であるが、購入率(51.5%)は昨年度(52.2%)と比べてほぼ横ばいである。</p>	<p>BYODの実態が掴めていない。特に、学生のPC保有率を把握できていない。貸与PCと韓旋PCの合計値から、2018生のPC保有率は57.4%であると言えるが、学生自身が購入したPCの実態が不明である。全学生が大学にPCを持参できることを前提に、BYOD環境の整備を行っているが、実態を把握した上での適切な対応が求められる。</p>	A	<p>1. 全キャンパスにおける無線LAN整備 2019年度には、教員研究室を含む全キャンパスのWi-Fi化を完了する予定である。</p> <p>2. PC教室の整備計画策定 2019年度以降のPC教室整備計画に則り、2021年度までにはPC教室(除く、自習室)を廃止する予定である(1-⑦)。</p> <p>3. 全キャンパスへのネットワークプリンタ配備 BYODを推進するためには、印刷環境の整備も重要な要素である。このため、Ⅲ・Ⅳ期工事が終了する2019年度までには、キャンパス全体にネットワークプリンタを配備する予定である(1-⑧)。</p>	<p>学生アンケートを実施して、持参PC(含む韓旋PC)の実態を把握したい。(2019年度中)</p>	<p>1-①「PC教室変遷」 1-②「2018年度ネットワークプリンタ配置場所」 1-③「PC教室使用状況一覧」(2017-2018)」 1-④「ネットワークプリンタ利用実績」 1-⑤「2019韓旋PC案内」 1-⑥「2019年度韓旋PC購入状況」 1-⑦「プリンタの設置計画(2018-2022)」</p>
2	eラーニング環境整備	<p>eラーニングの動作基盤として、WebClassを採用している。サポートしている機能は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチデバイスサポート</li> <li>・資料公開</li> <li>・課題作成/採点</li> <li>・会議室</li> <li>・成績管理</li> <li>・出席管理</li> <li>・お知らせ機能</li> <li>・タイムライン</li> </ul>	<p>WebClassの機能だけでは、利用者の負担が大きいことから、以下のサービスを行っていた。</p> <p>【付加サービス内容】 PORTAの全履修者情報をWebClass上のメンバーにコピーする。ただし、WebClass上で個別にメンバーを追加する場合があるため、コピー前の一括削除は行っていない。このため、メンバーの削除は、各担当者に任せられている。</p>	<p>2018年度は、WebClass上で全開講クラスをコースとして一括作成した。メンバーについても、PORTA科目登録者を使用して一括登録した。しかしながら、実際にeラーニングとしてWebClassを利用した割合は、非常に低かった(8.3%(2-①))。</p>	B	<p>2019年度に向けて更に利便性を向上させるべく、2018年度末に対応を行い、教員が個別にWeb上で登録したメンバーを除いて、PORTAの履修データとWebClass上のメンバーが自動的に連携(追加/削除)できる準備を整えた。これにより、教員の手間が減り、利用しやすい環境が整った。今後、授業方法におけるeラーニングの採用可否は、各担当教員の判断に委ねることになるが、情報センターとしては、引き続きeラーニングの基盤整備、啓蒙活動に取り組んでいきたい。</p>	<p>WebClassの機能を利用して、対面授業の補佐的な役割を担うことが可能と考える。例えば、当日の配布資料をWebClass上に事前に置いておけば、配布する必要はなくなる。また、課題の提出もWebClass上で受け付けられ、教員が授業中に回収する手間も省くことができる。このような情報を教員に対して周知して、WebClassの利用率を上げていきたい。2019年度中にFD活動の一環として、WebClass利用講習会を開催したい。そして、WebClassの利用率を2020年度までに20%まで上げていきたい。</p>	<p>2-①「WebClass利用実績」</p>

		委員会/事務組織等名称	情報センター運営委員会	氏名	野呂 昌満		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
3	自主的な学習環境整備	<p>情報センターが主に所管しているラーニング・コモンズ（以下、LC）は、Q棟2階およびS棟3階に位置している。S棟3階のLCは2015年度から、Q棟2階LCは2017年度から運用を開始している。</p> <p>将来にわたって多様なニーズに対応できるよう、以下の2つの機能を兼ね備えた学修空間としている。</p> <p>①学びの拠点をつくる ②学びの中心をつくる</p> <p>Q棟における利用は、グループ学習よりも個人利用が目立つ。一方、S棟においては、グループ学習の利用が主流である。</p>	<p>Q棟2階LCの利用者数増加に資するために、以下の取組を2018年度から開始した。</p> <p>①WorkShop開催 週1回、Q棟2階LCにおいて、Word, Excel, PowerPointの講習会(3-①)を開催した。参加者数は、のべ1年間で204名であった。</p> <p>②ネットワークプリンタの設置 コピー機能を付加したネットワークプリンタを3台設置した。</p> <p>上記の取組およびLCの認知度アップが功を奏した結果、Q棟2階LCにおける年間利用者数は、38,733名となり、前年度比7,861名、率にして25%の増加となった(3-②)。</p>	特になし。	<p>2019年度に新たに、N棟/第2研究室棟におけるLC設置を計画している。以下のゾーニング(3-③)を検討している。</p> <p>① プライベートゾーン（私語禁止エリア） ② プライベートゾーン（会話可能エリア） ③ プレゼンテーションゾーン ④ グループ学習ゾーン ⑤ 屋外ゾーン</p> <p>上記の計画により、キャンパス全体にバランスよく自主的な学習環境を配置することができる。</p>	<p>① 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 ② 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>① 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 ② 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
4	AXIA整備	<p>2018年度には、以下のAXIA整備を行った。</p> <p>①Ⅲ・Ⅳ期計画 有線/無線LAN(G棟, J棟(B2F-2F), F棟, K棟, M棟) ②Ⅲ・Ⅳ期計画以外 ・有線/無線LAN(E棟) ・無線LAN(J棟(3F-8F)) ・有線/無線LAN(L棟:教室) ・無線LAN(L棟/体育センター/A棟:教室)</p> <p>上記工事により、全教室のWi-Fi化は完了した。</p>	<p>AXIA整備は、Ⅲ・Ⅳ期計画に則り順調に以下の作業を行った。</p> <p>①J棟からS棟への基幹ネットワーク移設 ②J棟用ネットワーク設備新設 ③全教室Wi-Fi化 ④院生研究室Wi-Fi化 ⑤教員研究室の一部Wi-Fi化 ⑥保守期限を過ぎた機器の交換 ⑦高速回線への対応</p>	特になし。	<p>Ⅲ・Ⅳ期計画関連のAXIA整備は、2019年度で完了する予定である。2019年度案件としては、N棟および第2研究室棟を残すだけとなっている。なお、AXIAは継続的に整備をしつつ、利用者のネットワーク環境を快適な状態に維持していかなければならない。そのため、2019年度以降についても、AXIA整備に関する計画を立案した(4-①)。今後は、本計画に則って、AXIA整備を実施していく予定である。</p>	特になし。	<p>4-①「AXIA中・長期事業計画書」</p>
5	情報教育運営	<p>「情報倫理」を2017年度より全学部の1年次生に対して必修科目として開講している。情報ネットワークの安全かつ有効な利用のために、コミュニケーション、プライバシー、著作権などのテーマを取り上げている。</p>	<p>「情報倫理」はメディア利用授業であり、各テーマについてeラーニングを行った上で対面授業に臨む授業計画となっている。対面授業では、グループディスカッションや発表を中心とするアクティブラーニング型の授業を少人数クラスで実施している。この授業形式は、知識を定着させ、日常生活における各自の態度や行動を考えさせる点で有効であり、日常生活と密接な関係がある情報倫理と親和性が高い。授業評価アンケート(5-①)の結果からも受講生が知識の習得や理解の深化に対して前向きに評価していることが確認できる。</p>	<p>対面授業におけるグループディスカッションと発表は、eラーニングで提出したレポートをベースとして行うようになっている。そのため、幅広いディスカッションと多様な発表が行われるには、グループにおけるレポート内容の多様性が重要である。しかし、グループ全員が同じ事例について調査してレポートに記述しているなど、期待される多様性が欠けておりディスカッションが広がっていないケースが見受けられた。</p>	<p>情報倫理は日常生活と密接なつながりがあるが、日常生活を取り巻く環境は日々変化を続けている。その中で、情報倫理に関して効果的なディスカッションや発表を行うためには、土台となる基礎的な知識に加え、技術の進化や社会の変化を知る必要がある。eラーニング教材や参考書の他に、補足資料や最新のニュースなどの提供を継続する。ディスカッションや発表の題材についても必要に応じて検討を加える。</p>	<p>5-①「2018年度授業アンケート集計報告」</p>	

		委員会/事務組織等名称	南山エクステンション・カレッジ委員会	氏名	佐々木 美裕		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
					「効果が上がっている事項」を記述してください。	「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。	
1	公開講座の講座構成、講座内容等の充実、受講者数の確保	<p>公開講座は、コミュニケーション部門、キャリアアップ部門、ライフサポート部門で構成しており、2018年度の講座開講数は、コミュニケーション部門春期15・秋期18、キャリアアップ部門春期8・秋期9、ライフサポート部門春期21・秋期18であった。</p> <p>2018年度春期において7講座、秋期において2講座を新規に開講した。</p>	<p>2017年度は年間の受講者数は1,910名であったが、2018年度は1,996名に増加した（いずれも延べ人数）。</p> <p>年間開講講座数も2017年度の146講座から2018年度は152講座に増加した。</p> <p>受講者数については、2019年度に年間延べ2,000名超を目指し、2020年度以降はこれを維持していく。</p>	B	<p>公開講座の年間受講者数2,000名を維持するための具体的な方策として、Webページでの魅力発信、新聞広告の効果的な活用、在学生の取り組み（学生向けの告知方法、説明会の開催など）に取り組んでいく。</p>	<p>受講者数の少ない講座の講師への働きかけ（講座の魅力アップ、パンフレットの記述の工夫等）を強化する。</p> <p>また、少しでも受講者数が増加するように、受講申込期間をできるだけ長く設定することを検討する。</p>	<p>2018年度春期公開講座受講者数一覧</p> <p>2018年度秋期受講者数一覧</p>
2	近隣自治体との連携による生涯学習ニーズへの対応（市民大学講座等の実施）	<p>地方自治体との連携により開催する市民大学講座等に、本学の専任教育職員を派遣して、次のように実施している。</p> <p>①春日井市（所管：文化スポーツ部文化・生涯学習課）「かすがい熟年大学」</p> <p>②大府市（所管：市民協働部協働推進生涯学習課）「おおぶアカデミー（大学等連携講座）」</p> <p>③瀬戸市（所管：大学コンソーシアムせと事務局）「カレッジ講座」</p> <p>2017年度は①は春日井市の希望と講師の都合が合わず実施を見送り、②③を実施した。2018年度は①を復活させ（2講座）、②③を実施した。</p> <p>2019年度は①で3講座、②③も継続実施の予定である。</p> <p>名古屋市教育委員会に対しては、毎年、公開講座の「後援名義」の使用を申請し許可されており、さらに、公開講演会を共催で開催している。</p>	<p>2018年度に各自治体との連携で開催した市民大学講座等（本学教員が担当した講座）への参加者数は次のとおりである。</p> <p>①「かすがい熟年大学」歴史コース144名、文学コース79名</p> <p>②「おおぶアカデミー」17名</p> <p>③「カレッジ講座」28名</p> <p>各連携講座への講師派遣は、①は2007年度から、②は2017年度から、③は2004年度から行っており、各自治体の講座担当者との連絡を密にして信頼関係を維持するよう努めている。</p> <p>継続して講師派遣の依頼があることは、本学が提供する講座内容に高い評価が得られているものととらえている。</p>	A	<p>左記の自治体の担当者との連絡を密にし、市民大学講座等を継続して開催することを通して、地域社会に本学の知的リソースを活かしていく。</p>	<p>特になし。</p>	<p>2018年度第1回委員会報告資料「2017年度学外講座について」</p> <p>2019年度第1回委員会資料「2018年度学外講座について」</p>

		委員会/事務組織等名称	図書館委員会	氏名	山田 望				
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料		
					改善すべき事項	改善すべき事項			
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[3] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	<p>現在の図書館の顕著な老朽化に伴う問題を解決するための対策</p> <p>(1) 前年度「＜点検・評価＞改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>老朽化に伴う問題を解決するための抜本的な対策を講じるには至っていない。</p> <p>今年度発生した施設に関するトラブルは、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館1階中央階段前の防火シャッターの故障（2018年9月10日）</li> <li>・図書館棟工事に伴う図書館B2保存庫内での粉塵および水滴の発生（2019年2月14日）</li> </ul>	<p>キャンパスの施設設備計画Ⅲ・Ⅳ期に基づき、2019年2月～3月にトイレ改修が行われた。</p>	<p>老朽化に伴う問題とその他の問題に対する早急な対策が求められる。</p>	C	<p>施設課の中・長期事業計画に基づき、2019年8月、故障により利用できなかった図書館内の空調機器（GHP、EHP）の一部が更新される予定である。</p>	<p>老朽化に伴う問題を解決するための抜本的な対策を講じる必要があることを、大学執行部へ訴えていく。ただし、二重投資とならない根本的かつ長期的な視野に立った整備が必要である。</p>	<p>2018年3月1日付「図書館整備ワーキング・グループ報告書」図書館内投書箱（あなたの声）No. 18-01 図書館内投書箱（あなたの声）No. 18-02</p>	
2	<p>狭隘化を解決するための対策</p> <p>(1) 前年度「＜点検・評価＞改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>2017年度より学外書庫を活用し、約26万冊の資料を学外書庫で保存している。また併せて、オープンアクセス（他大学のWebページや機関リポジトリ等で公開）されているタイトルの除籍を行うために、オープンアクセス状況調査を進めている。</p>	<p>学外書庫等の活用により空いた書架スペースを有効活用すべく書架構成の再検討を行った。資料の移動は、2019年度～2020年度に実施予定であり、これにより、収蔵スペースの有効活用と今後も必要な資料を継続的に収集することが可能となる。また、塵除けのない最上段への配架を避ける等、利用者にとって利用し易い配架が可能となる。</p>	<p>特記事項なし</p>	B	<p>特記事項なし</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>2018年度第6回図書館委員会資料（2019年3月13日開催）</p>	

		委員会/事務組織等名称	図書館委員会	氏名	山田 望			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
3	共通教育を担うセンターへの学部配分図書費の配分  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	共通教育を担当する教員が所属する各センター組織(外国語教育・教職・情報・体育教育・国際・保健)が立ち上がったが、センター所属教員に学部共通図書費が配分されず、学部所属教員との間に不均衡が生じた。	2019年度より、各センター所属教員に学部配分図書費が配分される配分方法へ変更した。また併せて、図書館委員会の委員構成に当該センターのうちから1名の教育職員を追加した。	特記事項なし	A	特記事項なし	2018年度第5回図書館委員会資料(2019年1月16日開催)  南大図書第18-152号「共通教育を担うセンターへの学部配分図書費の配分について(伺)」(副学長(総務・将来構想担当) 182314)	
4	延滞料制度の見直し  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2018年度は、貸出制限と督促の強化を図ったところ、資料を返却しない延滞者・延滞資料数は一定数存在するものの、長期延滞者および長期延滞資料数が、2017年度と比較して約30%減少していることを確認できた。 しかし、当該データは4月～12月で分析したものであり、1月～3月も同様の傾向が続くのか、また、卒業生の返却状況に変化がみられるのか把握することができないため、より正確なデータに基づき分析するために、延滞料制度の試行期間を、2019年1月～3月までのデータや卒業生の返却状況のデータが出揃うまで延長することとした。	2017年度より貸出制限と督促の強化を図ったところ、2018年4月～12月のデータにおいて、長期延滞者および長期延滞資料数が、2017年度と比較して約30%減少した。	資料を返却しない延滞者・延滞資料数は一定数存在している。	B	2018年度の長期延滞者、長期延滞資料数や卒業生の返却状況等を分析し、現在の貸出制限、督促の効果を検証する。そのうえで、2019年度の早い時期に分析結果ならびに必要なに応じて貸出制限・督促強化のための具体策を提示する。	資料を返却しない延滞者・延滞資料数は一定数存在することが想定されるため、一定の範囲内で収まるよう、継続して貸出制限・督促の効果を検証していく。	2019年2月14日開催大学協議会資料

2018年度自己点検・評価報告書 「委員会・事務組織等」

		委員会/事務組織等名称	自己点検・評価委員会	氏名	鳥島 義文	
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、期待感の高い状態にある 【A】良好な状態にあり、取り組むべき課題がある 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。
1	委員会の活動（自己点検・評価）	<p>南山大学自己点検・評価委員会は、2017年度の規程の改正をうけ、自己点検・評価に関する次の活動を行った。(1-1)</p> <p>①「2017年度自己点検・評価報告書」について、南山大学内部質保証推進委員会の提案による点検・評価方法を審議した。</p> <p>②「2017年度自己点検・評価報告書」点検・評価結果について、南山大学内部質保証推進委員会の確認内容について、審議した。(1-2)</p> <p>③「2018年度自己点検・評価報告書」について、南山大学内部質保証推進委員会の提案による様式を審議した。(1-3)</p> <p>④「2017年度自己点検・評価報告書」点検・評価結果に対する、学部等各組織のコメントを審議した。(1-4)</p> <p>⑤「南山大学内部質保証システム体系図」の制定、「内部質保証の方針」の改正について、南山大学内部質保証推進委員会の提案をうけ、審議していくこととした。(1-5)</p>	<p>①「2017年度自己点検・評価報告書」について、南山大学内部質保証推進委員会の提案を受け、各組織に対して「意見・指示」を提示し、それに対する「改善計画書」の提示を行う予定であったが、「コメント」を求めるにとどまった。</p>	B	<p>①「2018年度自己点検・評価報告書」への点検・評価方法については、南山大学内部質保証推進委員会の提案をもとに検討をする。</p>	<p>1-1. 第1回委員会記録 1-2. 第4回、第5回委員会記録 1-3. 第5回、第6回委員会記録 1-4. 第6回委員会記録 1-5. 第6回委員会記録</p>
2	委員会の活動（外部評価委員会）	<p>「南山大学自己点検・評価規程」第5条第6項に基づき、「南山大学外部評価規程」に従い外部評価委員会を開催した。(2-1)</p>	<p>「南山大学外部評価規程」に則り、『南山大学における「自己点検・評価活動の客観性・妥当性」および「内部質保証の有効性」』に関するテーマで外部評価委員会を実施した。また外部評価委員会委員から評価結果等の提言を受けることとした。</p>	A	<p>外部評価委員会から評価結果およびこれに対する改善策が提言される。この提言に基づき、必要に応じ改善を進める。</p>	<p>2-1. 第3～6回委員会記録</p>
3	委員会の活動（FD）	<p>南山大学FD委員会からの報告を受け、この委員会が次のことを報告している。</p> <p>①「学生による授業評価」の実施および実施報告について(3-1)</p> <p>②FD活動計画および実績報告について(3-2)</p> <p>③FD企画実施状況および全学FD企画について(3-3)</p> <p>④日常的授業参観にかかる報告(3-4)</p> <p>また次のことを審議している。</p> <p>⑤「学生による授業評価」一定基準以下科目への対応について(3-5)</p> <p>⑥「大学院生による授業評価」について(3-6)</p>	<p>⑤「学生による授業評価」が一定基準以下の科目について、この委員会にて報告され、委員である学部長を通じて改善方策報告書の提出を求めることで、該当科目の授業評価は概ね高くなった。</p>	A	<p>⑤「学生による授業評価」が一定基準以下の科目への対応については、効果が見られることから引き続き実施する。</p>	<p>3-1. 第1～3回委員会記録 3-2. 第1回委員会記録 3-3. 第3～5回委員会記録 3-4. 第1回委員会記録 3-5. 第1～3回委員会記録 3-6. 第1回委員会記録</p>

		委員会/事務組織等名称	内部質保証推進委員会	氏名	吉田 竹也			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策			
					根拠資料			
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸长させる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を。冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	委員会の役割	(1)前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2)上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	委員会を新設したことにより、各組織に対して内部質保証の取り組み計画の立案と計画に沿った活動、その活動内容の評価と評価結果に基づく改善という一連の取り組みの方向性を示すことで、内部質保証の実効性をより高めることができる。	本委員会と自己点検・評価委員会の役割割にやや不明瞭な部分がある。教育研究の内部質保証の実効性を確保するために全学的な観点から自己点検・評価を行う本委員会と、自己点検・評価に基づく改善活動など内部質保証を担う、親委員会である自己点検・評価委員会との間で、実態と名称にずれがあるといえる。また、内部質保証システムの体系図にも改良の余地がある(1-3)。	B	内部質保証の実効性をより高めるため、本委員会の意義や各組織からの自己点検・評価結果に基づく全学的観点からの自己点検・評価について委員会内部での議論を深化させる。その中で明らかとなった内部質保証の意義や自己点検・評価の有効性については各組織に対する説明会等を通じて共有することに努める。	本委員会と親委員会である自己点検・評価委員会の名称と実態等のずれについては、名称変更等を通じて各委員会の役割をより明確化する可能性について今後検討する。また、内部質保証システムの体系図についても改良を行い、自己点検・評価委員会へ提案していく。	1-1…「内部質保証推進委員会規程」 1-2…「2018年度南山大学外部評価委員会」のテーマおよび評価ポイントについて(2018年度外部評価委員会資料) 1-3…「南山大学内部質保証推進システム体系図について」(2018年度第4回内部質保証推進委員会資料)
2	委員会の活動	(1)前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2)上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	自己点検・評価活動や認証評価受審に向けた取り組みを中心とした活動を展開している(2-1)。学部・研究科から選出された委員と学長指名による委員とで構成されている(2-2)。	本委員会のもとにある大学認証評価用報告書WGの作業について十分に確認していく必要がある。	B	WGによる認証評価用点検報告書の作成においては、本委員会による各組織の点検・評価結果を十分に踏まえることが必要であるため、2019年度中に委員会においてWGの進捗を適宜共有し把握することに努める。	2-1…「2018年度第1回内部質保証推進委員会記録」(2018年度第2回内部質保証推進委員会資料) 2-2…「2018年度内部質保証推進委員会および開催日程について」(2018年度第1回内部質保証推進委員会資料)	
3	自己点検・評価報告書の様式	(1)前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2)上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2018年度の自己点検・評価報告書の様式については、学部・研究科、研究所・センターに関しては、大学基準協会の定める「大学基準」及び「点検・評価項目」と対応する項目を設定した。具体的には、学部・研究科については基準1「理念・目的」、基準4「教育課程・学習成果」など6基準、研究所・センターは基準3「教育研究組織」など4基準と対応する項目を設けた。さらに学部・研究科においては、「学長方針」において学部・研究科に検討を求めている重点課題の中から項目を設定した(3-1)。	(1)2017年度の自己点検・評価報告書の様式については、「確認すべき点」「評価できる点」「改善すべき点」などの評価指標が明確でないため、委員または担当グループにより評価のバラツキがあった。 (2)2018年度の自己点検・評価報告書の様式については、各学部・研究科に対して焦点を絞った説明を求めたため、各組織独自の観点から評価できる点または課題として説明すべき点の記述が困難となること懸念される。 (3)2018年度の自己点検・評価報告書の公開のあり方について検討する必要がある。	B	南山大学の「評価の観点」の内容については、状況の変化や前年度の各組織からの説明内容に応じて、毎年度見直ししていく必要がある。	(1)2018年度以降の自己点検・評価報告書の様式については、委員または担当グループ間でバラツキが生じないよう、「確認すべき点」「評価できる点」「改善すべき点」として掲げるべきポイント等を明確にする方向で検討する。 (2)南山大学の「評価の観点」として挙げられている点以外の事項については、各組織独自の観点から評価できる点または課題として説明すべき点を記述できる余地を様式の中に設けることを確定させる。 (3)2018年度の自己点検・評価報告書の公開のあり方を検討する。	3-1…「2018年度南山大学外部評価委員会のテーマおよび評価ポイントについて」(2018年度外部評価委員会資料) 3-2…「2018年度自己点検・評価報告書提出依頼について」(2018年度第4回内部質保証推進委員会資料)

		委員会/事務組織等名称	パッセ研究奨励金配分委員会		氏名	林 順子		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
1	①パッセ研究奨励金について、適切な審査体制を整備しているか。	パッセ研究奨励金配分委員会は、委員長および委員として各学部の選出した評議員1名をもって構成しており、各学部の意見を満遍なく反映できている。また、委員会は原則年3回行っているが、必要があれば臨時委員会を開催している。2018年度は、パッセ研究奨励金I-A-1の審査手続き等の改正や学術研究振興資金の審査手続きの制定およびパッセ研究奨励金I-Aの予算増額にかかる審議を行うため、全6回(持ち回り審議含む)委員会を開催した。	パッセ研究奨励金I-A-1の審査方法について、委員と申請者間に利害関係がある場合の対応を委員会で審議した。当初は利害関係の確認方法として、委員から申請者との利害関係を申告する手順で作成したが、最終的には、申請者から事前に利害関係にある委員を申告させ、申告された委員は、当該申請の審査を行わないよう審査手続きを改正した。(①-1) この改正によって、より公平な審査体制を整備した。	A	利害関係の確認手順に関して、より公正な審査ができるよう長期的な視点で検証していく。	パッセ研究奨励金I-Aの申請書について、2020年度パッセ研究奨励金I-A申請時期までに、当該年度の科研費の計画調書を準備することを委員会で審議する。	①-1:2018年度パッセ研究奨励金配分委員会(臨時-3)審議資料1「パッセ研究奨励金I-A-1(特定研究助成・特別)の審査手続等の改正について」	
2	②パッセ研究奨励金について、適切な配分を行っているか。	パッセ研究奨励金の円滑・適切な配分を図るという委員会の役割は適切に果たされていると判断する。2018年度は、2名がパッセI-A-1に、95名(うち初申請者10名、科研費等採択者46名、科研費等不採択者39名)がパッセI-A-2に、30名がパッセII-Bにそれぞれ採択された。また、パッセ研究奨励金I-A-2について、科研費補助金等不採択者(研究代表者)および科研費補助金等採択者(研究分担者)が該当する区分c.の配分額が100千円以下となったが、区分c.への配分は、本学教員の研究活動や公的資金・外部資金の獲得へのモチベーションを維持向上することに対して重要な意味合いを有しているため、予算を1,330千円増額し、区分c.に100千円配分した。	語学講師や特別任用教員に対するパッセ研究奨励金の配分について、配分方針に教員の雇用等に関する規程または雇用契約書によること追記し、適切かつ明瞭な配分を行っている。また、新任用教員および科研費補助金等申請者の増加等により、2017年度から2018年度にかけて、パッセ研究奨励金I-A-2の予算を増額補正していたため、過去の申請状況から2019年度の申請者数を予測し、本委員会にて審議した結果、2019年度よりパッセ研究奨励金I-A-2の予算を1,030千円増額し、21,400千円とした。(②-1)	A	パッセ研究奨励金I-A-2の予算について、2019年度の申請状況を鑑み、適宜予算を補正する。	パッセ研究奨励金I-Bの配分方針について、適切な表現および運用上必要な文言を追記することを、2019年度中に委員会で審議する。	②-1:2018年度パッセ研究奨励金配分委員会(臨時-3)審議資料4「パッセ研究奨励金I-A-2(特定研究助成・一般)の予算増額について」	



		委員会/事務組織等名称	FD委員会	氏名	三浦 英俊			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
					「効果が上がっている事項」を記述してください。	「改善すべき事項」を記述してください。		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】軽度な問題があり、根本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	「学生による授業評価」アンケート回答率の低下  二学期制時の回答率とクォーター制導入後の回答率を比較すると、以下のとおり低下している。これは授業アンケート実施回数が年2回から4回に増えたこと、およびマークシート使用からWebアンケートへと方法を変更したこと等が要因として考えられるが、回答率を向上させるために、学生にはPORTAを通してアンケート回答をこまめに依頼し、教員には授業中のアンケート実施アナウンスを徹底するよう依頼した。結果として、二学期制の時ほど回答率は高くないが、おおむね安定している。また、授業評価結果をより分かりやすく提示するために、「学生による授業評価」まとめ冊子の目次を中心に、簡潔且つ読みやすいよう変更してWebページを通して提示した。 【二学期制・マークシートアンケート】 2015春：66.81% 2015秋：61.04% 2016春：65.28% 2016秋：61.20% 【クォーター制・Webアンケート】 2017年度：Q1_62.44% Q2_47.37% Q3_44.49% Q4_41.94% 2018年度：Q1_50.16% Q2_46.51% Q3_44.33% Q4_42.15%	改善すべき事項として、引き続き「学生による授業評価」アンケート回答率の低下が挙げられる。学生の回答を促す仕組みとして、①PORTAを通して学生にアンケート回答をこまめに依頼する、②教員に授業中のアンケート実施アナウンスを徹底するよう依頼する、③「学生による授業評価」まとめ冊子の目次を中心に簡潔且つ読みやすいよう変更し、Webページに掲載する、という3点を実施したが、回答率は上昇しなかった。 しかしながら、「現状の説明」に記載の2017年度、2018年度の回答率を比較するとおおむね安定した回答率となっていることから、上昇しなかったが、ある一定の効果はあったものと考えられる。	【C】	到達目標：回答率の上昇  2019年度に向けた改善方策として、以下の3点を実施する（①②は継続）。 ①PORTAを通して学生にアンケート回答をこまめに依頼する。→FD委員会事務局（教育・研究支援事務局）にてPORTAの学生お知らせへ掲載。 ②教員に授業中のアンケート実施アナウンスを徹底するよう依頼する。→PORTAの教員お知らせへ掲載、およびFD委員会で各FD委員へ教授会等での声かけを依頼。 ③学生に改めて授業評価の重要性（どのように学生に還元されるのか）を説明し、回答への協力を仰ぐ。→FD委員会事務局（教育・研究支援事務局）にてPORTAの学生お知らせ掲載。			
2	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2017年度の活動を通じた課題として、2018年度は「学生による授業評価」アンケート実施回数増加に伴い、教員や学生への負担が増えたことに対して、FD委員会事務局にてアンケート実施回数を減らした場合のメリット・デメリットを洗い出し、FD委員会委員長に報告をした。この報告をもとに、2019年度以降、教員および学生への負担を軽減するための新たな「学生による授業評価」の仕組みを検討・構築する予定である。	「学生による授業評価」アンケート実施回数を減らした場合の、メリット・デメリットを洗い出すことを、2018年度に向けた改善方策としていたが、メリット・デメリットの洗い出しは完了した。主なメリット・デメリットは以下のとおり。 【メリット】 ●実施回数が減るため、教員および学生への負担が減る。 【デメリット】 ●Q1とQ2、Q3とQ4にまとめて年2回の実施とするが、授業評価科目選出を実施するQ1およびQ3では、Q2とQ4の受講者数が確定していないため、結果として・受講者5名未満の科目を選出する・5名以上の科目を選出から外す可能性がある。	【A】	到達目標：「学生による授業評価」の新たな仕組みを検討・構築する。  2019年度に向け、洗い出したメリット・デメリットを元に、「学生による授業評価」実施スケジュール、科目選出方法、授業評価報告書スケジュールを具体的に検討し、教員や学生への負担を軽減するための新たな仕組みを構築する。→FD委員長・FD委員会事務局（教育・研究支援事務局）にて原案を作成し、FD委員会・自己点検・評価委員会で審議。2020年度からの運用を目指す。			

		委員会/事務組織等名称	FD委員会	氏名	三浦 英俊		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
3	「学生による授業評価」自己点検・評価報告書の提出率上昇	<p>2017年度および2018年度の「学生による授業評価」自己点検・評価報告書において、報告書入力締切日翌日の提出率は以下のとおり。</p> <p>2017年度 Q1：38% Q2：39% Q3：41% Q4：38% 2018年度 Q1：32% Q2：35% Q3：37% Q4：29%</p> <p>提出締切後、FD委員会事務局（教育・研究支援事務局）から2回、学部長から2回～3回督促を依頼し、報告書の提出を依頼するが、大体すべての報告書が提出されるまでに、2ヶ月～4ヶ月程かかる（報告書入力締切日翌日から）。</p>	<p>改善すべき事項として、「学生による授業評価」自己点検・評価報告書入力リマインド時の教員の対応から、スケジュールを把握していない教員が多いことが挙げられる。スケジュールは授業評価実施期間も含め、①各教員のメールアドレスへ紙面にて案内を配付、②PORTAにて案内を掲載・再掲しているが、①は報告書入力1ヶ月前の配付でタイムラグがあること、②は教員によってPORTAの確認にばらつきがあることがスケジュールが浸透しない要因であると考えられる。</p>	【C】	<p>到達目標：「学生による授業評価」自己点検・評価報告書の提出率上昇</p> <p>2019年度に向けた改善方策として、以下の2点を実施する。 ①『「学生による授業評価」実施について（ご案内）』にPORTAに案内を掲載するため、必ず確認していたくよう一文を追加。→FD委員会事務局（教育・研究支援事務局）にて一文追加、FD委員会にて審議、自己点検・評価委員会にて報告。 ②専任教員は報告書入力を教授会等で依頼する。→FD委員会で、各FD委員に声かけを依頼。</p>		

		委員会/事務組織等名称	研究審査委員会	氏名	阪本 俊生		
No.		<p><b>点検・評価項目名</b></p> <p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p>	<p><b>現状の説明</b></p> <p>[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p><b>点検・評価</b></p> <p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p><b>自己評定</b></p> <p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p><b>将来に向けた発展方策</b></p> <p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p><b>根拠資料</b></p> <p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	1	<p><b>倫理審査の効率化</b></p> <p>2018年度は倫理審査103件の申請を受け付け、審査を行った。倫理審査の受付件数は年々増加の傾向にあり、2016年度は77件、2017年度は95件の審査を行っている。</p> <p>このため、倫理審査の効率化を目指して2017年度末に着手された申請書類の書式変更に伴う審議を、2018年度も引き続き行った。主な審議項目は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理審査申請書の書式変更</li> <li>・研究計画書の廃止（倫理審査申請書への統合）</li> <li>・「南山大学『人を対象とする研究』倫理ガイドライン」の改正</li> </ul> <p>である。</p> <p>2018年9月中旬に、書式変更についての学内説明会を開催し、2018年10月1日より新書式による審査の運用を開始した。</p>	<p>申請書の新書式においては、倫理審査で必ずチェックしなければならぬ下記の事項を記入欄として設けた。</p> <p>【設定した主な記入項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究方法（質問紙調査、インタビューなどから選択）</li> <li>・収集するデータの種類（調査用紙、音声データなどから選択）</li> <li>・調査対象者の属性と予定人数</li> <li>・調査対象者の募集方法</li> <li>・研究結果の公表方法等</li> <li>・外部公表予定の有無（有無を選択）</li> <li>・承諾書の取得の有無（有無を選択）</li> <li>・データの保存期間及び廃棄時期</li> <li>・データの保管場所</li> <li>・保管時におけるデータの匿名化の有無（有無を選択）</li> <li>・データの廃棄方法</li> </ul> <p>従来は、上記の事項が記入されていない申請が多く、委員の指摘の手間も多かった。しかし、新書式導入後は、申請書式の指示に従って上記の事項が漏れなく記入されているため、形式的な指摘が大幅に減少している。</p> <p>また、申請者側の負担軽減効果もあり、初めての申請者（特に学生）でも申請書の指示に従えば記入ができるようになってきている。</p>	<p>①新しい倫理審査申請書においては、記入・選択すべき事項を詳細に設定したため、申請者がどのように記入・選択してよいか判断に迷うケースも見受けられる。</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「（ ）その他（ ）」という項目において、冒頭の（ ）内のみ○をつけ、具体的な内容が書かれていない。</li> <li>・「『収集するデータの種類』において、『調査用紙・聞き取りメモ・文字起こしデータ』という項目が一つにまとめられているが、そのうちの更にどれであるかどうかを明示しなくてよいのか」という意見があった。</li> </ul> <p>②倫理審査申請書については、従来よりも詳細な記入項目を設定するというかたちで改善策を施すことができたが、他の提出書類である説明書（研究対象者向けのもの）、および同意書については書式変更を行っていない。特に、説明書については、「作成上の注意」はあるものの、任意書式であり、初めて作成する申請者にとっては、どのように作成したらよいのかわからない、という声もある。</p>	<p>新しい申請書において、曖昧な説明となっている箇所を洗い出し、より記入・審査のしやすい倫理申請書を目指す。</p> <p>時期としては、2019年秋頃までに委員からの意見聴取を行い、修正案を作成する。その後、修正案の審議を行い、2020年度初めまでには、改善点を申請書に反映できるようにする。</p>	<p>説明書についてもサンプルとなるものを作成する。</p> <p>説明書のサンプルについては、2019年夏までに委員会での審議開始、2019年秋頃の運用開始を目指す。</p>

		委員会/事務組織等名称	研究審査委員会	氏名	阪本 俊生		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料
					「効果が上がっている事項」を記述してください。	「改善すべき事項」を記述してください。	
2	外部資金受入審査および手続きの迅速化	<p>外部資金（受託研究・共同研究・奨学寄附金）の受け入れは本委員会の管掌事項である。従来は、外部資金の申込書類（申込書、契約書）を外部から受け取った後、月1回の委員会にて審議を行っていたため、申し込みから受け入れまでの時間が最長で1か月以上かかっていた。しかしながら、外部資金の受け入れについては、研究費の提供元である外部（企業・研究費配分機関等）の都合も勘案する必要があり、本委員会の手続きの迅速化は課題となっていた。</p> <p>このような状態を受け、2018年度末より、外部資金受入審査については、原則メール審議での対応とした。ただし、メール審議には約1週間の時間をとるため、研究申し込みから委員会開催日まで1週間を切っている場合には、従来どおり委員会での審議とする。また、受け入れに疑義があると思われる等、委員会審議が望ましいと思われるケースについても従来どおりの審議とすることとした。</p>	<p>原則メール審議での受付とすることにより、外部からの受付後すぐに審議を行うことができるようになり、本委員会と並行して行われる学部教授会での審議の状況にもよるが、申し込みから受け入れまでの期間が半分以上短縮されている。</p> <p>従来：研究申し込み書類受付→研究審査委員会・学部教授会での審議（完了までに最長1か月間）→受け入れ学内決裁（約1週間）</p> <p>改善後：研究申し込み書類受付→研究審査委員会メール審議（1週間）・学部教授会での審議→受け入れ学内決裁（約1週間）</p>	S	「受け入れに疑義があると思われる等、委員会審議が望ましいと思われるケース」については、判断の誤りを防ぐべく、申込受付部署である本委員会事務局での書類確認を徹底することに継続して務める。	特になし	
3	外部資金受入審査の厳格化	<p>2018年度の外部資金受け入れ審議において、以下2点の対応を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究費の受け入れを伴わない、秘密保持契約のみの締結について一研究費の受け入れを伴わない契約の締結について、これまで本委員会にて審議を行った前例がなかった。しかしながら、「『研究』を扱うのは本委員会の管掌事項であり、また、他にこうした件を審議する委員会がない以上本委員会で審議すべき」ことを確認の上、審議・承認を行った。</li> <li>・受け入れにあたり慎重に判断する必要がある案件について、「南山大学利益相反マネジメント委員会」を別途立ち上げ、受け入れの可否について審議を委ねた。</li> </ul>	<p>外部資金の受け入れについて、本委員会での審議が適切かどうかを判断する必要があるケース、また受け入れに疑義があると思われるケースについて、柔軟な対応をとることができた。</p> <p>また、コンプライアンス室や執行部などの相談機関と密に連絡をとりながら対応を進めることができ、本委員会の独断で審議を行うことを防ぐことができた。</p>	A	引き続き、コンプライアンス室や執行部への報告・連絡・相談を密に行うものとする。	外部からの情報は引き続き重要な参考事項としつつ、提出書類の書式（特に「利益相反自己申告書」）についても再考の余地がある。については、2019年秋頃をめぐり、外部資金関係の書式変更について検討、および必要に応じて改善案を作成し、2019年度内に委員会審議、2020年春からの運用開始を目指す。	<p>外部資金（受託研究・共同研究・奨学寄附金）受け入れ書類一式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申込書</li> <li>・研究計画書</li> <li>・契約書</li> <li>・機密保持契約書</li> <li>・利益相反自己申告書</li> </ul>

		委員会/事務組織等名称	大学院委員会	氏名	鳥巢 義文			
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
		現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが最良な水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。</p> <p>規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	<p><b>入学者数の増加</b></p>	<p>2018年度末での定員充足率は博士前期・修士課程の収容定員266名に対し、在籍者数141名で充足53%、博士後期課程の収容定員84名に対し、在籍者数24名で充足率29%、専門職課程(法務)の収容定員60名に対し、在籍者数16名で充足率27%と全体で定員割れを起こしている。</p>	<p>定員充足率を上げ、定員数の学生を確保する。過去5年の5月1日現在在籍者数は2014年度[博士前期190、博士後期27、専門職97]、2015年度[博士前期 190、博士後期25、専門職73]、2016年度[博士前期161、博士後期27、専門職66]、2017年度[博士前期143、博士後期26、専門職36(ビジネス専攻最終)]、2018年度[博士前期144、博士後期24、専門職19]と、低下の傾向にある。文部科学省「学校基本調査」によると、全国的にも、大学院等への進学率は、平成22年度(平成22年3月)をピークに8年連続低下している状況にあるが、まずはこの低下傾向に歯止めをかけることを目標としたい。</p>	B	<p>定員割れの状況を改善するための方策や、大学院生の受け入れを強化するための方策について、各研究科および大学全体として引き続き検討する。具体的には、研究科・専攻の魅力や大学院奨学金などの学生補助をWebページ、大学説明会を中心に告知していくことが考えられる。</p>	<p>2014～2018年度5月1日現在在籍数(学生課作成)</p> <p>文部科学省「学校基本調査」</p>		
2	<p><b>広報活動の強化</b></p>	<p>大学院広報は大学院説明会を中心にしているが、それだけではなく、大学Webページ、研究科独自Webページをリニューアルし、対外的な情報発信を強化した。また、入試課と検討して南山大学大学院を紹介するポスターを作成し、学部生への周知を図った。</p>	<p>社会科学研究科、法務研究科独自のWebページがリニューアルされ、情報が見やすいページに構築された。</p>	B	<p>リニューアルがまだ行われていない研究科にも協力を依頼するとともに、広く一般に向けた大学院進学説明を兼ねた講演会を行う可能性などの新たな広報を大学院全体として検討していく。</p>	<p>社会科学研究科、法務研究科独自Webページ</p>		
3	<p><b>研究倫理教育</b></p>	<p>2018年9月17日、11月26日、2019年1月21日、2月25日開催の大学院委員会大学院委員会にて報告事項として取り上げ、各研究科の研究科長、専攻主任に大学院生未受講の現状を伝えている。会議の席上で各専攻から大学院生未受講者に受講するよう指導を依頼している。</p>	<p>2018年度の大学院生未受講者は2019年3月4日現在で該当者総数188名に対し、3名未受講者となっており、98%の受講となっている。</p>	A	<p>引き続き大学院委員会で随時受講状況を報告し、専攻主任を通じて大学院生未履修者に受講するよう促していく。</p>	<p>大学院委員会議事録</p> <p>研究倫理受講状況(2018年度)</p>		

		委員会/事務組織等名称	南山学会理事会	氏名	奥村 康行			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
1	研究会会の活性化	<p>2018年度より学外講演者謝礼費の補助を開始し、学外講演者の招聘する取り組みを行った。実績として、人文・自然科学系列の第1回(7/4)と第2回(1/11)研究会会において学外者による講演を開催した。</p>	<p>第1回研究会会参加者は、2017年度が7系列開催合計95名だったのに対し、2018年度は7系列開催合計108名となり、13名増加した。これは学生など非会員の参加者数の増加による。</p>	<p>一方、第2回例会の参加者数は、2017年度が5系列開催合計71名だったのに対し、2018年度4系列開催合計51名となり、20名減少した。これは会員および非会員ともに減少したことおよび第2回例会開催数が1系列減少したことによる。</p>	A	<p>学内での他講演会と日にちが重ならないよう日程調整をすること、および参加者の興味をひくような例会テーマを設定することとし、幅広く参加を呼びかける。</p>	<p>会員だけでなく非会員への広報の方法を検討する。併せて、引き続き可能な範囲で第2回研究会会の開催を各系列理事が中心となって進める。</p>	<p>南山学会理事会議事録2017年度(17-3、17-5)および同2018年度(18-4、18-6)</p>
2	必要に応じた繰越予算の有意義な使用	<p>繰越予算について、研究会会の学外講師謝礼費として使用した。</p>	<p>2018年度の次期繰越予算額は1,952,797円となり、昨年度から44,104円削減し、有効利用することができた。</p>	なし	A	<p>引き続き、研究会会の外部講師依頼を継続する。</p>	なし	

		委員会/事務組織等名称	事務部長会議	氏名	福田 尚登		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した本職にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>[B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
1	学内決定事項等の周知について	<p>事務部長会議は、原則評議会開催後の水曜日に開催し、2018年度は計18回（別にメール審議計11件）実施した。定期開催により、理事会、大学評議会および事務部長会議等会議体での決定事項等が大学のみならず学園内の構成員にPORTAを経由して、適時周知されている。</p>	<p>大学の運営状況等が適時公開されることにより、構成員、各部署等のより良い教育・研究諸活動に資する基本的な情報の元となっている。</p>	A	特になし。	特になし。	事務部長会議要領
2	大学事務部として取り組むべき課題についての検討	<p>第三・四期工事進捗に伴い、建物、教室等の改修、移転等が年度を通じて生じることとなり、新たに設置する学生セミナー室・学生ロッカーの運営等に関してワーキンググループに関係部長等が参画し、学内調整、確認が必要な事項については、関係部局と連携し、課室横断的に対応するための調整を行った。働き方改革関連法の改正（2019年4月1日施行）に伴う、職員の勤務管理方法の変更等を協議した。</p>	<p>学生セミナー室、学生ロッカーは、運用の基礎となる学生セミナー室・学生ロッカーの運用に関する規程、学生セミナー室、学生ロッカー利用上の注意を制定した。これに基づく、学部等による運用が2019年4月から順次始まることとなった。働き方改革関連法の改正に基づく、時間外労働の上限規制、年次有給休暇の確実な取得（時季指定）、年次有給休暇の付与月変更等、勤務管理方法変更を2019年4月から実施した。</p>	A	<p>大学事務部の業務遂行に係る法令制定、改正、文部科学省等当局からの通達等について全学的な対応、検討すべき内容については、関係部局と連携しながら、対処することとする。</p>	特になし。	
3	2017年度指摘事項対応について	<p>決裁ルートの見直しは、事務部長会議の検討課題として2018年度事務部長会議議題の中の備忘録にも表記し、検討を進める認識はあったが、抜本的な見直しが必要な状況であったこともあり、他の対応案件を優先してきた結果、後送りとなり、実質的な見直しまで至ることができなかった。大学事務部長会議がどのような役割を担うべきなのかについて、2018年度は実質的な議論を行うことができなかった。</p>	特になし。	C	<p>既存の決裁ルートの見直しをする際、起案決裁が用紙ベースから電子決裁へ変更されたことも考慮し、見直しに関する指針等を策定、明示した上で、具体的な作業を関係部署等が実施できるような環境・体制を整備することを検討する。大学事務部長会議の担うべき役割について検討する際、大学事務部長会議の機能等が規定されている事務部長会議要領の見直し等を視野に入れて、検討する。</p>	<p>事務部長会議構成員全員が、各事務部署での正確な業務遂行において決裁ルートの見直しが必要な要素となることを再認識したうえで、2019年度内の見直しに向け、総務部長を中心として決裁ルートの見直しを進める。</p>	事務部長会議要領

		委員会/事務組織等名称	学長室	氏名	郷司 直樹			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
					「改善すべき事項」を記述してください。	「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。		
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
1	正確な会議運営	<p>学長事務係が所管する会議について、資料の準備、記録作成など大きなミスもなく業務を遂行することができている。また、学長秘書業務についても、新学長のスケジュール管理を中心に的確にサポートできている。</p>	<p>学長事務係では、膨大な会議資料を作成する過程で、担当者の確かな学内調整、係内で情報共有を徹底することにより、大過なく会議運営を行うことができている。</p>	S	とくになし	とくになし	<p>「学長室業務マニュアル（会議・庶務・秘書業務）」</p> <p>「会議申請マニュアル」</p>	
2	学外関連団体との関連強化	<p>後援会、同窓会、友の会と連携し、イベントを企画・運営している。また、大学広報誌「フレティン」を年4回作成・発行している。</p>	<p>企画渉外係では、後援会定例評議員会、友の会評議員会・総会の準備から当日の運営まで滞りなく実施している。学長室の構成員が係を問わず、学外関連団体（同窓会、友の会、後援会）の総会行事等に、運営側として積極的に携わることにより、関係強化に取り組むことができている。</p> <p>連携を強化したことにより、後援会、同窓会から、人工芝整備、クラブハウス改修の援助として、多額の寄付をいただくことができた。2019年3月には体育会OB会と協力して、人工芝グラウンド完成記念セレモニーを開催している。</p>	S	とくになし	<p>2019年の目標として、新会長を迎えた同窓会との連携をさらに強化する。同窓会や卒業生との連携強化により、在学生のキャリア教育の充実や海外ネットワークの拡大に繋がるよう検討を開始する。</p>	とくになし	<p>「2018年度後援会定例評議員会」配布資料、「友の会評議員会・総会」配布資料、「人工芝グラウンド完成記念セレモニー式次第」</p>
3	効果的な戦略広報の策定	<p>広報戦略プロジェクトメンバーである複数業者のコンサルティングを参考に、年間計画を作成し、将来構想担当副学長を中心とし執行部による検討・了承を経て、起案・決裁で承認を得ることとする。2018年度の広報戦略については、議論を尽くすところまでには至っていないが、2018年3月に、コンサルティングに基づく提案について執行部間で意見交換を行う機会を設け、2018年4月5日開催学長室会議において了承し、起案・決裁での承認を得ている。</p>	<p>広報戦略プロジェクトの年間計画を執行部間で共有することにより、海外に向けた広報活動強化の必要性を認識し、各国の言語で書かれたリーフレットを作成し、海外向けの情報発信を強化した。</p>	B	<p>広報に関する教職員や担当課室（学長室、入試課、国際センター事務室）が一堂に会して、南山大学の情報をどうやって発信していくか、定期的に共有・議論する場を設ける。</p>	<p>戦略広報・広報活動企画の立案過程において、学長補佐を含めた執行部間でブレインストーミングの場を設け、広報戦略プロジェクトの年間計画に反映する。</p>	<p>「2019年度学長方針」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/position/index.html</p> <p>「Admissions Information &lt;English&gt; &lt;Chinese&gt; &lt;Vietnamese&gt;」 https://www.nanzan-u.ac.jp/English/admission/index.html</p>	



		委員会/事務組織等名称	総務部	氏名	三谷 靖司		
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
		[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。	[2] 500字以内で簡潔に記載してください。				
1	総務部業務の確実な実施	<p>将来構想に直結する業務として、理工学部の学科改組準備業務および教職課程再課程認定申請業務（主に総務課）、レーモンド・リノベーションプロジェクト関係業務（主に施設課・経理課）を遅滞なく実施した。また、各課の通常業務に加えて、勤怠管理システム導入業務（人事課）、学納金改定および支出削減計画策定小委員会業務（経理課・総務部長）総務部と法人事務局の統合検討（全課室・総務部長）などの新規業務についても確実に実施した。</p>	<p>例えば工事関係業務（施工管理、予算執行管理、学内外への周知）、申請関係業務（書類作成、人事情報収集、施設情報収集、資産情報収集）など、総務部内の各課が強く連携し、進める業務が多いが、各課が連携できる関係が醸成されており、その結果滞りなく業務が遂行できている。</p>	特になし	B	<p>部内会議の場や個々のコミュニケーションの場をさらに活用し、これまで以上に総務部内の連携を強める。</p>	<p>・文部科学省および日本開発構想研究所との相談資料等 ・教職課程再課程認定申請書 ・南山学園勤怠管理システムミーティング記録 ・学納金改定および支出削減計画策定小委員会記録 ・統合WGおよびサブWG記録</p>
2	超過勤務の削減	<p>総務部の2018年度の超過勤務時間数は、2017年度に比して△883時間減少した。</p>	<p>年度特有の業務の増減などの影響もあるだろうが、担当業務への習熟度の向上や業務の削減や合理化に向けた各課全員の努力により、超過勤務時間数の削減が実現できている。</p>	<p>毎年の繁忙期や年度特有の業務の増減に合わせた人員配置にはなっていないので、超過勤務をゼロにすることは現実的ではなく、ある程度許容可能な数値を明確にすることも難しい。超過勤務時間数は削減できているものの、例えば2016年度と比較しても、業務遂行を多くの超過勤務に依存している状況に変化はない。少なくとも36協定の特別条項に違反する職員が一人も出ないよう、各課長と協力して勤怠管理および必要に応じた業務調整を行う。</p>	C	<p>業務の削減や合理化がさらに進むよう指導を継続する。</p>	<p>・学園事務職員等人事委員会資料（単位別超過勤務状況表）</p>
3	総務部の結節点としての役割の強化	<p>総務部所属職員全員に対して、毎年度総務部の基本方針を文書で提示し、総務部が大学内の結節点としての役割を果たすことの重要性を強調し、要請している。また、その役割を果たす上で、それぞれの具体的な担当業務に臨むにあたっての基本的な考え方や望ましい行動を示している。</p>	<p>総務部の基本方針に踏まえた形で各課長が具体的な自課の業務目標等を設定しており、総務部全体として整合性のとれた業務遂行ができている。</p>	<p>文書の性格上、一定量に収め、特定の業務に依存しない書き方になっているために、内容が抽象的になる傾向がある。各課長にそれぞれ具体的な業務への適用と指導をお願いしているが、もう少し例示を増やすなど具体的にイメージしやすい内容を追加していきたい。</p>	B	<p>部内会議や日常的なコミュニケーションの場を通じて、その意識を醸成し、具体的な行動に繋げてもらう。</p>	<p>2018年度総務部基本方針</p>

		委員会/事務組織等名称	総務課	氏名	佐藤 淳			
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
No.	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	官公庁への申請・届出(法学研究科設置に伴う諸対応)	法学研究科博士前期・博士後期課程を2019年4月1日に開設するために、2017年度から設置認可申請に係る事務手続き等を法学部、執行部、日本開発構想研究所等関係各位と連携しながら、2018年3月に文部科学省へ認可申請書を提出した。その後、大学院設置に伴う審附行為変更の認可申請、認可に係る補正申請書の提出、申請書類等の文部科学省HPへの掲出するための対応、設置経費として計上した図書を購入手続き等、2018年度中に対応しなければならぬ事項に対して、法学部、執行部等関係部署と連携してながら対処した。	対応すべき事項に関して、期限までに文部科学省への申請、図書の購入等を行うことができた。 法学研究科法律学専攻博士前期課程・博士後期課程の2019年4月1日付で文部科学省より認可された。	申請書類に関して、限られた人員で、間違いのないように書類等を準備することを第一として事務処理を行う上で、想定以上に時間を要することも多く、結果として回答期限間の起案となることがほとんどであった。内容の適切性を担保するため、合議者および決裁者が起案内容を余裕を持って確認できる時間を保障することを考慮し、出来る限り計画的に稟議することとする。	A	特になし。	2019年度に理工学部改組(2021年4月予定)に伴う事務手続きを総務課が担当しているところである。関係部署(理工学部、教務課、施設課等)等と連携しながら、文部科学省への申請完了までの各種手続きに関するスケジュールを正確に作成し、申請書類等の起案の時期を明確にする。	南山大学事務分掌規程第8条第2項第2号(6)
2	官公庁への申請・届出(教職課程再課程認定審査)	教職課程のある大学は教員の免許状授与の所要資格を得るための課程認定(再課程認定)を受けることとなり、2017年度から教務課と連携して申請書類(学部、大学院)の準備等を始め、2018年4月に文部科学省へ申請書類を提出した。申請書類提出後も申請書に関する指摘事項に対する修正、課程認定委員会委員による審査に基づく指摘事項に対する修正等、教務課をはじめとする関係各位と確認、調整を図りながら、2018年11月まで対応した。	対応すべき事項に関して、期限までに文部科学省への申請等を行うことができた。 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)に規定する教員の免許状授与の所要資格を得させるための学部学科等(7学部)、大学院研究科専攻等(4研究科)の課程について2019年4月1日で適用することが、2019年1月25日付で文部科学省より認定された。	申請書類に関して、限られた人員で、間違いのないように書類等を準備することを第一として事務処理を行う上で、想定以上に時間を要することも多く、結果として回答期限間の起案となることがほとんどであった。内容の適切性を担保するため、合議者および決裁者が起案内容を余裕を持って確認できる時間を保障することを考慮し、出来る限り計画的に稟議することとする。	A	特になし。	教職課程再課程認定審査と異なり、教職課程に係る変更届はカリキュラム改正等に伴いほぼ毎年度文部科学省に届出している。届出書類等作成、稟議に関して、出来る限り計画的に事務手続き等を行う必要がある。	南山大学事務分掌規程第8条第2項第2号(5)

		委員会/事務組織等名称	総務課	氏名	佐藤 淳			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的な条数を、ウェブの場合はURLを必ず明示してください。
3	学内環境保全・整備	<p>第三・IV期工事の進捗に伴う、建物(K、M棟)等の改修、新たに整備することとなった学生セミナー室・学生ロッカーの2019年度からの稼働等、キャンパス内の教育研究活動環境が、年度を通して変更されることとなった。総務課所管の警備、清掃、テナント等に関して、業務委託業者との間で業務を遂行する上での変更・調整を行うとともに、学内行事の運営、施設貸出に際しての建物等を適時、見直し等を進めた。</p>	<p>建物改修に伴い、従前と異なる仕器類となるケースもあり、それに合わせて警備、清掃に関して仕様を一部変更することとなった。学生セミナー室・学生ロッカーの運用方法を検討するワーキンググループにおいて、総務課所管事項に関して、警備・清掃の現状等に言及するとともに、「学生セミナー室・学生ロッカーの運用に関する規程」、「学生セミナー室・学生ロッカー利用上の注意」の作成に関与し、運用開始の準備等に参画した。</p>	特になし。	B	<p>第三・IV期工事は2019年度も継続して、第2研究棟、N棟およびログセンターについて2019年9月までの予定で建物改修等が実施される。学生セミナー室・学生ロッカーは運用取扱いが制定されたが、例外的な対応の有無については、学生の利用が実際に開始されてから判明することもある。建物改修に関しては施設課と連携して、完成後の室内仕様等を確認した上で、適切なキャンパス管理となるように業務委託業者とともに保全・整備を進める。学生セミナー室・学生ロッカーに関しては学事課と連携して、取扱い原則と異なる利用に関して、例外対応時の事務フロー等を確立することとする。</p>	特になし。	<p>南山大学事務分掌規程第8条第2項第3号、第4号</p>
4	2017年度文書監査指摘事項対応状況について	<p>各指摘事項に関して、課内で対応を検討し、実行可能な取組みについては、順次進めている。</p>	<p>公文書管理に関して、公文書保管等を課室毎に変更したことにより、渡し漏れの確認作業が容易になった。決裁原本ファイルに起案台帳を必ずファイリングすることで、過去の起案の確認が容易になった。</p>	<p>2018年度に対応が不足している点、継続して検討している事項については2019年度以降も引き続き、改善の是非に関して検討を行うこととする。</p>	B	<p>特になし。</p>	<p>補助金申請に係る指摘事項、注意点に関して、各年度毎に必要な応じて記録しているが、経年で確認できる資料は作成されていない。補助金交付年度によって、一部取扱いが変更される場合もあるので注意を要する点もあるが、汎用的な事項に関しては、一覽で確認できると合理的であるため、検討を継続する。総務課内の文書保管に関して、オープン式の棚にファイル類を保管しているが、安全性、機密性を考慮し、扉のある棚への変更を予算措置等を含めて検討を継続する。</p>	<p>2017年度文書監査結果報告(2017年11月14日付)</p>

		委員会/事務組織等名称	人事課	氏名	祖父江 嘉洋			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料	
			点検・評価	自己評定				
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。 ※必要に応じて行を増やしてください。	1 勤怠管理にかかる業務見直し	2017年度にあった名古屋東労働基準監督署からの法人事務局への是正勧告および指導を踏まえ、割増賃金の基礎となる賃金の改正や勤務時間管理簿の導入が決定された。 2018年3月から勤務時間管理簿の運用を開始したが、これまで以上に毎月の勤怠報告に関する人事課での作業量が増大した。	勤怠管理システムの導入可能性の検討結果をまとめ、2018年5月30日事務職員等人事委員会にて承認された。	B	より客観的な就業情報の管理を目的として勤怠管理システムの導入を検討し、2018年9月19日事務職員等人事委員会にて承認された。 2019年1月よりプロジェクトチームにて導入作業を行っており2019年秋ごろに稼働を開始する予定である。	2019年秋ごろに勤怠管理システムを導入することで、専任事務職員および専任嘱託職員については、ほとんどチェック作業が無くなることが想定されている。	2018年5月30日事務職員等人事委員会議事録 2018年9月19日事務職員等人事委員会議事録
2	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。 ※必要に応じて行を増やしてください。	2 法人事務局と大学総務部の統合による組織変更	法人事務局と大学総務部の統合検討ワーキンググループで、管理部門(総務、人事、財務、施設)において、これまで法人部門と大学部門に分けられていた各管理系業務の有機的連携と効率的遂行を目的として、法人事務局と大学総務部の統合と組織変更についての検討を行った。	2018年10月末に人事サブワーキングの報告書を提出し、その後のヒアリングが実施されたが、最終的な報告が2018年度中には事務職員等人事委員会には提出されず作業を進めることができなかった。	B		2019年度に事務職員等人事委員会に統合検討ワーキンググループの報告書が提出され方針が決定した段階で、人事課と人事務室にて具体的な作業について検討を進め、定められた期日までに滞りなく作業が進められるように作業を行う。	2018年10月31日統合検討ワーキンググループ人事サブワーキング報告書

		委員会/事務組織等名称	経理課	氏名	岡島 茂則			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	業務の省力化に向けた取り組み	クォーター制導入により、学納金取納業務の業務量が増加傾向にある。また、選り退学制度廃止により、学納金未納による退学者の督促業務が新たに加わっている。このことから、課室全体の業務量削減が懸念事項となっている。	業務省力化の観点から、2018年度は切手・メイリングマシン等使用、および印刷機使用にかかる執行予算の振替に際し、関係部署と協議・連携し振替伝票起票数の削減を実現した。	2018年度に行ったような関係部署との連携により、省力化が可能な業務は他にも数多くあるように思われる。	A	各職員においては、常に業務改善の観点から業務に取り組み、省力化が可能と思われる項目を洗い出し、経理課内で検討を行う。	例えば教務課が行っている、証明書発行代金の切手納入については、取り扱い方法の改善により、教務課と経理課の双方において業務の省力化が可能となるように思われる。これについては両課で協議し検討を進めたい。	
2	組織統合に向けた資料の整理	2018年度中にワーキンググループにおいて検討を進めてきた財務事務室との組織統合に関して、統合（事務室の引越）に向け資料の整理等、準備を進めていく必要がある。	経理課保管の紙資料（主に伝票類）に関して、文書保存規程上の保存期間を経過した伝票を、毎年定期的に廃棄している。以前は保管場所である経理課の棚と学園講堂の倉庫が満杯になるほどであったが、近年の整理により資料は随分少なくなっている。	元帳等については2000年度以降のものが存在しており、整理が手つかずになっている。その他にも古い資料が経理課にいくつか保管されており、これらについて文書保存規程を照らし合わせた上で、廃棄可能かどうか判断する。	B	今後使用することが無いと思われる資料を廃止しなければ、引越し先の保管スペースが足りなくなる可能性があるため、今年度は伝票に加え経理課所有の全資料を対象に整理を進める。伝票廃棄は毎年6～7月頃に行っており、この廃棄のタイミングに合わせ整理を行う。	一部の古い資料についてはファイル内に保存期間が異なるものが混在しており、整理を進めて行くうえで注意が必要である。また、文書保存規程では保存期間を経過していた資料について、保存したことで問い合わせに対応できたケースも最近発生しているため、廃棄の判断については慎重に行いたい。加えて、経理課内での資料整理・廃棄に関してマニュアル化を進めたい。	

		委員会/事務組織等名称	施設課	氏名	友松 順一			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			点検・評価	自己評定				
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが最良な水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。 ※必要に応じて行を増やしてください。	1	施設・設備の保全は、施設課の主幹業務の一つである。個々の設備で突発的に発生する故障や不具合等は、学内全体においては、日常的に発生しており、それらについては、適宜修繕等を行っている。その一方、建物の外壁・屋上防水工事や、老朽化に伴う空調設備やエレベータなどの大型設備の更新など、これらの施設・設備の修繕や更新については、当該施設・設備の設置時等において、次回の修繕や更新時期が、おおよそ想定できることから、中・長期事業計画に基づき、実施している。また、臨時費の規模で行う修繕等についても、各々の申請内容に基づき、実施している。	承認された2018年度個別事業計画(2018年度個別事業計画書を参照)、および2018年度臨時費申請(2018年度予算 臨時費申請理由書を参照)共に、それらの計画や申請内容に基づき、契約等の学内での必要な手続き(決裁書を参照)を適切に経て、また当該目的予算内(2018年度部署別予算実績対比一覧表を参照)で計画通り実施できたことで、教育・研究環境の改善が図られた。	個別事業計画に基づく事業は、予算規模が大きく、例えば空調設備の更新の場合、様々な機器や部品、配管等が一体となった工事となるため、その内容に応じて予算計上すべき管理会計科目の設定も細くなる。補正予算作成時までに、適切な管理会計科目に予算計上できていないと、決算時に関係する管理会計科目において予算超過が発生する。法人予備費を使用しないことを目標にしていたが、申請が必要となった(法人予備費申請書を参照)。	A	関係部署等からの具体的な施設・設備の改善提案や要望等があれば、施設課員が真摯に耳を傾け、その重要性や緊急性を考慮し、専門業者も交え、その実現可能性を検討する。個別事業計画、および臨時費の所定の申請期限までに、1件でも多く要望等を反映した申請を行うことを目標とする。	当該工事の明細書に基づき管理会計科目の仕訳を担当する施設課員が、管理会計科目を設定する上で必要な勘定科目の知識を十分に習得し、また過去に処理された仕訳も参考にす。補正予算の申請期限までに、適切な管理会計科目に予算計上し、法人予備費を使用しないことを目標とする。	2018年度個別事業計画書 2018年度予算臨時費申請理由書 2018年度部署別予算実績対比一覧表 決裁書 法人予備費申請書

		委員会/事務組織等名称	学務部	氏名	児玉 和典			
	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料		
No.	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態あり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態あり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。 [1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
1	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。 ※必要に応じて行を増やしてください。	業務目標の設定と達成状況の評価	学長方針、大学事務部長方針の達成に資するべく、学務部としての目標を設定している。これに基づき各課室においても年間目標、方針を策定し、その達成のための業務遂行を目指している。	毎年度当初に学務部の年間目標を設定し、部内会議、課室内ミーティングにおいて共有している。また、これを元と各課室でも同様の目標を設定し周知徹底している。これらにより所属職員の認識、業務遂行における方向性を統一している。上位組織の目標を元にして下位組織が目標を設定しているため、大学としての方向性から外れることはないと考えられる。	前年度各課室の業務目標達成状況については、課室長の業務目標シート等を元にした面談で個々に評価しているが、部内会議等で部長・課室長間で共有する対応をしていない。	A	部全体の方向性を確認するために、各課室で設定している目標を部内会議等で共有する。 課室別目標の達成状況については、課室長との面談時に大まかに確認しているが、これを明確にするとともに、年度当初の部内会議において、達成状況と今後の取組について共有する。もちろん、課室間の優劣をつけることが目的ではなく、他課室の目標内容や達成状況を共有することにより、部内の協力体制を構築することにつなげていきたい。	学務部業務目標 部内会議記録
2	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。 ※必要に応じて行を増やしてください。	超過勤務の削減と業務の平準化	超過勤務については増減を繰り返していたが、2011年度あたりから事務システム開発に関連して教務課を中心に増加してきた。その後開発作業の終了とともに減少したが、2015年の理工学部移転、2017年のキャンパス統合とクォーター制導入により急増している。特に教務課、入試課の超過勤務が突出しており、この削減が課題である。関連して、課室内における個々の職員の担当業務量の平準化も目指している。	一部課室を除き、全体として超過勤務時間は減少している。また、適宜業務分担の見直しも行われており、所属職員間での業務不均衡も解消されつつある。合わせて、部内での協力体制も徐々に導入しており、繁忙期に他課室応援を依頼しやすい雰囲気も醸成している。	学務部内においては入試課、教務課の超過勤務時間が他課室に比べ圧倒的に多くなっている。 教務課はキャンパス統合やオーダー制の導入、入試課は学部設置による入試種別の増加やカトリック系高校入試制度改革等による業務量の増大、入試広報活動の拡大等が要因となっている。個々の業務分析、削減のための方策を課室長と検討しているが、両課室ともかなりの業務量を抱えており、課室レベルの判断による縮小が困難な業務も多く、実効性のある対応を見いだせていない。 また、これら課室の超過勤務削減のために、他課室との関連で業務移管等で対応可能かどうかの検討も十分とは言えない。	C	特定課室のみならず、全課室長と定期的に面談を実施し、業務の進捗や超過勤務時間の評価について話し合う機会を設ける。その際に業務分担についても合わせて検討し、下記3にある資質向上も考慮しつつ対応する。また、必要に応じて実際に即した事務組織変更の案を作成し、上部組織に提案する。また、関連業務で複数課室に跨るものがあれば、これらを適切に配分することによる超過勤務の削減を検討する。時期的には、超過勤務の多い課室が繁忙期となる前、かつ次年度の業務状況がある程度見通せる時期である年内を目処に繁忙期および次年度の削減目標を設定する予定である。	・課室超過時間一覧(前年度対比) ・課室業務分担表

		委員会/事務組織等名称	学務部	氏名	児玉 和典				
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
3	所属職員の資質向上	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>学務部業務目標の一つとして「職員の資質向上」を掲げ、担当業務の定期的な変更による業務処理能力の向上、外部セミナーの積極的活用による学校職員としての資質向上を目指している。</p>	<p>各課室において、業務に関連するセミナー、研修会等には積極的に職員を参加させている。また、業務分担も定期的に見直しており、所属職員全員の業務知識向上を図っている。</p>	<p>セミナー、研修会については、参加できる職員が限定される傾向がある。また、参加後の課室へのフィードバックについては十分とは言えず、参加者個人に留まっているケースも多い。</p>	A			学外セミナー参加状況
4	職員、業務の適正配置と組織体制の検討	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>キャンパス統合に伴う業務量と人員配置の問題について、必要に応じて組織変更を含めて検討する。</p>	<p>キャンパス統合時からの継続課題である。詳細な分析までには至っていないが各課室の業務状況、超過勤務状況から見る限り、特定課室を除き概ね適切と判断できる。</p>	<p>特定課室においては、キャンパス統合以降超過勤務が増加し続けており、その業務量に現在の人員では対応できていない可能性がある。合わせてこれら課室においては過去の処理ミスがいくつか発覚しており、これらの対応にも時間を費やしたため、超過勤務の増加とキャンパス統合の因果関係も分析できていない。</p>	C		<p>業務量の増加が続いている課室については、原因の詳細な分析を行い、業務の効率化や統廃合も検討する。さらに、担当業務や配置職員数のみならず、組織体制についても見直しを行い、課室が係の分割等、必要に応じて組織変更を提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課室超過時間一覧（前年度対比）</li> <li>・課室業務分担表</li> </ul>



		委員会/事務組織等名称	入試課	氏名	瀬尾 好広		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
1	10月試験の実施	<p>特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）の新規実施にあたって、試験日は、従来のAO入学審査【外国語学部】および国際教養学部特別選抜試験【AO入試型】と同じとし、学内では「10月試験」と位置付けて実施した。AO入学審査の志願者が102名（前年度は43名）と大幅に増加したため、10月試験の規模は約200名となった。試験室は、前年度、AO入学審査および国際教養学部特別選抜試験で使用したQ棟を中心に設定し、特別入学審査の実施に伴い不足する面接室および面接控室については、第三・IV期改修工事が終了し環境が整備されたH棟の教室（計12室）を使用した。（1-1）試験当日は、試験運営委員、入試課員、学生アルバイトにより運営した。（1-2）</p>	特になし	試験当日は、試験運営委員5名（委員長、副委員長2名、委員2名）、入試課員7名（入試課長、学部入試係4名、入試広報係2名）、学生アルバイト10名（学生入試広報スタッフ）により運営したが、やや人員が不足する状況であった。特に、面接の誘導においては、面接室がQ棟とH棟のふたつの建物の複数フロアに分かれたことにより、誘導担当者の配置が難しく、学生アルバイトの業務をコントロールする入試課員の負担も大きかった。（1-3）	B	最低限の人員による試験運営は、試験当日にトラブルが発生した場合の対応が難しい。また、2020年度入試では、10月試験の募集人員が増えるため、人員の配置に余裕を持たせる方策を検討する。特に面接誘導においては、入試課から出勤する職員を増やす、「11月試験」等での面接誘導の経験のある他課室の職員への業務分担の依頼を検討する等、試験運営体制の強化を図る。	1-1 試験室・面接室配置図 1-2 2019年度10月試験業務分担 1-3 2019年度10月試験シフト表
2	外国人留学生入学審査[EJU利用型]の新規実施	<p>渡日前入試として「日本留学試験（EJU）」および「英語の資格・検定試験」の得点を利用した「外国人留学生入学審査[EJU利用型]」を新規で実施した。要項の作成は2017年度から準備し、2018年4月から5月にかけて、各学科と出願書類の「学修計画書」に記載する項目や分量、小論文課題の提示方法（Webページに掲載）等の検討を行った。また、6月には、国際センター事務室と入試事務手続きの分担、流れの確認、JASSO奨学金にかかる事務フロー、日本語学校等の訪問や日本留学フェアでの入試広報について打合せを行った。10月の出願期間にむけて、7月より要項を配付（Webページに掲載）し、2名の志願者があり、合格者は2名という結果であった。</p>	要項の配付開始（7月）から出願期間（10月中旬）まで3カ月程しか確保できなかったが、初年度は2名の志願者があった。同時期に募集を行った「外国人留学生入学審査」（本学での受験が必要）の志願者は前年度と同数の16名であった。	特になし。	B	本学での受験が不要である渡日前入試であるが、実際は、日本国内の日本語学校等で大学進学のための準備をしている留学生のニーズが高いと思われるので、国際センター事務室の協力を得て、近隣の日本語学校への広報活動を実施し、2019年度（2020年度入試）では志願者をさらに増加させることを目標とする。入試課の現在の人員・体制を考慮し、訪問という形ではなく、入試要項等の送付や大学見学の受け入れ等の方法で広報を行う。	2-1 外国人留学生入学審査[EJU利用型]要項

		委員会/事務組織等名称	入試課	氏名	瀬尾 好広			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
No.		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>[B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。</p> <p>規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
3	2018年9月入学・2019年4月入学試験の実施	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>法務研究科はこれまで他研究科とは異なる入試日程を設定し、A棟で試験を実施していたが、春季試験とC日程（2019年2月）の初日が同日となったため、初めてS棟を試験会場として使用した。それに伴い試験本部や受付もS棟に集約したが、問題なく対応できた。（3-1）</p> <p>また、出願受付から合格発表後まで使用するEUCシステムを新たに作り、情報入力や帳票出力の画面を一元化した。（3-2）</p>	<p>春季試験と法務研究科C日程が同日になったことにより、試験室と受験者の数が増加したが、試験室対応や面接誘導を担当する院生アルバイトを十分確保できなかった。結果的に夏季試験より人数が少なくなったため、本部・連絡員とも人員配置が手薄になる時間帯が発生し、試験監督者のうち1名が試験室を離れ、本部へ連絡票を持参しなければならなくなった（当該試験室は監督者2名体制のため問題は生じなかった）。</p>	特になし。	<p>1名で監督業務を行う試験室があることを前提に、複数名の連絡員を廊下に配置できるよう、院生アルバイトの確保に努める。院生アルバイトが確保できない場合は、入試課から出勤する職員を増やす、他課室の職員への業務分担の依頼を検討する等、試験運営体制の強化を図る。</p>	<p>3-1 南山大学大学院 入学試験（審査）【春季・法務C】試験室案内</p> <p>3-2 大学院入試システム</p> <p>3-3 研究科別時間割</p>	
4	南山の先生リニューアル	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>「南山の先生」は、高校生や高校教員に本学教員の研究内容を紹介するための媒体として、元々は冊子とWebページの両方を作成していた。2010年度よりWebページのみの運用となったが、Webページのデザインが冊子のフォーマットを踏襲したものであるため、読みにくさや時代の変化に対応できていないといった意見が寄せられていたため、2017年度中に方針を決定することとした。2017年度の入学試験広報委員会において廃止も含め検討を重ねた結果、より読みやすい形態にリニューアルを行い、全教員分を掲載する旨の方針を決定し、2018年6月18日にリニューアル版を公開した。</p>	<p>現在「南山の先生」に掲載されている記事は288件であるが、当初の掲載予定数よりも約20件ほど少ない。本学に興味を持っている方に本学のことをよく知ってもらうツールの一つであり、掲載数は多いのが望ましい。</p>	B	<p>2019年度における「南山の先生」の記事掲載予定数は317件である。7月上旬に2019年度版への更新を予定しているが、掲載予定数である317件を公開できるよう、新任用や未執筆の教員に対して協力を依頼する。</p>	<p>4 南山の先生アクセスログ解析</p>	
5	カトリック系高等学校との連携強化	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>新入試の説明会には、4会場合計で22校26名の先生方にご参加いただいた。（5-2）</p> <p>また、高校訪問数についても2017年度は33校を計40回訪問したが、2018年度は48校を計73回訪問し、訪問校および回数も大きく増やした。（5-4）</p> <p>なお、カトリック系高等学校を対象とした入試の志願者数は、推薦入学審査（カトリック系高等学校等）が94名（募集人員71名）、特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）が46名（募集人員40名）と、いずれも募集人員を上回る志願があった。（5-5）</p>	特になし。	<p>2021年度入試からは、推薦入学審査（カトリック系高等学校等）を廃止し、特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）に一本化することが決まったため、カトリック系高等学校から理解を得られるよう丁寧に説明する必要がある。そのため、2019年度においても、引き続き、カトリック系高等学校への積極的な広報活動を実施し、連携強化に努める。（5-6）</p>	<p>5-1 入試説明会開催案内</p> <p>5-2 入試説明会実施報告</p> <p>5-3 ヒアリング結果</p> <p>5-4 高校訪問先一覧</p> <p>5-5 入試ガイド2020</p> <p>5-6 推薦入学審査（カトリック系高等学校等）廃止通知文書</p>		

		委員会/事務組織等名称	学生課	氏名	後藤 真貴子			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	委員会の適切な運営	学生課で所管する委員会等は以下のとおりであり、それぞれ事務局として開催通知発信、資料準備、事前打合せ、書記、記録作成、事後処理をおこなった。  ①学生委員会：計11回（うち臨時2回）開催 ②奨学生選考委員会：計9回開催 ③学生交流センター委員会：計2回開催 ④南山大学大学院日本学生支援機構第一種奨学金返還免除候補者推薦委員会：計2回開催 ⑤保健管理委員会：計2回開催 ⑥学生会会議：計41回開催 ⑦保健センター会議：計11回開催 ⑧合理的配慮サポート会議：計12回開催	事務局として、学生部案件は学生部長と、保健案件は保健センター長と事前に相談・打ち合わせを行って資料を準備し、学内手続きに漏れがないよう適切な運営を実施した。学生課で原案を作成、提案するものについては、学生会会議や保健センター会議で協議を重ね、関係委員会への審議を進め、実施することができた。また、学生委員会、奨学生選考委員会、学生会会議、保健センター会議においてはペーパーレスを推進し、データ配信（回収資料を除く）により委員が各自PCあるいはタブレット端末を持参し実施した。	委員会資料に誤りがあり、訂正が必要になることがあるため、ミスのない資料作成をすることが重要である。	B	常に改善意識を持ち、学生会会議や保健センター会議で検討するための提案資料の根拠を示して作成し、学生会部や保健センターと連携して協議を進め、期限を定めて着実に学内手続きをおこなっていく。	各種委員会前に、学生会会議や保健センター会議で資料を事前に確認しているが、より慎重に点検して委員会資料を作成する。	左記①から⑧の各委員会資料および記録
2	大学行事・イベントの遂行	①フレッシュマン祭：（3/31-4/5）：フレマン祭実行委員会への助言 ②上南戦（7/7-9）：上南戦実行委員会への助言 ③ゆかたフェス（7/13）：ゆかたフェス実行委員会への助言 ④野外宗教劇（10/14）：公認団体野外宗教劇への助言 ⑤大学祭（11/3-5）：大学祭運営委員会への助言 ⑥降誕祭（12/8）：降誕祭実行委員会への助言 ⑦学生交流センター（セントルム）でのランチトーク：19回	各種行事の実施、運営に際し、各実行委員会、運営委員会を組織する学生の相談に乗り、助言し、大きなトラブルなく開催できた。特にキャンパス工事に伴いパッセージの使用が制限された野外宗教劇や大学祭において、施設課との調整を密に行い、適切な情報を学生へ提供することで、予定通り開催することができた。また、学生交流センター（セントルム）で昼食時間に開催しているランチトークについて、2018年度は19回の開催となり、前年度31回開催に比較すると減少したが、学生TAが主体的に実施するようになったため、趣旨にあった運営ができるようになった。	課外活動は学生が主体的に行うものであるという前提のもと、学生課として助言を行っているが、学生が学生課を頼りすぎる面もあり、その関わり具合が難しい。複数の課外活動団体において、会計上の不備があり、学生会会議で対応を検討し、指導をおこなった。	A	各行事終了後に、学生会会議で意見を集約し、その意見を各実行委員会、運営委員会の学生へ伝える振り返りミーティングを開催し、次年度開催に向けて問題点や課題を整理する。	各実行委員会、運営委員会が主体的、安定的かつ継続的に運営できるような助言をおこなっていく。会計の問題については、課外活動登録時において通帳などの根拠資料を学生課窓口で確認し、誤った運用をしている団体に対して指導をおこなう。	・2018年度学生会会議資料および記録 ・2018年度第2回・第4回・第6回・第7回・第9回・学生会委員会資料および記録

		委員会/事務組織等名称	学生課	氏名	後藤 真貴子		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
					「改善すべき事項」を記述してください。	「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。	
3	業務改善、提案	<p>以下を提案、実施した。</p> <p>&lt;共通&gt; 委員会、会議資料のデータ化による印刷費削減</p> <p>&lt;厚生関連&gt; ①新入生ガイダンスの短縮化に伴うガイダンス内容の見直し ②休退学の申請書様式改訂 ③給付奨学金の選考基準の見直し ④入学手続きWeb化の提案 ⑤学長表彰の人数件の見直し</p> <p>&lt;課外活動関連&gt; ⑥デジタルサイネージの導入 ⑦南山チャレンジプロジェクトの募集時期早期化</p> <p>&lt;保健関連&gt; ⑧「障がい者サポートプロジェクトチーム」を「合理的配慮サポートチーム」へ名称変更</p>	<p>①他課室の応援を得て、入学書類回収と学生証配付を別教室に分けて同時に実施し、効率化を図った。</p> <p>②従来書き間違いが多く、トラブルの原因となっていたことから、書式を見直した。</p> <p>③従来JASSOに準拠していた選考基準を見直し、認定所得に基づく家計基準に統一する運用を提案した。</p> <p>④入学手続きWeb化を提案し、2020年度入試より実行するため現在システムを設計している。</p> <p>⑤国際教養学部設置や短期大学の廃止、英米と総合政策の定員削減、経済、経営、フランス、ドイツ、ソフトウェア工、機械電子制御工の定員増により表彰される人数枠を検討する必要性が生じ、これまでの基準と照らしながら新たなルールを提案した。</p> <p>⑥キャンパス内の掲示板のひとつとして丸善が契約しているデジタルサイネージをS棟店舗前から1SYOKUへ移設し、課外活動等の活動を掲載できるように交渉、実現した。</p> <p>⑦2017年度新規提案し実施した南山チャレンジプロジェクトの募集時期を早期化し新年度開始から活動を開始できるようにした。</p> <p>⑧学生および保証人のなかでは「障がい者」という名称で扱われることに不満を示すケースがあり、「合理的配慮」へ名称変更した。</p>	A	<p>・日々の業務を通じて、問題点や課題を提出し、学生部会議や保健センター会議へ改善策を提案する。</p> <p>・各々の会議において、教員との協働で検討を進め、学内手続きを経て実行していく。</p> <p>・学生側、大学側の双方で効率化、省力化を図るための施策を今後も提案していく。</p>	<p>⑥特にイベント時の掲示について、学生団体の意見を取り入れながら、新たな掲示板の設置を提案していく。</p>	<p>①～⑧学生部会議資料 ①1/28事務部長会議資料 ②1/〇協議会議題 ③ ④11/26個人情報保護委員会資料および2/25協議会資料 ⑤11/26協議会資料 ⑥10/19学長室会議資料 ⑦ ⑧9/10協議会資料</p>

		委員会/事務組織等名称	学生課	氏名	後藤 真貴子			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	4	<p><b>学生支援体制の適切な整備</b></p> <p>①学生部長、学生部次長（厚生担当、課外活動担当、学生交流担当）で組織される学生部と学生課が連携して対応している。</p> <p>②各学部選出の学生委員を通じ、学生部、学生課と連携をはかっている。</p> <p>③新任用教員に対して、学生支援の体制等を説明している。</p> <p>④学生一人ひとりに担当教員を割り当てる指導教員制度をとっている。</p> <p>⑤学生交流センターを学内に設置している。</p>	<p>①学生部と学生課が連携し、学生が心身共に健康で充実した学生生活を過ごすことができるように、週1回学生部会議を開催して情報共有や様々な検討をおこない、学内の各部署、学外の諸機関と密な連絡、調整を行っている。</p> <p>②各学部から1名の学生委員が選出され、月1回開催される学生委員会、奨学生選考委員会での報告事項、審議事項により各学部へ情報提供をおこない、学生部・学生課との連携を行っている。</p> <p>③毎年度4月初旬に開催される「新任用教育職員研修」において、学生課長より「学生関係の制度と手続き」について説明し理解を得ている。</p> <p>④指導教員が学業、授業料、奨学金、休・退学等、学生の抱えるさまざまな問題に対処できるよう、学生課より情報提供し、問合せに応じている。</p> <p>⑤学生交流センターが設置目的である「学生が集い他の学生と関わり合い、教え合って、学生相互が支援・協働活動を行うこと」を達成できるよう、学生TAのサポートをしている。</p>	<p>学生生活全般の問題として、通学マナーへのクレーム対応、近隣コンビニエンスストアでの無駄駐車、SNSや家庭教師斡旋に対するクレームなどがあげられる。これらの対応は学生部・学生課だけでなく全学的な問題である。</p>	<p>A</p>	<p>・新入生ガイダンスにおいて、学生生活案内、学生生活スタートブック、カカワリの配布を継続するとともに、2019年度から新たに実施する、学生委員による各学科での学生生活ガイダンスで、学生生活に関わる情報を提供する。</p> <p>・今後も関係部署との連携、調整を密にし、学生支援体制を継続していく。</p>	<p>・学内ポスターや掲示、PORTAでの案内などを継続し、学生の意識向上を図る。</p> <p>・通学推奨ルート、通学マナーについては、2019年度新入生へクリアファイルを配布し、周知徹底を図る。</p>	<p>①南山大学管理職制第20条～第23条</p> <p>②南山大学学生委員会規程</p> <p>③新任用教育職員研修資料</p> <p>④学生生活案内</p> <p>⑤学生生活案内、カカワリ</p>

		委員会/事務組織等名称	学生課	氏名	後藤 真貴子			
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料	
5	障がいのある学生に対する修学支援および学生の相談に応じる体制の整備	<p>①障害者差別解消法に基づき、障がいを持つ学生の支援をおこなっている。具体的には合理的配慮の願いがあった場合に、状況や要望を伺い、「合理的配慮サポートチーム会議」で配慮内容を協議して、可能な限り対応している。</p> <p>②特別修学支援室において、修学面で困難を抱える学生一人ひとりの実情に対応した学習環境を整えるための相談窓口を設けている。</p> <p>③学生相談室において、さまざまな困難に直面した学生に対する支援として、カウンセラー（公認心理師、臨床心理士）による学生相談と精神科医による精神保健相談をおこなっている。</p>	<p>①合理的配慮学生の要望を伺い、合理的配慮サポートチーム会議で協議できるよう資料を準備し、協議後の手続きをおこない、教室内における座席指定、授業担当者へ障がいや症状の周知、支援機器や装具の使用許可、試験問題の文字サイズ拡大や時間延長などの支援をおこなうことができた。また、新年度開始前に教学担当副学長が全学科長を召集し、「障がい学生に対するサポート体制についての情報共有会議」を開催し、合理的配慮を必要とする学生からの要望事項と大学の対応について情報提供、共有をおこなった。</p> <p>②特別修学支援室において、開催される「履修登録相談会」「学生サポーターによる個別学習支援」「メンタルヘルズ講座」「キャリアデザイン支援講座」などの修学支援について、事務手続きをおこなった。</p> <p>③学生相談室において、学業をはじめ、課外活動、対人関係、家庭、人生についての疑問や目標、将来の進路選択等について、ともに考え、よりよい解決策を見つけ出すための援助と助言をしているが、保健室は保健センター総合受付として、カウンセリングの予約や事前資料準備をおこなった。</p>	<p>①「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>②記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>③到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>④500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>①自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>①「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>②500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>①「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>②500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>①記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>障がいのある学生に対する修学支援および学生の相談に応じる体制の整備</p>		A		<p>①合理的配慮サポートプロジェクトチーム概念図</p> <p>②③保健センター利用案内パンフレット</p>		

		委員会/事務組織等名称	学生課	氏名	後藤 真貴子			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			点検・評価	自己評定				
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
6	奨学金その他の経済的支援の整備	<p>①給付奨学金は7種類（うち1種類は新規採用なし）あり、経済的困窮度（JASSO基準準用）、成績優秀（GPA）をもとにして奨学金を給付した。</p> <p>②貸与奨学金は2種類あり、入学時に資金を必要とする場合、家計が経済的に不測の事態に陥ったときに、経済的困窮度（JASSO基準準用）をもとにして、奨学金を貸与する制度を用意している。</p> <p>③学外奨学金は2018年度30種類あり、経済的困窮度（JASSO基準準用）や成績優秀（GPA）、財団の意向をもとにして推薦者を選考した。</p>	<p>①給付奨学金制度について、2013年度に制度改革後5年が経過したことから、昨今の家庭の経済状況を鑑み検証した。大学給付奨学金および友の会給付奨学金について、家族の構成を考慮した選考基準を取りやめ、認定所得に基づく家計基準に変更して運用することを提案し、2019年度から運用するための学内手続きが完了した。</p> <p>②希望者がいなかった。</p> <p>③前年度と比較すると、3つの財団からの募集が増加し、学生の経済的支援の枠が広がった。</p>	<p>①選考基準を変更することとなったが、現状の枠組みでは困窮度の高い学生すべてが救済されない。給付奨学金の枠組み（予算）の拡大を近い将来検討することが必要である。</p> <p>②③特になし</p>	A	特になし	<p>①さらなる制度の充実のためには、給付対象者の拡大が望まれるため、今後も議論を重ね、見直しを行うことにより、給付型奨学金制度の充実を図っていく。</p> <p>②③特になし</p>	<p>①9/24協議会資料</p> <p>②奨学生選考委員会資料</p>

		委員会/事務組織等名称	学生課	氏名	後藤 真貴子		
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
		<p>①点検・評価項目ごとに現状を記述してください。</p> <p>②500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>①「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>②記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>③到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>④500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>①「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>②記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>③到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>④500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>①自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>①「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>②500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>①「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>②500字以内で簡潔に記載してください。</p>
<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>7 課外活動支援の整備</p>	<p>①南山チャレンジプロジェクト：7つの団体を採択</p> <p>②有志団体Meal for Refugees at Nanzanとローソンとの商品共同開発をサポートした。</p> <p>③学長表敬訪問を新規実施した。(9/26：体育系6、文化系6)</p> <p>④名古屋キャンパス施設設備計画(Ⅲ・Ⅳ期)におけるセミナー室およびPC教室設置に伴う課外活動利用教室の変更、また、グラウンド改修工事期間中の活動支援を提案し、工期中の代替措置をおこなった。クラブハウス改修工事に伴う各クラブの部室引っ越し、再生された更衣室等共用スペースの利用ルール指導等を行った。</p> <p>⑤学生連盟等の団体加盟費、学外施設の借用・使用料、全国大会出場者への参加費・交通費、奨励クラブコーチへの謝礼金などの援助をおこなった。</p> <p>⑥学生部長表彰を実施(3/20)した。</p>	<p>①各採択団体が計画に沿って実行できるよう助言し、学内調整、予算執行をおこなった。</p> <p>②2017年度採択団体のひとつ、有志団体である、Meal for Refugees at Nanzanがローソンと商品共同開発を進めるに当たりサポートし、商品開発が実現した。10/17には記者発表もおこなった。</p> <p>③学長に、学生の活動を知っていたくために、優れた成績を修めた個人や団体、様々な活動を行っている個人や団体を選定し、学長への表敬訪問を実現した。</p> <p>④工事計画により課外活動で利用している教室やグラウンド、部室等が利用不能となる期間中の代替措置を提案し、学生の活動に支障がでないように学内手続きをおこなった。また、クラブハウス改修により再生した共用部の利用ルールを策定、学生への指導をおこなった。</p> <p>⑤学生の課外活動発展のための各種援助制度について、課外活動団体を集めて説明会をおこない、関連委員会資料にまとめて学内手続きをおこなった。</p> <p>⑥南山大学学生表彰規程に基づき、優れた成績を残した個人または団体の中から選考し、関連委員会資料にまとめて学内手続きをおこない、年度末に表彰した。</p>	<p>①7つの採択団体のうち、1つの団体から計画倒れのため支援の取り下げがあった。</p> <p>②③④⑤⑥特になし</p> <p>このほか、補導出張制度に関するルールが一部古くなり、現状から乖離しているところがあるため、改正を検討する。</p>	<p>学生が主体的に活発な活動ができるようサポートしていくとともに、改修計画の課外活動への影響に応じ、代替措置を検討する。</p> <p>B</p>	<p>①採択団体に対して、毎月末に活動報告の進捗を報告してもらい、途中で計画倒れにならないよう進捗を管理し、目的を達成できるようサポートしていく。</p> <p>②③④⑤⑥特になし</p> <p>補導出張制度の改正に関して、春学期中をめぐり、学園関連施設等の利用料改訂に応じた出張費支給ができるようルール改正を検討し、引き続き、ルール全体の見直しを図る。</p>	<p>①～⑥学生委員会資料および記録</p> <p>①2018年度第2回学生委員会資料</p> <p>②9/10協議会資料</p> <p>③学生部会議資料</p> <p>④4/9協議会資料</p> <p>⑤⑥2018年度第9回学生委員会資料</p>



		委員会/事務組織等名称	教務課	氏名	谷本 達哉			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>[B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
1	<p>カリキュラム編成および履修に関する事項</p> <p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>南山大学事務分掌規程にしたがい、2019年度学年原簿の原簿作成、2019年度授業時間割編成、2019年度入学者用履修案内の編集・発行ならびに日常的な学生の履修登録支援を行った。</p>	<p>2018年度の学年原簿では、15回の授業日程があらかじめ確定できない授業科目が年間624科目あり、個別の調整により、15回目の授業日を設定しなければならなかった。これを解消し、学生や教員にとって分かりやすく適切な学年原簿とすること、また事務負担を軽減することを目標に、2019年度学年原簿は、すべてのクォーター、すべての曜日で8週間の授業日程を確保することを念頭において原簿を作成した。その結果、新入生がイダグスの短縮等により、土曜日以外は8週間を確保する学年原簿を完成し、教務委員会ならびに評議会の承認を得た。</p>	<p>曜日等の関係で、毎年継続して8週間を確保できるかが不透明である。また、祝日の確保も課題である。</p>	<p>B</p>	<p>2019年度と同等の方針で適切な授業回数を確保できるよう原簿を作成する。その一方で、将来に向けてはクォーター制点検ワーキンググループにて、現状を正しく報告し、適切な学年原簿を作成する方策を具申する。</p>	<p>2019年度授業日予定表_第5回教務委員会_審議事項4</p>	
2	<p>授業・定期試験等に関する事項</p> <p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>南山大学事務分掌規程にしたがい、日々の授業運営における教室管理、教育職員の出講状況管理、毎クォーターの定期試験・追試験の準備・運営を行った。</p>	<p>キャンパス内の改修工事のため、授業や定期試験における教室調整は難航したものの、全学カリキュラム委員会にて示された教室割当の原則にしたがい、すべてのクォーターにおいて滞りなく教室を割り当てを行うことができた。割り当て後も登録変更による履修者の増減、授業担当教員の要望等に応じて、可能な限り教室の調整を行い、快適かつ適切な学習環境を提供できるよう努めた。</p>	<p>定期試験日程が各クォーター4日間（予備日を除く）であるため、授業と同じ曜日・時間に試験を実施することができず、定期試験の時間割編成に苦慮している。特に学生一人ひとりの試験時間割が重複することのないよう細心の注意を払っており、複数名でのチェック作業に多くの時間を費やしている。</p>	<p>B</p>	<p>2019年度は改修工事が概ね終了したため、教室割当にやや柔軟性が増す。これを生かし、教室定員による制約を緩和し、抽選漏れ人数の減少を目指す。また、抽選漏れの人数や履修登録状況に応じて、教室変更を行い、履修希望者が可能な限り履修できる環境を整える。</p>	<p>2019年度も引き続き、各クォーター4日間（予備日を除く）の定期試験日程であるため、2018年度と同様、すべての学生の試験時間割が重複することなく適切に受験できるよう時間割編成を行う。重複チェック等の事務負担を軽減するため、2019年7月に教務課員の業務負担変更を行い、定期試験業務を担える人員を増やす。将来に向けては、定期試験期間を各クォーター1週間ずつ確保できるよう、クォーター制点検ワーキンググループにて、現状を正しく報告し、適切な学年原簿を作成する方策を具申する。</p>	<p>教室割当の原則_第1回全学カリキュラム委員会_報告事項10</p>
3	<p>成績管理に関する事項</p> <p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>南山大学事務分掌規程にしたがい、成績の管理、卒業論文等の受理、2018年度卒業・修了判定資料の作成、在学生・卒業生への各種証明書の発行を行った。</p>	<p>卒業論文等の受理にあたっては、期限を厳守するよう教務課Webページにて学生や指導教員に周知し、厳格に運用している。また、2018年度より未提出者の成績入力を教務課が担当することとなったが、提出期限後のスケジュールを見直し、著しく遅延することなく、指導教員へ卒業論文の受け渡しを完了することができた。</p>	<p>卒業・修了判定を正しく行うために、システムの設定から資料準備、実際の判定に至るまでの各段階において、必ず複数名でのチェック体制を敷いている。これまで教務課のみで行っていた作業を他の係の者でも担えるよう、チェック項目を見直し、課室全体で協力体制を構築したが、依然として特に年度末の超過勤務が膨大であり、職員健康管理や疲労の蓄積によるミスの発生が懸念される状態にある。</p>	<p>B</p>	<p>卒業・修了判定ルールのシステム設定、確認等の外部委託化などにより業務の効率化、負担軽減、超過勤務の抑制を目指す。</p>	<p>2018年度3月卒判チェックリスト(両面印刷).xls</p>	

		委員会/事務組織等名称	教務課	氏名	谷本 達哉		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
4	共通教育ならびに各センターに関する事項	<p>南山大学事務分掌規程にしたがい、共通教育委員会の開催、事後処理、外国語教育・教職・体育教育の教育補助ならびに各センターの管理・運営を行った。</p>	<p>2018年度より外国語教育・教職・体育教育センター長会議、外国語教育・教職・体育教育センター合同協議会等報告会が発足し、それぞれ10回ずつ会議が開催され、事務局として円滑に準備・運営・記録作成を行った。外国語教育・教職・体育教育センター長会議が出席する協議会、評議会等の情報を遺漏なく、効率的に各センター所属教員に伝えられる仕組みを構築できた。</p>	<p>学部事務局と同様の業務を担う各センターにおいて、研究費管理や人事管理等について、十分なノウハウが蓄積されておらず、学事課（学部事務室）から都度、助言を得ながら、業務を進めている状態である。2018年度は体育教育センターにおいて専任教職員員の留学、退職、採用があり、一連の手續を経験した。各センターにおいても事例等を蓄積し、事務処理の流れが確立しつつある。</p>	<p>2019年度より、外国語教育・教職・体育教育センターに国際・情報・保健センターを加えた6センターの選出委員が教務、図書館、研究室委員会に出席することとなった。6センターに関する事務は、教務課のほか、国際センター事務局、情報センター事務局、学生課（保健室）が関わるが、3センターを擁する教務課が事務局の中心となり、所属教員および事務担当者のメイリングリストを作成し、各種委員会報告等の円滑な情報共有を図る。</p>	<p>今後も当面は新たな事例が発生するたびに、会議体等の流れを確認し、遺漏なく事務処理を行う。その際、学事課（学部事務室）で所有している各種資料やマニュアルを共有いただくことも検討する。また、外国語教育・教職・体育教育の各センターで共通する、あるいは類似する事例は、相互に情報や資料を共有し、事務処理の効率化を図る。</p>	<p>毎回の外国語教育・教職・体育教育センター長会議議事録、協議会等報告会議事録</p>
	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>			A			

		委員会/事務組織等名称	キャリア支援室	氏名	寺本 将史			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが適切である [A] 良好な状態にあり、取り組みが適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	キャリア支援室の利用促進について  ※必要に応じて行を増やしてください。	キャリア支援室には、大いに役立つ資料を用意しており、就職情報出版社にはない情報(求人票を含む)を保有している。そして、経験豊富なキャリアカウンセラーやスタッフを配置している。2017年度卒業生対象 南山生の就職活動実態調査において、キャリア支援室を利用したことがない学部学生は45.84%であった。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。	2017年度のキャリアカウンセラーの配置は、定常枠1(2017年4・5月および2017年9月～2018年3月) および臨時枠1(繁忙期のみ:2017年4・5月、2018年2・3月)であった。2018年度は、学生窓口相談を充実させるため、キャリアカウンセラーを2名増員し、3枠(通年雇用)を提案し、2020年3月末までの配置が認められた。これにより、学生の窓口相談体制を充実することができた。  また、2018年12月より、キャリア支援室の支援体制や利用方法などを知ってもらうことを目的とした「キャリア支援室利用講習会」を実施している。	「キャリア支援室利用講習会」は実施したばかりのため、まだ周知されていない。  【B】	キャリアカウンセラーの配置は、2019年度の運用および実績を確認し、さらに適切な配置を検討する。  就職を含めた進路相談等を行うキャリア支援室を身近に感じてもらいたい。そのため、就職活動年次生だけではなく、低年次生にも活用してもらうため、その年次にあった「キャリア支援利用室講習会プログラム」を作成する。	「キャリア支援室利用講習会」については、認知度を上げるために、学生および教職員に対して、学内掲示板やチラシの配布(ミニチラシなど)、キャリア支援委員会委員を通じてアナウンスしていき、周知していく。		
2	相談体制の充実について  ※必要に応じて行を増やしてください。	2018年度は、学生窓口相談を充実させるため、キャリアカウンセラーを2名増員し、3枠(通年雇用)を提案し、2020年3月末までの配置が認められた。これにより、学生の窓口相談体制を充実することができた。	学生相談が専門であるキャリアカウンセラーを充実させたことにより、専任および専任嘱託職員は、事務に専念する時間が増えた。	学生相談が落ち着いた時期に、キャリアカウンセラーが対応する担当業務をどう振り分けていくか課題である。  【B】	2020年3月末までキャリアカウンセラー3枠が認められている。この体制をきちんと評価し、次年度以降の体制を検討する。	現在、専任職員が担当している業務の内、キャリアカウンセラーが担当できる業務(例えば、進路届未提出の学生への連絡、進路先未決定者のフォローなど)を確認し、振り分けをしていく。		
3	キャリア支援室体制について  ※必要に応じて行を増やしてください。	キャリア支援室は、キャリア支援係および就職支援係の2係体制である。また、2019年度より、就職委員会とキャリアサポート委員会を統合し、キャリア支援委員会を発足した。	特になし。	キャリア支援係はキャリアサポートプログラムとインターンシップを担当し、就職支援係は就職支援プログラムを担当している。 就職活動の環境変化により、2係の業務の切り分けが難しくなっている。 今後の就職環境に応じた支援体制を検討していく必要がある。  【A】	特になし。	センター化を含め、よりよいキャリア支援室の体制を検討する。		

		委員会/事務組織等名称	国際センター事務局	氏名	下山 裕司	
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
	<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが最良な水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p> <p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>					
1	「世界展開力強化事業」（中南米）、(COIL) の数値目標達成	<p>・ 中南米：2019年度の補助対象の最終年度後の最終評価に向け、交流学生数の目標達成を目指す。</p> <p>・ COIL：交流学生数、授業科目数および受講生数の数値目標に加え、年度別実施計画の実績および成果をあげる必要がある。</p>	<p>・ 中南米：2018年度まで上智大学および上智大学短期大学部との連携のもと、おおむね数値目標を達成することができた。</p> <p>・ COIL：採択初年度の2018年度は、数値目標、計画の実績ともおおむね達成することができた。</p>	A	<p>・ 中南米およびCOIL：交流学生数については、派遣留学促進のため、留学フェア、中南米フェア、インターナショナルウィーク等行事を通じて、学生への広報に努める。受入れ学生については、NAFSA等国際会議にて各連携校の担当者とも面会するなど、継続した情報提供を行う。</p>	・ 実績報告書
2	フォワイエ南山への入居促進	<p>・ 2019年度より、フォワイエ南山を学生マンションから国際学生宿舎へと用途を変更したが、2019年6月現在、入居者数は2割程度の見込みである。</p>	<p>・ 外国人留学生入試等の合格者に対する広報が不十分であった。2020年度初めには6割の入居率となるよう、周知を行う。</p>	B	<p>・ 入試課と連携して、2020年度留学生入試合格者にもれなく入居案内を送付するよう手配する。</p>	

		委員会/事務組織等名称	教育・研究事務部	氏名	加藤 雅哉	
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
1	2018年度学長方針 関連業務	<p>1. 情報センター事務室が、情報センター運営委員会の下、キャンパス施設整備計画（Ⅲ・Ⅳ期等）のAXIA整備で全教室のWi-Fi化を完了した。</p> <p>2. 学事課が2018年4月1日施行の南山大学短期留学特別奨学金の事務取扱部署として31名の奨学金貸与業務を行った。</p> <p>3. 南山エクステンション・カレッジ事務室が、南山エクステンション・カレッジ委員会の下で地域連携として公開講座および公開講演会を継続して開設、開催した。</p>	<p>1. AXIA整備によりBYODで学生がPCやタブレットを学内で使用して、Webポータルサイト、e-learning、メールサービス、オンデマンド印刷等を利用する環境が整った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有線/無線LAN(G棟, J棟 (B2F-2F), F棟, K棟, M棟)</li> <li>・有線/無線LAN(E棟)</li> <li>・無線LAN(J棟 (3F-8F))</li> <li>・有線/無線LAN(L棟: 教室)</li> <li>・無線LAN(L棟/体育センター/A棟: 教室)</li> </ul> <p>BYOD環境の第1段階を達成した。</p> <p>2. 31名中、22名が国際教養学部のASU短期留学プログラム参加者(2年次第2クォーターの参加が原則義務付けられている)で、学生の修学および留学意欲を引き出し、短期留学推進を支援できた。</p> <p>3. 2018年度の公開講座の開設講座数は152講座、受講者数は1,996名で、2017年度の開設講座数146および受講者数1,910名を上回った。公開講演会には405名の参加があった。</p>	A	<p>1. Ⅲ・Ⅳ期計画は、2019年度で完了する予定のため、その後のAXIA整備に関する計画を立案する。</p> <p>2. 返還が滞ったケースに対応する督促方法等が未整備のため学事課が既に実績のある学生課の事例を参考に経理課と調整して2019年7月までにマニュアルを整備する予定である。</p>	<p>1. 2018年度情報センター運営委員会資料</p> <p>2. 南山大学短期留学特別奨学金規程、2018年度南山大学短期留学特別奨学金学生の採用について（副学長（総務・将来構想担当）決裁番号172670（2018年3月23日）、180692（2018年6月25日））</p> <p>3. 2019年度第1回南山エクステンション・カレッジ委員会資料</p>
2	Plan-Do-Check-Action（企画-実施-点検評価-改善）サイクルの実践	<p>1. 情報センター事務室が、情報セキュリティの確保のためウイルス対策ソフト、情報センターWebページでの注意喚起、24時間365日外部業者委託によるネットワーク監視を実施している。</p> <p>2. 図書館事務課が、宗教文化研究所および人類学研究所の両図書室の学内者への図書資料貸し出しサービスの開始に合わせて、全学的な図書資料管理運営に係る連携のため新たに両図書室の図書資料整理業務を受託した。また、従来、教育・研究支援事務室が所管していたFD関連図書資料についても発注・受入業務等を担うよう変更した。</p> <p>3. 自己点検・評価委員会の下で教育・研究支援事務室が、2018年度より開始された大学基準協会の第3期認証評価基準の変更に伴い、自己点検・評価報告書様式および評価方法の改正案を作成し承認された。</p>	<p>1. セキュリティ被害は発生していない。</p> <p>2. 図書資料整理業務が臨時職員から専門性をもった業者委託に変更され（臨時職員人件費を委託費へ変更）貸し出しサービスが順調に開始された。また、FD関連図書資料は、他の一般図書と同様に、広く学内構成員等の利用に供することが可能となった。</p> <p>3. 様式および評価方法の変更により学部、研究所、研究所、センター等と内部質保証推進委員会により双方向の確認が行われた。</p>	B	<p>1. 今後、ウイルス検出方法に従来のパターンマッチングに加え、振る舞い型も追加する予定である。</p> <p>2. 今後は新たな図書・雑誌・電子媒体の発注および受入を予定している。</p> <p>3. 外部評価委員会の提言を参考として、教学マネジメントに基づいた内部質保証推進体制の継続について自己点検・評価委員会の下で内部質保証推進委員会および教学部門の理解が深まるよう支援する。</p>	<p>情報センターWEBページ <a href="https://office-a.nanzan-u.ac.jp/ocict/security/security.html">https://office-a.nanzan-u.ac.jp/ocict/security/security.html</a></p>

		委員会/事務組織等名称	教育・研究事務部	氏名	加藤 雅毅				
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
		<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
3	タイム・マネジメントの徹底	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>各課室で年間業務予定を作成し、各係レベルでは月間・週間予定についてP.C.で可視化するとともに、定例ミーティングで各担当業務の進捗を確認し、期限を意識した業務遂行としている。</p>	<p>一部の課室では、個人毎にTo Do リストを作成して業務の優先度からタイムマネジメントを行っている。</p>	<p>学部事務室等少人数、且つ日常的に教員支援を担う部署では、主体的なタイムマネジメントを確立することが困難なケースがある。</p>	B	<p>個人毎のTo Do リストの作成を促進する。</p>	<p>事務職員の所定労働時間および時間外労働・休日労働に関する協定書(労働基準監督署提出)に基づく事務職員の時間外労働について教員の協力を継続して願います。</p>	
4	リスク・マネジメントの実践	<p>(1) 前年度「&lt;点検・評価&gt;改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>危機発生を未然に防ぐため各部署内、部署間の日常的な業務処理方法が適切に行われているか、各課室の定例ミーティングおよび部内会議等で留意している。</p> <p>また、各部署で業務マニュアルの整備も定期的を実施している。</p> <p>さらに、毎年事務職員等研修の事例対応研修で具体的な取組み方法の研修を受け、所属部署における各自の権限と責任の行使を適切に行うための知識も継続して習得している。</p>	<p>起案書や申請書類作成等をはじめ業務遂行する際に法律や規程等を遵守するコンプライアンスの意識の醸成が継続され、危機発生初動における早急な情報伝達も実践されている。</p>	<p>2018年度のインシデント・アクシデントレポートは4件で、内1件は重大性を伴う業務瑕疵によるものであった。</p> <p>また、インシデント・アクシデントレポートの取り扱いについて各部署での認識に濃淡がある。</p>	B	<p>危機発生を未然に防ぐ対策をとっても様々な要因で危機が発生する可能性を想定し、事務職員等研修での知識習得および各部署でのOJTを通じて日常の業務遂行に真摯に取り組み、今後も継続して社会から評価される職場形成に努める。</p>	<p>「南山大学における危機管理について」に定められているインシデント・アクシデントレポートの取り扱いを周知し、適切な運用を通じて迅速な組織対応に繋げる。</p> <p>また、再発の防止の資料とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南山大学における危機管理について（2017年度版）</li> <li>・研修報告書（2017年度）</li> <li>・2018年度インシデント・アクシデントレポート</li> </ul>

		委員会/事務組織等名称	学事課	氏名	南 宏幸			
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
		[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	学部事務室専任・専任嘱託職員2名体制の構築	2017年度に学部事務室の業務分析を行い、2018年度中に全学部事務室の専任職員・専任嘱託職員を合わせて2名以上の体制とした。	2名体制にすることで、教授会資料などを異なった視点でチェックすることができ、間違いを抑制できている。また、相談する相手が身近にいて、精神的負担を軽減している。（課長面談時における各事務室担当者からの報告による）	学部事務室専任職員1名体制では年次休暇の取得も難しかったため2名体制としたが、2018年度学事課年次休暇取得は112.5日（年次休暇取得率20.9%）であり、まだ効果が出ているとは言いがたい。	A	新たに配置された職員がジョブチェンジを行うなどお互いが学部事務室の業務を体験・把握することでお互いのチェック機能も高まる。また、どちらかの職員が異動になった際も、他の職員が事前に引き継ぐこともできるので、スムーズな業務移管が可能となる。	新たに職員が配置となった事務室は新規追加職員が業務を覚えている過渡期でもあり、交代で休みにくい状況があったが、今後はその状況が改善され、年休取得率も向上する。また、法律的にも2019年度から年休5日取得義務が発生するので、そのことも後押しして年休取得率は向上する。	
2	南山大学短期留学特別奨学金の設立	2018年度から南山大学短期留学特別奨学金が設立され、29名1,372,000円の奨学金を貸与した（2018年度時点では外国語学部、国際教養学部が対象）。また、返還についても2018年12月から開始し、返還予定額全額が返還された。2018年度は初年度ということもあり、学事課長直轄の下で運営を開始したが、2019年度は外国語学部事務室、国際教養学部事務室に引き継いだ。	2019年度から外国語学部事務室、国際教養学部事務室が奨学金担当となって運営していくため、業務引継ぎを漏れなく進める必要がある。また、奨学金の督促方法が定まっていないので、2019年7月までに確定する必要がある。	A		外国語学部事務室、国際教養学部事務室に業務を漏れなく引き継ぐためにマニュアルを整備し、それを元に学事課長から説明を行う。また、督促方法については上長と相談しつつ、学生課にも実際の運営のノウハウを確認しながら、内容を確定していく。なお、次回督促の2019年7月までには内容を確定する。	南山大学短期留学奨学金貸与規程	
3	学生セミナー室、学生ロッカーの運用	Ⅲ・Ⅳ期施設整備計画に従い、学生セミナー室・学生ロッカーが設置されるため、セミナー室、ロッカー室ワーキング内で審議され、学事課が担当することとなった。2019年度からの体育センター・Q棟・K棟の学生ロッカー、セミナー室の運用に関する準備を行った。	運用は無事開始されたが、年度末のロッカー内荷物の処理をどうするかが決まっていない。また、マニュアル等も整備されていないので、作成の必要がある。	A		ロッカー内荷物の対処方法については、総務課と協力しながら法的根拠の確認、清掃委託業者への協力依頼などを2019年内に確定する必要がある。それと同時にマニュアルの整備も進める。また、今後は2019年度に発足した学生セミナー室・学生ロッカー委員会にて割振り等を審議し、委員会主導で進めていくこととなる。	セミナー室・ロッカー室ワーキンググループ報告書(2019年3月4日開催協議会協議事項6) 南山大学学生セミナー室・学生ロッカーの運用に関する規程	

		委員会/事務組織等名称	南山エクステンション・カレッジ事務室	氏名	芳賀 進				
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
		現状の説明	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが継続した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	公開講座受講者募集時の業務について（受講希望者の講座選択へのサポート1）  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	公開講座パンフレットの各講座の説明欄において、2018年度春期までは、語学講座の進行状況（初回講座なのか、前学期からの継続講座なのか等）が明確に記述されていなかったため、2018年度秋期から、語学講座の入門講座及び初級講座の説明欄に「新規テキストによる初回講座」、「〇〇年度〇期からの継続講座」等の表記を取り入れ、講座選択の参考に資することとした。	講座選択に有効な目安を提供できるようになった。また、受講希望者からの語学講座の内容に対する問い合わせに対して、より適切に回答することができるようになった。	語学講座だけでなく、他の分野の講座においても、講座選択の助けとなるような記述の追加について検討する。	B	受講希望者の立場に立って、公開講座パンフレットの講座内容の説明文をよりわかりやすく、講座の魅力を理解できるものにしていくよう、事務室と各講師とのコミュニケーションを密にして、2019年度秋期及び2020年度春期の公開講座パンフレットに順次反映させていく。	当該講師と協議しながら、2019年度秋期及び2020年度春期の講座パンフレットの作成を進めている。	2018年度秋期公開講座パンフレット (P.11～29)  2019年度春期公開講座パンフレット (P.11～29)  <a href="http://office.nanzan-u.ac.jp/EXTENSION/item/2019_spring_brochure.pdf">http://office.nanzan-u.ac.jp/EXTENSION/item/2019_spring_brochure.pdf</a>	
2	公開講座受講者募集時の業務について（受講希望者の講座選択へのサポート2）  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2018年度春期までは公開講座で使うテキストを事前に閲覧することはできなかったが、2018年度秋期から、閲覧用のテキストを事務室に用意し、希望者は事務室開室時間中に閲覧できるようにした。	受講希望者がテキストを実際に閲覧することによって、講座内容やレベル等の理解を助けることができるようになった。まだ閲覧件数は少ないが、事務室でテキスト閲覧が可能になったことが期待される。	特記事項なし	A	次の学期に新たに導入するテキストをできるだけ早めに手配し、閲覧希望者の利用に供するようになる。	特記事項なし	2019年度秋期公開講座パンフレット (P.8, P.11～43)	
3	公開講座の語学講座における講座変更と受講料返還の取扱い変更  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	語学講座でレベルが合わない場合、2018年度までは「初講日を含めて7日以内に申し出れば講座変更できる」としていたが、この変更申請期間を「当該講座の3回目の前日まで」に延長することとした。  また、2018年度までは、語学講座でレベルが合わず所定期間内に申し出ても、変更希望先が満席のときや、変更希望先の開講曜日・時限が合わない場合、変更希望先がない場合は、いずれも対応ができなかったが、この取扱いを見直し、2019年度から、上記の場合、当該講座の3回目の前日までに申し出れば、当該学期の受講済みの回数分の受講料相当額を差し引いて返還することとした。	2019年度から適用する新しい取り扱いであるため、具体的な適用事例はこれからであるが、新制度の趣旨を適切に活かしてゆくように、受講者向けの告知（Webページ掲載や学内掲示等）をわかりやすく行い、ていねいな対応をしていく。	特記事項なし	A	語学講座の変更と受講料返還の場合の受講料返還の取扱いが受講者に理解され、適切に活用されるように努めるとともに、これ以外に取り組むべき項目について検討を重ね、他大学での取り組み等も参考にして、受講者サービスの向上を目指す。	特記事項なし	決裁書、  2019年度春期公開講座パンフレット (P.2, P.10)  <a href="http://office.nanzan-u.ac.jp/EXTENSION/item/2019_spring_brochure.pdf">http://office.nanzan-u.ac.jp/EXTENSION/item/2019_spring_brochure.pdf</a>	



		委員会/事務組織等名称	図書館事務課	氏名	稲垣 智成		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
1	組織・人員体制	2018年度末の人員体制は、計38名(内訳は以下のとおり)。超過勤務時間数は、2377.00時間となった。 【内訳】 課長1 資料総務係(計7名) 係長1、専任1、再雇用1、専任嘱託1、派遣2、臨時1 学術情報係(計18名) 係長1、専任4、専任嘱託3、派遣5、臨時5 利用者支援係(計12名) 係長1、専任2、再雇用1、専任嘱託2、派遣2、臨時4	人事異動等による人員変更があったが、3係で連携のうえ、利用者への影響や大きなトラブル等なく業務遂行できた。 また、2017年4月に稼働した図書館システムが安定稼働したことに伴い、超過勤務時間数が2017年度より▲1429.75時間となった。	2017年4月に4係から3係へ組織改組され、学術情報係で図書・雑誌・電子リソース等のすべての受入を行うこととなった。受入の一元化が可能となった反面、業務負荷が高く、他の係との業務負荷および人員配置でアンバランスな状態となっている。また、資料総務係の専任職員枠(1名)が欠員であり、派遣職員が配置されている。	B	引き続き、3係で連携のうえ、より良い利用者サービスの提供に努める。	学術情報係の業務分担および人員配置の見直しを課内で検討する。また、欠員となっている専任職員枠について、専任職員の配置の必要性を、教育・研究事務部長を通じて継続的に訴えていく。
2	委員会運営	図書館事務課が所管する以下の委員会を開催した。事務局として、原案の資料作成や委員長との事前打ち合わせ、議事録作成など適切な委員会運営に努めた。 ・図書館委員会(計6回) ・カトリック文庫協議会(計1回)	毎年のルーティン以外に、以前からの懸案事項であった以下の案件について、図書館委員会へ提案し、図書館委員会では報告・承認された。 ・修士・博士論文の取扱いの変更について(第3回) ・除籍資料活用(リサイクル)方法の変更について(第3回) ・共通教育を担うセンターへの学部配分図書費の配分について(第5回) ・図書館の延滞料制度見直しに係る試行期間の延長について(第6回) ・蔵書点検結果(2017年度～2018年度)について(第6回) ・図書等資料の資産価額差異に係る会計処理について(第6回) ・図書館内資料の配置場所の変更について(第6回)	特記事項なし	B	図書館の老朽化や狭隘化、延滞料制度見直し、資料の配置場所の変更等の懸案事項については、継続的に検討が必要であるため、図書館事務課で継続的に検討し、必要に応じて図書館委員会等の会議体へ提案していく。	・図書館委員会議事録(第3回、第5回、第6回)
3	学外委員の職責	2018年度は、主に以下の学外委員を担当し、職責を果たした。 ・私立大学図書館協会西地区部会当番校(2018年6月15日に南山大学で西地区部会総会を開催) ・私立大学図書館協会東海地区協議会主幹事校(2018年11月9日に愛知大学で研究会を開催) ・私立大学図書館協会国際図書館協力委員会委員長(国際図書館協力委員会の運営・事業の実施) ・CAN事務局(2018年9月22日に愛知学院大学でブックパーティを開催)	2018年度は、負担の大きい学外委員が重なったが、他大学関係者と連携のうえ、滞りなく職責を果たすことができた。	2018年度は、A	図書館運営は、他館との相互協力により成り立っており、これらの学外委員の職責を果たすことは重要である。2019年度も他大学関係者と連携のうえ、学外委員の職責を果たしていく。 ・私立大学図書館協会東海地区協議会副幹事校(館灯の発行・編集予定) ・CAN事務局(2019年9月頃に中部大学でブックパーティを開催予定) ・カトリック大学連盟図書館協議会当番校(2019年7月5日に聖心女子大学で総会・実務研究会を開催予定)	・私立大学図書館協会西地区部会総会(開催通知) ・私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会研究会(開催通知) ・南大人事第17-111号「委員長の就任承諾について(伺)」(副学長(総務・将来構想担当)170472) ・CANブックパーティ(開催通知)	

		委員会/事務組織等名称	図書館事務課	氏名	稲垣 智成			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
4	社会貢献への取り組み  ※必要に応じて行を増やしてください。	本学図書館の特色あるコレクションや組織を活かし、以下の取り組みを行った。 ・一般利用者（高校生以上）への開放（1,657名登録） ・他大学フィールドワーク訪問調査の受入（2018年7月12日） ・愛知県総合教育センター主催「10年経験者研修」の一環である「異校種・社会体験に関わる研修」の受入（2018年7月24日） ・カトリック文庫講座の開催（2018年10月17日、南山大学宗教教育委員会と共催） ・大学コンソーシアムせと「新しい文化創造プロジェクト」への参画（2018年11月18日に瀬戸市立図書館で開催されたピブリオバトルに、学生を運営委員として派遣）	初めての取り組みとして、愛知県総合教育センター主催「10年経験者研修」の一環である「異校種・社会体験に関わる研修」として、本学卒業生で司書資格を有する愛知県立高校の教諭1名を受け入れ、大学図書館に係る運営の基礎を研修した。	特記事項なし	A	2019年度以降も、本学図書館の特色あるコレクションや組織を活かし、社会貢献に繋がる取り組みを続けていく。 ・一般利用者（高校生以上）への開放 ・カトリック文庫講座の開催（2019年12月7日開催予定、南山大学宗教教育委員会、人類学博物館と共催予定） ・大学コンソーシアムせと「新しい文化創造プロジェクト」への参画（ピブリオバトルへ学生を派遣予定） ・インターンシップ生の受入（2018年度は希望者なし） ・総合学習（職場体験）の受入（2018年度はインフルエンザ流行に伴い急遽中止）	特記事項なし	・南大図書第18-060号「第4回（2018年度）カトリック文庫講座の開催について（伺）」（副学長（教学担当）180966） ・南大図書第18-054号「10年経験者研修（異校種・社会体験）の受け入れについて（伺）」（副学長（総務・将来構想担当）180916）
5	全学的な資料管理運営に係る連携  ※必要に応じて行を増やしてください。	図書館長（2014年11月21日付文書）からの利用サービス拡大の検討依頼に基づき、2018年9月より、南山宗教文化研究所および人類学研究所の図書室で、学内構成員等への館外貸出サービスが開始された。それに伴い、当該研究所の図書の整理業務（整理、目録作成、分類付与、請求番号決定、装備業務等）を図書館で受託した。また、教育・研究支援事務室のFD関連図書予算の受託を開始し、図書館でFD関連図書資料の発注・受入手続き等を行うこととなった。	南山宗教文化研究所および人類学研究所の整理業務を図書館で受託することで、4研究所・3地域研究センターの整理業務を包括的に受託することとなった。FD関連図書予算の受託を含め、全学的な資料管理運営に係る連携に努めた。また、FD関連図書資料は、他の一般図書と同様に、広く学内構成員等の利用に供することが可能となった。	特記事項なし	A	2019年4月からは、南山宗教文化研究所および人類学研究所の図書の整理業務に加え、図書・雑誌・電子の発注・受入・整理業務も受託する予定である。	特記事項なし	・南大図書第18-106号「南山宗教文化研究所および人類学研究所の図書等予算の受託について（伺）」（図書館長180053） ・南大図書第18-004号「FD関連資料予算の受託について（伺）」（図書館長180003）

		委員会/事務組織等名称	情報センター事務局	氏名	大宮 則彦		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料
					「効果が上がっている事項」を記述してください。	「改善すべき事項」を記述してください。	
1	情報セキュリティの確保	<p>現時点において、情報セキュリティに対する最も脅威とされているのは、メールによる外部からの攻撃である。本学における対応を以下に示す。</p> <p>1. ネットワーク入口における対策 ISVW(InterScan VirusWall)によって、メールを監視しクライアントにウイルスが侵入することを防いでいる。</p> <p>2. クライアントにおける対策 各自が所有するPCに、SEP(Symantec Endpoint Protection)をインストールし、ウイルス対策を行っている。</p> <p>3. Webページでの注意喚起 2018年度から情報センター用のWebページを開設した(1-①)。本ページ上に「情報セキュリティ」の項目を立ち上げ、常時情報セキュリティ確保に関する注意喚起を行っている。緊急の場合は、トップページに注意喚起のメッセージを掲載するようにしている。</p> <p>4. ネットワーク監視 24時間365日、本学のネットワーク監視を外部業者に委託している。これにより、被害の早期検知、対策が実現できている(1-②)。</p>	<p>現在の情報セキュリティ確保に関する対策によって、個人情報漏洩等セキュリティ被害は報告されていない。</p> <p>ウイルス対策ソフトにおいて一般的なウイルス検出方法が、パターンマッチングである。既知のウイルス情報に基づいて、対象となるプログラムやファイルがウイルスか否かを判断する方法である。したがって、未知のウイルスには対応できない弱点がある。一般的には、攻撃全体の45%は検知できるが、残りの55%は検知不可という結果が出ている。本学においても、ウイルス対策ソフトは、パターンマッチングを採用しているため、標的型攻撃やゼロデイ(未知のウイルス)攻撃などがされた場合、被害が発生するリスクがある。</p>	B	特になし。	<p>2019年度において、ウイルス検出方法に従来のパターンマッチングに加え、振る舞い型も追加する予定である。振る舞い型は、ウイルスに特徴的な「悪意」を分析することにより検知・防御する技術である。したがって、未知のウイルスや標的型攻撃であっても、その構造や行動を分析することで、悪意を検知できる。2020年度には、本学に対する外部からの各種攻撃を把握して、防御率、透過率などを明確化したい。その上で、透過したウイルスの今後の対策方法について検討していきたい。</p>	<p>1-①「https://office-a.nanzan-u.ac.jp/ocict/」 1-②「インシデント・アクシデントレポート(OpenResolver)」</p>
2	AXIA整備	<p>2018年度には、以下のAXIA整備を行った(2-①)。</p> <p>①Ⅲ・Ⅳ期計画 有線/無線LAN(G棟, J棟(B2F-2F), F棟, K棟, M棟) ②Ⅲ・Ⅳ期計画以外 ・有線/無線LAN(E棟) ・無線LAN(J棟(3F-8F)) ・有線/無線LAN(L棟:教室) ・無線LAN(L棟/体育センター/A棟:教室) 上記工事により、全教室のWi-Fi化は完了した。</p>	<p>AXIA整備は、Ⅲ・Ⅳ期計画に則り、順調に以下の作業を行った。</p> <p>①J棟からS棟への基幹ネットワーク移設 ②J棟用ネットワーク設備新設 ③全教室Wi-Fi化 ④院生研究室Wi-Fi化 ⑤教員研究室の一部Wi-Fi化 ⑥保守期限を過ぎた機器の交換 ⑦高速回線への対応</p>	S	特になし。	<p>Ⅲ・Ⅳ期計画は、2019年度で完了する予定である。AXIA整備についても、N棟および第2研究室棟を残すだけとなっている。なお、AXIAは継続的に整備をしつつ、利用者のネットワーク環境を快適な状態に維持していかねばならない。このため、2020年度以降についても、AXIA整備に関する計画を立案した(2-②)。今後は、本計画に則って、AXIA整備を実施していく予定である。</p>	<p>2-①「2018年度AXIA整備実施報告」 2-②「AXIA中・長期事業計画書」</p>

		委員会/事務組織等名称	情報センター事務室	氏名	大宮 則彦			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
3	利用者サービス向上	1. eduroamサービス開始 2018年度末にeduroamサービスを開始した(3-①)。 2. AXIAパスワード即時反映 従来AXIAパスワードの変更タイミングは、翌日(0時)であった。それを、即時とした(3-②)。 3. 学外電子メールアドレスの有効活用 学外からPORTAを利用する場合、従来は暗号表(ワンタイムパスワード検出用)が必要であった。それを、利用者が事前に登録した学外電子メールアドレスにワンタイムパスワードを送信するようにした。	学生や教員が極力場所や時間に拘束されないように、業務の見直しを行った。結果、以下の対応を行った。 ①印刷サービスの見直し 従来は、印刷のために必要な印刷ポイントを証紙(券売機：平日9時から17時)で購入して、情報センター窓口に出向き申請していた。これを、コインキット(S棟あるいはQ棟に入館できる時間帯で利用可)から直接印刷ポイントの購入ができるようにした。 ②暗号表の廃止 暗号表の発行のためには、必ず大学に来て、発行申請手続きを行わなければならないであった。それを学外の電子メールアドレスにワンタイムパスワードを送信するようにした。	A	特になし。	2019年度中には、学外電子メールアドレスのPORTAへの反映についても即時反映できる目処を立てたい。	3-①「eduroam運用について」 3-②「パスワード情報反映方式の変更について」	

		委員会/事務組織等名称	教育・研究支援事務室	氏名	石井 知好			
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。
1	教育・研究支援事務室業務方針・目標の遂行	1. 学長方針の実現を目指し、職務に取り組む 2. 仕事の価値を高める。 3. ミスの無い(減らす)業務遂行 4. 教育・研究支援に関する知識・能力の開発 5. 整理整頓	業務方針・目標は、明文化しミーティングの場で周知している。またこの目標は、業務目標シート、自己申告書に個人の目標として落とし込まれており、目標を意識して業務を進めている。	特になし	A	特になし	特になし	2018年度教育・研究支援事務室業務方針・目標
2	2018年度新規業務および2018年度の特定業務への対応	1. 大学認証評価への対応 2. 安全保障輸出管理の体制の確立 3. 知的財産管理への対応 4. クォーター制点検WG事務局 5. 人類研/宗文研図書室の図書貸出への対応 6. 人類研/宗文研図書業務の委託への対応 7. 社倫研/地域研究CのJ棟への引越	(大学認証評価) 課内のみならず、事務部長会議等を通じて、事務職員に情報を提供できている。 (安全保障輸出管理) 関連する規程を整備した。また「南山大学安全保障輸出管理規程」において体制を規定し、整備した。併せてこの制度に関連する学事課にも制度の説明を行った。 (人類研/宗文研図書室) 臨時職員の配置場所を変更し、業務内容の統合を進めている。 (J棟引越) 問題なく実施した。	(知的財産管理への対応) 関連規程の原案作成にとどまった。(クォーター制点検WG)積極的に関わっていない。	B	特になし	(知的財産管理への対応) 2019年度中に関連規程を制定する。(クォーター制点検WG) クォーター制については、教務、学生、留学など学務部に関わることが多く、教育・研究支援事務室がその制度に関わることは難しい。2019年度については、事務局も検討されているとのことなので、結果を受けて対応していく。	
3	各種委員会・会議運営	1. 自己点検・評価委員会 2. 内部質保証推進委員会 3. 外部評価委員会 4. パンパ研究奨励金配分委員会 5. FD委員会 6. 研究審査委員会 7. 研究所総合委員会 8. 各研究所所員会議 9. 地域研究センター委員会 10. 各地域センター会議 11. 各センター/博物館運営委員会	それぞれの担当者が委員長および所長、センター長の指示に従い、問題なく実施している。 内部質保証推進委員会は2018年度設置の委員会だが、運営方法、議題など、委員長および副委員長に提案できている。 外部評価委員会は、3年ぶりの開催となり、前回の開催事務を担当したメンバーが全くいないなかでの準備と開催だったが、問題なく実施された。	特になし	A	特になし	特になし	教育・研究支援事務室 週間予定 教育・研究支援事務室ミーティング記録